道以前

井村清著

259.
126

東京

同志同行社發行

0042017000

0042017-000

259.5-126-(8)

道以前

井村清・著

同志同行社

昭14

AHB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

帝國圖書館藏

同志同行叢書 第八編

道以前

井村清著

昭和十四年十二月五日 帝國圖書館藏本

259.5
126

自序

昭和十三年十一月恩師芦田惠之助先生の御巡錫を得て、本校第二回大發表會を開催致しました處、來會者將に九百八十幾名に及び、大講堂は爲に身動きもならぬ盛況、師の道のいよ〳〵榮ゆく姿を現實に見て、只々感激に耐えず、限りなき歡喜に浸りました。

其の後師の鞄を捧げて大阪に御供する內、計らずも腸チブスに侵され、病床に横たはる事二ケ月。或る日は生氣を失ひ天上蓮華藏の世界に悠々羽化登仙、或る日は焦熱地獄に落ちて苦悶懊惱人間苦の極限を味はひました。

斯くして時に意識我に歸り、來し方を思ひ浮べつゝ、時なり命なりと靜に諦めんとするも諦め得ざるものは、二十有六年の間全靈を打込みて養ひ得たる我が教育信念が、此の肉體と共に滅びて行くかと思ふ事で、一度之を考へれば耐え難き煩惱が起ります。

天祐にも命冥加は未だ盡きず、薄紙を剝ぐが如く順調に向ひ、隔離室より放免せらるゝや、たゞちに制止する醫師の眼を盜み、妻を督して諸記錄の整理にかゝりました。

凡人の平凡記錄何の見るべき價値もありませんが、此の道以前は私に取つては替へ難き遺言であります。凡そ如何なる事を爲さむとするにも、先づ事前の心構が大切なるが如く、恐多き事ながら大御寶の心身を預る教育に於ても、此の道以前の構を怠りますと、童師徒なる人間力の浪費となり、偉大なる罪惡を犯します。私は眞實の教育をなさんとして力及ばず、其の前奏曲たる道以前の工夫に、一生を過ごさんとしてゐます。考へて見れば愚

にも教育の事前工作をなすため、教育界に生れ出た様なものです。

前任校千松尋常高等小學校と本校に於ける道以前の實際を集めて整理しました。生命の弱り果てた時の記錄など混亂を通り越して悲哀をさへ感じますが、何かの記念にもと老師の御袖に縋り、勇敢に上梓しました。

まだ〳〵書かねばならぬ事が澤山殘つて居ますが、最早これ以上は時間が許しませんから、此の邊で禿筆を擱きまして、次の機會を待ちます。

昭和十四年七月七日支那事變
勃發二週年の朝加茂名校に於て

井村清

序

私どもの同志同行中には、人材が極めて多くあります。奇才も少くありません。著者井村君の如きは、まさにその一人でございます。

井村君かつて沖垣君の名著「人・教育・學校經營」を評していはく、「我が志は全く沖垣君と同じだが、沖垣君の道を行ぜんとする者は、その以前に伐開かねばならぬ荊棘の一境がある。これに手をつけないで、直ちに沖垣君の道を行かうとしても、多くは暗礁に乘上げて、進退きはまる時が來る。」と。これは、君が今の徳島市千松小學校長として、鋭意その經營にあたつてゐた頃だつたと思ひます。爾來千松の經營といひ、加茂名小學校の經營といひ、私は君の業績に、幾度驚の目を見張つたか知れません。

私は、この書の著述を井村君に強請せずにはゐられなくなりました。井村君は之を快諾して、極めて多忙の間にこの書をかきあげてくれました。私はその稿を貪り讀んで、君の極めて廣き世界を見、また極めて細心なる工夫を見て、幾度襟を正したことでせう。全く時の移るを知らずして讀耽りました。

私は此の機會に、井村君の全貌をうかゞふに足る逸話を一つ紹介しておかうと思ひます。君がある小學校長として赴任した時のことでした。最初の職員會の時、職員一同から「校長の學校經營の方針がうかゞひたい」との議が起りました。すると井村君は眞顏になつて、「たとひ校長の經營方針をきくのでも、ロハでといふのは蟲がよすぎる。皆さんがたつて聽きたいといふならば、講習料として各員壹圓づゝ納め給へ。」といひました。事の

意外に一同目をまるくしましたが、素直に醵金して差出しました。十日ばかりの後、井村君は、沖垣君の著書「人・教育・學校經營」を各職員の机上に一冊づゝ配付しました。さうして「私の學校經營の方針は、この書の中に明記してあります。少しも違つたところはありません。どうか精讀して、その實行を工夫して下さい」とあつさりやつてのけました。一同は開いた口がふさがらなかつたさうです。事は笑話に近いやうなことですが、井村君の全貌をこれほどよくあらはした話はないと思ひます。

さきには我が手で沖垣君の「人・教育・學校經營」を發行して、我が小學校の經營に貢献しました。今また井村君の「道以前」を發行して、沖垣君の書と相まつて、小學校經營の圓滿なる發達をと祈願してゐます。この兩書が我等同志同行の手に成つたことを斯道のために嬉しく思ひます。何としても學校經營の當事者が、その眞精神を解せずしては、國の教育は論ずるに足らないと思ひます。

昭和十四年九月十日
小樽市緑町沖垣君の宅に於て
芦田惠之助

目次

第一章　難行二十有餘年……一
第一　新を追ふ者は盲目……一
第二　探し當てた教育……四
第三　自覺の機緣……六
第四　教育は弱し……七
第五　自己に映る自己の姿……一一
第六　自覺に導く易行の道……一四
第七　根　接……一八
第二章　道の建設……二一
第一　道ありて道なし……二一
第二　登　校……二三
第三　音……二七
第四　朝の御掃除……三〇
第五　役生集合……三三
第六　職員朝禮……三六
第七　學校朝禮……四〇
第八　下　駄……五七
第九　傘……五九
第十　朗　詠……六一
第十一　禮……六六
第十二　教室の出入……七一
第十三　學用品の始末……七五
第十四　机……七八
第十五　聰……八七
第十六　晝　食……九一
第十七　晝　會……九七
第十八　帽子と鞄……一〇〇
第十九　修　業　苦……一〇三
第二十　級　長……一一三
第廿一　掃除の本質……一一八
第廿二　教室經營……一五〇
第拾三　明日の打ち合せ會……一五七
第三章　學校建築易行道……一六〇
第一　學校建築……一六〇
第二　建築四十年計劃……一六五
第三　建築と校長……一六七

目次

第四講堂……一六
第五校長室……一八三
第六職員室……一八八
第七室の色々……一九一
第八購買室……一九九
第九小使室……二〇三
第十便所……二〇六
第四章　道の外郭……二〇九
第一　學校組織……二〇九
第二　學級編成……二二五
第三　時間割編成……二六一
第四　學級經營案……二六四
第五　反省考査……二七七
第六　學校經理……二八六
第五章　讀めるまで……二九二
第一　死に値する罪……二九二
第二　國語亡國……二九六
第三　師……二九八
第四　七變化苦……三〇〇
第五　文字苦……三〇四
第六　特設時……三一二
第七　兒童より教師……三一四
第八　手と鞭……三二九
第九　理會に立つ……三三六
第十　邪道の讀方……三三〇
第十一　持ちたき物は……三三三
第六章　和の教育……三四四
第一　天賦……三四四
第二　劣等生……三四六
第三　努力を認める教育……三五一
第四　秀才は育つ……三五五
第五　特能教育……三五七
第六　特別訓育兒童……三六一
第七　知も亦惱みの坩堝……三六四
第八　校長の親心……三七〇
第九　新任教員……三七一
第十　新校長……三七三
第十一　向三軒兩隣……三八二
第十二　校長なき學校……三八四
第十三　和……三八七

（おわり）

道以前

井村清著

第一章　難行二十有餘年

第一　新を追ふ者は盲目

思へば長い夢でした。大正二年三月師範の第二部を出た私は「何時でも止めてやるわ。」と云ふ氣持で、方角さへ立てず夢遊病者の樣に只教育道を漫歩して居ましたが、どうした因果か何時とはなく教育と云ふ事が面白くなつて來ました。三學級の複式學校でありましたから、教案などとても毎日立てる事が出來ませんので、日曜日に作るに限ると心得てせつせとやつて居ました。一生懸命になればなる程、行く先が眞暗になつて來ます。「何のために教育するのか。」「何故此の樣な方法をとるのか。」と自ら行じて居る事に疑を持始めました。何としても自分の行つて居る事に自信が持てなくなつた位、此の世の中に淋しいものはありますまい。辨當抱へて家を出て、空の辨當箱さげて歸つて來るのが教育か、一生を投込まんとする教育が果して之でよいのか。惱は日々に嵩じて來る計りでありました。

丁度此の時でした。先年勇退せられた兵庫縣明石女子師範學校の萬年名主事及川平治氏が、動的分團的教育法を公にせられましたのが。あの活々とした口調と方法で、沈み切つた大正初期の教育界へ呼びかけられたものですから、難かしい

用語を無理矢理に讀入り讀みこなし、一氣に其の教へのもとに飛込んだものです。迷つた者の行き方はじつに美事なもので、講習を追廻すやら、附屬へ何週間も坐込むやら、息をもつかず努力致しました。御蔭で、學校は次第に活氣づきまして、人樣からは變つた學校だ、活氣のある學校だと評しては下さいましたが、私には何處となしに空虛なものがありまして、どうにもぴつたりとは來ません。然しながら及川氏の投げられた一石は教育界に大波紋を渦まき起し、忽然として惰眠より搖起されました。智慧者達は雨後の筍の如く、海外の教育思想を紹介するやら、直に勇敢に行じて見るやらして、百花爛漫の春が來ました。

其の內でも私の心を引いたものは、奈良の教育で、今でこそ其の眞價を知りましたからさう有難いとは思はなくなりましたが、及川氏の上を行く所謂兒童中心主義。又しても近いに任せて何度も御邪魔するやら、練達の士の御越を願ふやら何とか其の眞髓を掴み度いと足掻きましたが、愚な者の常でせう、やればやる程腑に落ちぬ或物が出て參ります。あの鬪爭的學習法を、あの差別觀に立つ教育法を、餘りにも深く形計りに入込みました私は自分乍ら全く持て餘してしまひました。然し世の中は樣々で只一筋に無上の教育法と突進する方もあり、果は騷然市場の如き學校、議場の如き學級が數限りなく出て來ました。御本家では眞精神も知らずにと、御笑ひの事とは存じますが、支店分店は中々左樣な騷ではありません。幸か不幸か私の地方は奈良の天領とでも申しませうか、誠に風變りの景觀を呈して、花やかなもので御座いました。

世は更に移りまして、鰺坂氏今の小原氏が時の成城學校に立籠りまして、新々教育の旗擧げをせられました。今では先生の行き方も餘程の方向變換をして居られますが、其の頃の勢は總ての道德と教育の鐵則の再吟味を始められまして、修身に讀方に綴方に算術に理科にさては唱歌圖畫とすべての教科に及び、其の新鮮さには教育者は勿論心ある親迄が皆瞠目時代は移つたと嘆聲を洩しました。其の同志の方々は筆に口に教育革新を稱へられ、在來の教育法を完膚なき迄にこき下し、其の行ずる所吾々凡人には想像すらした事のない誠に奇想天外とでも申すべきものでありました。爲に先生の著書や雜誌は洛陽の紙價を高め、天下到る所に影響し、全日本の教育實際界に深く根を下し、驚くべき變化を起して來ました。定見なき私は御多分に漏れず著書と云ふ著書、雜誌と云ふ雜誌は一冊殘らず集めて見ますし、遙々膝下に二度三度御指導を仰ぎ、分つた積りで、勇敢にも兒童に當つて見ましたが、どうにも融け切れぬ物が殘ります。日本の教育はこれでよいか。かくして育つた子供が更に求むる物は何か。將來の社會は何と變化するだらうと二の足を踏みだしました。

斯の如くにして教育界を襲ふ嵐は後から後から起つて來まして、刻々動搖、秋の日和の如く定まる所を知りません。目まぐるしいとは此の樣な事を申す爲に出來た言葉の樣です。

若さに任せて疲るゝ事も知らず新を追うて居る者の心を更に惹きましたものは、此の間他界されました手塚氏の千葉師範に於ける旗擧げでした。あの主事會議に於ける花やかな宣言「自由教育」の美名により、全日本の言論機關を躍らせつゝ教育界に其の眞價を問はれました。時代が時代、あの自由主義萬能の折柄とて、燎原の火の如く燃上りました。新教育を口にする人達は、千葉へ千葉へと參ります。幾度となく實地について御教示を仰ぎましたが、尙物足らず、同志數名相計つて御來駕を乞ひ研究を積みましたが、成城に似て成城に非ず、奈良に似て奈良に非ずとは申されますが、未熟者は只々迷ふのみでありました。

斯くの如くにして大正昭和に亘り、永年の間教育思潮に追はれつゝ何か新しい變つた事が教育だと心得まして、走馬燈の如く後へ後と廻轉する思潮の洪水に溺れつゝ喘ぎ〳〵怪しげなる歩みを續けて來たと云ふ憐さは何と云ふ間抜けた姿でせう。今にして思へば誠に一場の夢に過ぎず、實に感慨無量なるものがあります。明石、奈良、成城、千葉の各流、其の理論に於いては皆完璧を期し、各千里の差を持ちて他を排擊し合ひ、自己を高揚せられます。丁度どこかの國の督軍時代

の様に其の領域を守り、末寺末社の一つでも多き事を望み、一指だも觸れさすまいと花々しい論爭を續け、果は安來節大會か選擧の立會演說の様な珍芝居迄で企圖せられる様な世相を呈しました。

然るに一度兒童を前にしての實際の教育となりますと、不思議にも其の手段が同一で、何等の差違がありませんのですから、まるで狐につまゝれた様なもので、未熟者には何が何だかさつぱり分りません。絕對反對者が同一の事を同一の方法で行ひつゝ有る姿は笑止と申しませうか、滑稽と申しませうか、誠に天下の奇觀でありました。

私は盲目的に遍歷する事將に十有幾年、歩み疲れて靜に來し方に思を巡らせば、次から次へ湧き起つて來る物は自己の愚さと、教育界先輩諸氏の無責任の言動に對する限りない反感とであります。何時とはなしに教育思潮なるものに愛想がつきて來ました。「人を馬鹿にするない。」と云ふ反抗的氣分さへ湧いて來る事をどうする事も出來ません。

第二　探し當てた教育

丁度此の頃かと思ひます。故澤柳博士の還曆紀念祝賀會が催されましたので、懷疑思想に迄落ちた私は、此の機に是非と決心し、親しく御尋ね申し御教示を仰ぎますと、老博士は靜かに語出されました。

「抑々現代の初等教育者は氣でも狂つて居るのではないでせうか。何でもよい人の驚く様な事を申せば偉いとでも心得て居るのでせうか。柄にもない大問題にぶつかつて行つて、大風に灰を蒔くに等しい事を平氣でやつて居る。殊には純粹學的領域に迄何等の基礎もなく無遠慮に突入して、何か一つの問題を得ると生嚙りとも御存じなく、さも一大發見をしたかの様に吹聽して居られる。又思つても抱腹に絕えぬのは自分が外國語の少し出來るに任せて、飜譯教育を自己の創作かの様に天下を說巡つてゐる。失禮乍ら學者として一家をなし飯を食つて居る者が一生かゝつても尙解決の出來ぬ様な事を簡單に結論づける勇敢さ、それも只口先許りの議論なれば暇潰しにもよからうが、之を實際教育に行じて見る現狀に到つては、狂氣の沙汰とでも申しませうか。とても、眼のある者は正視する事は出來ません。將來の日本を思ふ時じつとしては居れない様な氣持がします。專門家には專門家の領域がありますし、實際家には實際家として守るべき分があります。決して自己の分を越えて道を踏誤つてはなりません。貴君のやうな實際家は、あの騷然たる論議に迷はず、自ら定まる所に落ちつく迄待てばよいのです。泡沫教育論は其の內に消え失せませう。何と申しましても每日の仕事の一つ一つに深く考を致して見給へ、問題は手近にいくらでも山積して居て、本統の教育は其の邊に殘されて居る。」と諄々と諭されました。成城學校の育ての親であられる老博士から誠をこめて話された事が、實に意外でもあり、且つ又激しく內に潛む心を搖動かして止みませんでした。

教育の思潮に中毒して、教育の方法に道を失つて居た者には考へれば考へる程博士の御言葉が有難くてたまりません。一つの大きな推進力を御授け下さいました。

以來考へる事、なす事が小さくなつて來まして、教室への出入りはどうすればよいか、兒童の列び方はどうするか、机の列べ方は、掃除は、本の持ち方は、雜記帳の使ひ方は、漢字はどうすれば教へ易いか、九々の徹底方の調査法は、と云ふ様な事が本統の教育に入る關門である事に氣がついて來ました。五里霧中に漂流して居た者が、朗かな東方の白みに會つた様なもので、何とはなしに安心が出來まして、同僚諸君にも自己の心境をよく話し、兒童にも行じて貰つて見ますと、何時の間にか落ちついて來るのが眼に見える様で、秩序ある靜かな學園が日々に成長してきますので、自分には健やかに育ちつゝ有ると思はれ、嬉しくてたまりません。永年迷ひに迷つた教育が此の様な足下に有つたのが、マーテルリンクの白い鳥でも有るまいが、よい加減馬鹿を見たものだ。「やれ〳〵、これでよい。之でよいわい。」と云ふ氣持になり、安心

しきつて幾年か經營して來ました。

第三　自覺の機緣

渦卷く教育思潮の荒浪を餘所に、やゝ安心の體に過して居ました或日、誠に私の教育生活上記念すべき日が來ました。忘れもしません私が職員便所から出て來た時でした。教師の命令でさも素直に一生懸命、傳板（つたひいた）に雜巾がけをして居た數名の兒童の內、誰かが

「先生はよいなあ。」

と、低い聲で私語いてゐるのがふと耳に入りました。それは

「僕達にはやかましく云つて掃除をさせて置き乍ら、御自分達は便所へでも何處へでも上履で平氣で行かれる。何と勝手なものではないか、橫暴ではないか。」

と云ふ意味だと、直に受取りました。私は其の瞬間立ちすくみ、釘づけにされた樣になりました。樫の棒ででも思ひ切り後頭部を擲りつけられた樣です。世に電擊と云ふ事があるなれば、實にあの樣な事でせう。喪心したかの如くふら〳〵と私の室へ歸り、やつとの事で机にはつきましたが、何とはなしに涙が出て止らず、泣けて〳〵仕方がありません。嗚呼吾過てり、誠に過りたりき。人の子を賊したる事果して幾人ぞ。吾の信じたる教育は又も誤りなりしなり。此の期に及んで何とすればよいものぞ。實に取返しもつかぬ愚なる事を行じたもの哉と、失望のどん底に迄一氣に轉落してしまひました。安心の花園より奈落の果に。若き日郡長樣に呼出されて、

「君の樣な者はやめてしまへ。」

と、怒鳴られた時でも此の樣な氣持は更々ありませんでした。今尙萬物靜まれる時、ありし日の事共を思ひ出しますと、身の毛もよ立つ思ひが致します。

度重なる教育的破產であります。もうよい加減に御奉公も結末をつくべき時であるものを、今更立直し等と思つた所で望洋の嘆の深いものがあります。然し乍らよく〳〵考へて見ますと、私の教育生活は果して幾年か、或は幾ケ月か。もう左樣に餘裕はありますまいが、後には新進氣銳の方々が數限りなく居られますから、誰かがついでくれませう。何として も此の貴重なる悟りの一點を、教育實際界に打たなければうそだ。今からでも決して遲くはないぞと氣がつきますと、一大勇猛心は燃上つて止みません。

悟り顏で行じて來た經營は、教師獨善の教育でした。いつかの時代の官僚群の方々の樣に。一方兒童も亦只命ぜられては働き、叱られる事が恐ろしくて精出して居るのでした。ほめられたさと一番でも成績順位の上りたさに、營々としてさも勞作を好むが如くいそしんで居たのでした。誠に上辷りの教育でもあり、何時の間にか教師威壓の教育に成下つて居ました。兒童が仕方なしに恐入つて居る事を知りもせず、さも天下太平に教育實踐の本道の樣に考へて居た淺はかなる每日でした。自覺なき盲目の教育、驚くべき暴虐の教育でした。

始めて悟り得た喜は、私にとつては釋尊の悟にも似た有難いものでした。この悟が絕えず心に鞭打ちつゞけて勇猛心は燃えさかつてやまず、十字軍に赴く信徒の如き感が日々につのつて來るのをどうする事も出來ません。何とすべきか。何とかせなくてはならん、と勇み立ちます。

第四　教育者は弱し

第一章　雜行二十有餘年

教育の實際が思つた程實質的に進展しないのは、制度も關係して居るだらうし、爲政者も負はねばならん大なる責はある事でせうが、それよりも尙重い責任を、道德的にも教育者がとるべきではありますまいか。考へて見ますと、卒業して間もない頃は若さに任せて反省らしい反省もせず、夢の內に暮してしまひ、稍々事情が分つて來ると自重と稱して老成ぶり、實は意氣消沈、二十年を越す頃となれば、愈々弱體四方八方に氣兼して、當然申すべき事すら言ふ能はず、勿論なすべき事をも頗被りして、ひたすら一年なりとも自已の職業的壽命の長からん事を念じ、良心の命ずる事さへ斷行し得ず、あまつさへ故なく教育道を踏みにじられても、觀念の眼を閉ぢて一言の抗議さへなさず、なほ且つ對外者に媚びて、無理にも好感を得んとこれ勉める淺間しさ。教育者たる誇すら忘れ果てて、自治體の使用人かの如く身を落し、月俸さへ戴けばそれでよろしいと生悟りの平然たる姿は、今日の教育者の內に溢れて居はしますまいか。

好んで奇を申す者では決してございませんが、教育者としてはこれ以上退いては教育が立たぬと云ふ一線があるべき筈です。よし何人にせよ、此の一線を侵さんとする時が來ましたなれば、敢然立つて物申すべきであります。對外的に此の自信を失へば、學校の威信忽ちにして地に墜ち、教育は知識の切賣り以外に何物もなくなつてしまつて、教師は一種の體のよい居候と化し、優柔不斷卑屈の代名詞が教員と云ふ事になりませう。一年長ければ月百圓年一千二百圓儲ける事が出來るのだと云ふ商賣根精の多い只今が、慨嘆に堪へないのであります。大學を卒業した許りで世の中を知らず、妻もなければ子供もなく、教育が何であるかさへ知らぬ御上の偉い方々に、法理論一點張りで政治的解決と稱へ、土木や保險と同樣に決裁して行かれてたまりますか。何故立つて大臣に知事に部長に課長に自已の信ずる教育的意見を述べないのでせう。官吏服務規律にも意見の上申は明瞭に許されて居ます。教育に關する限り誰が何と申しても私達が正確なのです。二十年勤めれば二十年の貴重なる經驗があり、三十年すれば三十年のかへ難き教育文化財を持つて居るのであります。一年何圓と正の事のみ算用して何でも彼でも辛抱して行く時は、我等の生命たる教育的信念は誰が受けついで行つてくれるのでせう。二十年の人は二十年で終り、三十年の人も其の所謂名譽ある退職と同時に教育的生命は脆くも消え失せてしまひませう。御上の方々は行政宜しきが故にあの老練家さへ一言も云はずにと、治績大に擧り、榮轉に榮轉を重ねられます。

部下、職員諸君は誤つて「よき校長。」「線の太き校長。」「腹の太い大人。」と喜んではくれるでせうが、何年か蓄積して來た何物にも換へ難い生命と賴む文化財は傳へるすべもなく、自已は其の時を最後として滅び、退職後は過去のよい人を看板に保險の勸誘員となり、學校用品屋となつて行く。これで人間としての生命の尊さがどこにありませうか。自已の信念を上へも下へも敢然として上申し或は傳達してこそ、自已が今迄教育界に生を受けて來た意味をなすものではありますまいか。

私の家は百姓で、專門の庭園植物と柑橘は可成やつてゐます。私が教育界へ深入りしてからは、一寸も家業を見返らぬものですから、氣の毒に父は七十を越えても尙番頭や女中を督してやつて行つてくれては居ましたが、時々はしみ〴〵と

「御前に挿木の奧傳と剪定の祕決を讓つておかねばならん。私も此の年何時終るかも知れないからなあ。」

と云はれた事がありましたが、其の都度

「はい〳〵、かうして居ましても每日拜見して居ますので、大體は心得てゐます。」

と申しながら、內心では勿體ない事だがあれ位の事はいざとなれば何の苦もなく出來るよと高を括つて居ました。所が四年前七十二歳で世を去られました。然も平然「春寒や霞も見えず法の道。」と一句を殘して、息子は何でも出來るわい、我事終れりと大往生されました。

定めて倅は聰明、父七十年の百姓の「こつ」は皆知つて居るぞと大安心で逝かれたのでありませうが、豈計らんや私には

さう容易に參りません。家内や番頭を指揮し人夫を督して挿木をやつて居ますが、父の百發百中に對し百發五十中とも行きません。父の時以上うんと金をかけて肥料もやるし、自已流に剪定も致しますが、溫州蜜柑は一向によい實が出來ません。どうもいかん、かうやつて行けば次第に兵糧の方に事を缺き出して來よう、兵糧戰線異狀ありでは落ちついて教育が出來兼ねる。これは足下に火がついたわいと大混亂、篤農家に指導を仰ぐやら、園藝學校へ視察に行くやら、さては雜誌圖書を漁るなど中々神妙にしては見ましたが、年毎に南風競はず、家運の衰退をどうする事も出來ません。何がさて專門の教育一つ受けて居なかつた父の家業さへ繼げぬ不肖の子と成り果てた私が、あせればあせる程不結果に終り、赤字〳〵が年々に出て來ます。何程挿しても、剪定しても、本を讀んでも、尋ね歩いても、父の七十年の文化財は父一代で消滅、倖の私とは幽明境を異にすると同時に、何とも仕方のない有樣。あゝ惜しい事をした、實につまらぬ事をしたと、今に後悔致しては居りますが、一向先には立ちません。

此の苦しい體驗を得て以來、自已の信じてゐる事に益々確信を得ました。我等教育者は年をとり、經驗は豊富になり、地位も上れば上る程、四方に信念を開陳する一方、後進諸君には生命を打込んで開拓し得た教育の本道を、何恐るゝ事なく傳へておかねばならんと堅く信じたのであります。斯くしてこそ此の教育界に御世話になり、人間一生の精と魂とを打込んだ初等教育界が限りなく發展する唯一の根源だと存じました。

かゝる信念を持ちますが故に、二十幾年消磨しつくした此の身ながら、今更に勇猛心を奮ひ起して、何とかせん哉と力むのでございます。

小學校經營に於て根本的に築替へねばならぬ事は、教員各自が自覺すると云ふ事です。不覺のある所、必ず非教育的な諸行が山積し、さも吾意を得たりと安心して居た處でも、子供の心は次第にあらぬ方に行つてしまつて、表面とは反對の成果を得るものです。思へば罪深き事を續けて來たものです。正に死に當るものと深く我が心を打つてやみません。

第五　自已に映る自已の姿

人間は實に不思議に出來てゐるもので、何とも思はねばこそ何事もなしに二十何年を過して參りましたが、一度目醒めて自已の姿を見返しますと、丁度生れながらの失明者が回生の手術によりまして奇蹟的に光明を得たのと同じ樣に、すべての物の再吟味が始まつて參ります。昨日迄否只今迄自已の理想に近いと得意であつた事までが、百八十度の回轉をして來まして、見る物聞く物心なき事の連續となり、己の姿其の物さへ持て餘す始末、何たる醜惡ぞ、穴でもあれば入り度い樣な氣がします。

スリッパで平氣で便所へ行き乍ら、何の反省もなく直に教室へ出て居る人でも、兒童が過つて一寸裸足になり直に傳板へでも上らうものなら忽ち一喝。公共の物は大切にすべしと申す口の下で事務机の上で、紙を裁つために教育の切賣り其のまゝに刀痕鮮であつたり、清潔整頓を校訓や級訓に麗々しく掲げて居ながら、職員室には蜘蛛の巣が張り渡し、硝子など拭はれた跡さへ見えず、机の上は混亂掃溜めの如く、煙草の吸殼・密柑の皮・鉛筆の削り屑など目も當てられぬ不始末、兒童の教室よりは數等汚れた床板、子供達が寒さにふるへつゝ雜巾持つて掃除しても露有難いとも思はず、硝子戸一枚開けてやらぬはまだよい内、女教員迄が椅子にふんぞり返つて雜話、かはいさうに子供は御邪魔になつては相濟まぬと鼠の樣に教師の机の下をはい廻つて行く後から直に紙屑捨てて尙平氣。教師の煙草盆を見たまへ、吸殼と紙屑と燐寸のかすとが共同生活の連帶責任を持つて居たり、冬の大火鉢には火箸は誰がした事か曲りくねつて物の役にも立たず、吸殼は林立、教室へ行かれた後を見るに誰一人として火を埋めて行くだけの心の餘裕がなく、椅子は自由教育其のまゝに留守の

職員室にのさばり返り、實に人を教ゆる者の住む部屋とは思へません。あゝよくも此の内で暮して來たものだと、今更に身毛もよ立ちます。

教室はと見れば、教師は兒童の正面の上座に巣くひ、指導机と稱する物の上へは色々な物をうづ高く積重ねて居り、御掃除に床板は拭ふらしいが、何年經つても天井は其のまゝ、何處も同じ秋の夕暮に似て雜巾の總攻撃を受け、所謂自由教育の象徴か一面の地圖模様、定めて父祖何代か續けて來た合作の校寶でもあらうか。環境整理と稱へて貼りつけた年代表たるや、星移り色變り埃にまみれてあやめも分ぬ有様、掲げられた書方や圖畫の成績は何ケ月かの磔の刑、色もいつかさめ果てて何が何やら分らぬ有様、丁度間抜けの神主が御座る繪馬堂其のまゝ、一度だつて美と云ふものを考へて見た事のない様な不始末、それでも學級王國と申し自已の城廓と心得て居る情なさ、誠に兒童こそよい迷惑と申すべきです。兒童の雜記帳はやかましく申されますが、御自分の板書と來ると文字にも成つて居らず、亂雜の標本とも申すべきか。正しく黒板さへ拭ふ事が出來ず、其處にも此處にも白い文字の跡や半分消えた繪が殘つてゐたとて、夫を何とも思はず、氣をつけぬ兒童が悪いと云ふ有様。時間嚴守をやかましく云ふ御自分が、始業の合圖が校内に鳴響いて、兒童は待機の姿で居ても職員室の雜談は中々にやまず、火鉢でも出る頃になると、何分間かを値切る事が普通となり、兒童達は寒風に吹きさらされつゝ、硝子越に尻を温めたまふ師の君を拜さなければならず、話もやつと一段落がついても、さてそれから煙草を一服召上つてやつとの事で御輿が上ると云ふ重々しさ、兒童にはやれ試驗だ、それ宿題だと仕事を強ひ乍ら、御自分は何々訓導や前何々高等師範の偉い方々が金儲け主義に内職された教授書其のまゝ持つて、平然と壇に立つて恥とせず。子供は其の範に習ひて全科詳解を丸寫しの雜記帳を作つたり、宿題の解決したりして提出する。黒板には參考書其のまゝの算術を板書しても、よく出來たと擔任者から賞辭を受けて面目を施すと云ふ珍妙さ、百年河清を俟つても此の定石は微動もしないと云ふ現狀、其の結果は毎年の徴兵檢査に軍部より初等教育者健在なりやと、鳴物入りで高らかに放送されても、一言半句の意見も出ず、何としても情ない次第、更に笑止なるは教室は神聖なりと口僻の様に申さるゝ御當人が、夏毎にいかに暑くても、紳士で御座ると威儀を正して登校されながら、職員室に入るや否や上衣を脱し、ワイシャツなればまだよい方、半シャツ一つとなつて教室に行かれる勇敢さ、何と言行の不一致なる事よ。何故教室こそ服裝を正して道を行ぜないのか、職員室こそ其の校教育の發祥地、自已修養の道場として已を慎まざる。むしろ大道こそ輕快に颯爽として上衣を脱して濶歩して然るべきかと存じます。昔は香を焚いて清めた教室へ頭髪亂れて蓬の如く、無精髭は針金を思はせ、何ケ月も水を知らぬカラ、ネクタイはよれ〳〵の物を片一方の隅に申譯的につけてゐたり、兒童には服裝檢査迄してやかましく申さるゝ方がダンサーか女給の眞似をして得意然と壇に上る。いやもう眼に入る物すべてが醜悪の連續。かくては一時たりとも教師で御座ると兒童の前に立つ事が恥かしくなつて來ます。

かゝる師を戴きますが故に、子供は學年の進むにつれて、心は教師より離れ去り、入學當初には神と思はれた教師が、いつの間にか渾名を持つて呼ばれたり、掃除が上手に出來て教室は光ると喜んでも、兒童の泣きの涙の光であつたり、學校には深山の靜けさが有る本統の教育はこゝからだと力んで居るが、彈壓の爲の僞造の沈默、子供の思想は救ふ可からざる方向に雪崩をうつて走り去つた結果、學校は只字を習ひに行く所として存在し、知識の切賣り場として滿足しますものですから、世間では小學校の成績など當にはなりません。只中等學校の内申にさへ都合がよければよいのですと、廣言する親が出來たり、小學校は妙な所だ、先生達が悪い子だ出來ない子だと申された者が、不思議にも社會に出ては立派な人間になり、優等生だ保證しますと云はれた者が實に劣悪な人間であつたりして、社會と小學校とはとても一つの尺では行けぬらしいと、勝手に結論づけられつゝあります。

思へばこれ皆教員自身に潜む惡のすべてが、教へ子に移行したのです。自分さへ出來ぬ事を平然と云放つて、いたいけな兒童に求めつゝ有つたのであります。兒童は相當眼が開いて來ると共に、師の無言の垂範により人間の裏を行く事にのみ興味が出來て來るのでせう。これでは人は育ちますまい。よく恥も知らず長年月教育者と申して、人の上に立つて來たものです。

第六　自覺の導く易行の道

此の年が來て始めて悟が出來たなどと申す事は實に何とも申譯のない御恥しい次第であります。「自已を修めざる者は師たる資格なし。」「自已の行ひ得ざる事は人に强ふ可からず。」位の事は私とても遠の昔より心得て居たつもりではありましたが、よくも百害あつて一利なき教育を長々の間行じたものです。今となつては、幾千人とも知れぬ教へ子の親達に顏を合す事さへも何だか恥しい樣で、愛想笑をして下さるのさへ、私の本心を見拔いての嘲笑かと氣が引けてなりません。然しながら心の曇りがからりと晴亘れば殘るものは果して何。只自覺行あるばかりです。此の時位易行道をうれしく讀んだ事はありません。何年も積重ねてありました同志同行を、再び三たびむさぼる樣に讀返させてもらひました。さうすると今迄に思つた事もないものが心の奥から湧上つて來て、上げ潮の如きたゆみなき偉大なる力がひし〳〵と迫つてきます。昨日とは變つた意味で文字の一つ一つが輝き出します。私はひそかに今からでもまだ遲くはないと、思定めました。よし幾何もない教育生活でありましても、二十有餘年の末やつと悟り得た此の教育道を、後進者諸君のために御參考に供したいと云ふ意が日々に燃上りまして、私のなすべき方向がすつきりと定まつてきました。此の頃より心境一變して、筆に口に何物をも恐れず、自ら信ずる道を利害得失を餘所にして及ばずながら實行しはじめました。

自覺の道に立つ時、今迄の教育は何も彼も大廻轉をせなくてはなりませんから、なさなければならぬ事が洪水の樣に身邊に押迫つてきます。何から手をつけようかと思ひ迷ふのでしたが、先づ第一番に浮んで來ました物は、思出も深い自覺の機緣を與へてくれた職員便所です。あれを出發點として教育改造をなさんものかなと、此所へ下駄を三足入れましたが、職員諸君は何の事か意味が分らぬと見えて、之を踏越えて用を足され、下駄が邪魔になつて困る樣です。いつも三足の下駄は用もなげに人を待ちつゞけるばかりです。二間四方の白タイル張ですから、上履のまゝ行けば明瞭に自已の足跡を汚點として殘さねば出て來る事が出來ないのですが、長い間の習慣と云ふものは恐ろしいもので、どんなに跡がついたとて平氣なものです。何とも仕方なく、私は人の居ない時を見計つて、雜巾がけをはじめました。驚き呆れた小使は校長先生がなさらずとも私共がと、進んで何時でも加勢してくれますが、度重なる內には小使も腹を立てまして、

「先生ともあらう者が校長の雜巾がけをする所へ上草履其のまゝとは。」

と、申しますが、

「まあ待つてくれ、今によくなるよ。」

と、根氣くらべです。然し流石は職員便所です、土方や大工の來る所ではありませんから、毎日誰するともなしに美しくなる此の白タイル。不思議だなあと云ふ疑問も起るし、又何としても美しい所へはいかに勇敢な方であつても、上履の儘では參れません。何時の間にやら下駄が役目を果せる樣になつて、外を通つて居ても、朗かにからころと云ふ音が聞かれる時がきました。私は何とも申さず小使にも口止めして約三月間、其の日を待つて居たのですから嬉しくてたまりません。同僚諸君も次第に眼が開いてくれたよと、潜に感謝はしましたが、殘念な事には三足の下駄は常に亂れて、どれとどれが一組かさへ不明になります。仕方なく番號を入れて見ましたが、別に効力はありませんものですから、默つて役にかゝつ

て直しはじめました。一日に何十回となく此の行を積みましたが、これで私には嬉しい仕事なのです。目を開けてくれた所ですから、少しも苦にはなりません。只根かぎり精進致して行きますと、一度ならず二度三度と積む行が、何時とはなしに同志の胸を打つたのでせう。何ケ月目かにやつと安心の出來る樣になりました。半年もすると決して亂れるものではないと云ふ自信が持て出しました。外來者など他の二足が正しく所を得て居るのを見ると、知らず識らずに誘はれてか、正しく自分の物を直してくれるのが常となつてきました。

始の內は職員諸君も笑つて居ました。內の校長は便所の番だ。流石に百姓の出、植木屋だけだわいと冷笑したり、譏つたりする人もあれば、又氣でも狂つたのではあるまいかと心配して下さる方もありました。殊に女教員諸君などは變な顏して眼を丸くせられ、御互に警戒せられてゐました。然し同じ事が度重なつて來ますと、そこに自ら敬虔の念が湧いて來るものと見え、次第に手を借して下さる方も出て參りまして、何時となく、誰云ふとなく、便所は我等の有難い修養所だと化して來ました。校長の心境變化は自ら職員が覺られまして、一言も申さぬに自得されて、誰でも下駄に手をかけて下さるし、何時の間にやら雜巾がけもして下さいまして、小使の仕事をなくしてくれます。笑つて批評的に見て居た風變りの方も、最早省みて他を云ふ隙がなくなつて來たので、飄然行じてくれる樣になりました。其の頃でした小使がしみ〴〵

「校長先生私には仕事がなくりました。」

と、申しました。

便所の下駄が正しく揃ふ頃が來ますと、校內すべてが次第に樣子が變つて來まして、職員登校は日に日に早くなり、教室へ行つて兒童の來ぬ間にと自ら雜巾持つてくれる方、誰も知らぬ間に職員室の掃除をやつてくれる人、職員の事務机を丹念に揃へて埃を拂つてくれる人、新聞雜誌閲覽臺を根氣よく整頓してくれる人等後から後へ美しい事が出て參ります。

柱も天井もいつの間にか光つてきます。あまり有難いので一度でもよい職員諸君より早く來て見度いと思つて努力致して見ましても、駄目です。私が早く出れば尙々早く出られるものですから、只の一度だつて一番乘は出來ません。愚なる校長は職員諸君が何時頃に出られるかさへ判りません。實に迂遠と申しませうか恥かしい次第です。然し乍ら自ら省みてぢつとしては居られませんから、獨りで今日こそは今日こそはと試みて見ましたが、いくら力みましても駄目ですから、一つの名案を考出しました。それは宿直の方に同宿願ふ事なのです。かうして居れば一番乘に間違なしと起出て見ますと、同宿の首席は早ゐません。又やられたかと廊下へ出ますと、顏を洗ふより先に早教室へ、これはまあと驚いて居る間に他の方も後へ後へと登校されて、上衣を椅子に掛けては教室へ教室へと急ぎます。皆して子供には雜巾持たせまいと行じてくれます。私はあまり早くては家庭も困らうと心配して度々申しましても、一向に聞いてくれませず、

「校長先生これが嬉しいのです。有難いのです。」

と、申されます。此の至誠は必然と兒童の心を打ちました。子供も決して負けては居らず、先生には雜巾持たせまいといじらしくも行じてくれます。まるで童師の行の競爭です。風も寒く氷の張る頃になりますと、師は子供に手間かけさすまいと勞れば、子供は師に水汲ませまい、雜巾持たせては罰があたると一足先に出ると云ふ始末、美しい人情の花が學校一ぱいに咲出して、知らぬ間に床板は光り出します。米國材の廊下でさへもが朝日を受けて輝き出したのです。

始業前に校舍を一巡して此の有難い光景を見る時、子供や同志の手を押戴き度い心で一ぱいになります。何時の間にか全校和やかになり、融合つてがつしりと一體になりました。之を總親和總努力と申すのでせう。此の力は更に父兄をも教育しまして、參觀に來た母親が子供に誘はれて朝の行を積んでくれ出しました。數名の親達が子供と共に雜巾持つてくれる景觀を想像して見て下さい。涙なくして果して何人が見て居られませう。每日來る外來人も履物を揃へ、埃を拂ひ帽子

を脱いで這入つてくれます。誰もが教へた事も申した事もないのですが、實に妙なものです。よく出入して我等の心の糧を運んで下さる久米と云ふ本屋樣など、

「此所の職員室は頭が下る、這入る時は一度服裝を正さねばならん。」

と、申します。實に偉大なる力は全員の行であります。溫い學校を、和やかな學校をと彼岸にのみ見て居たものが、次第と自分の足下に近づきつゞけますので、天國へでも來た樣な思で、日々これよき日と送つて居ます。

一德なれば萬德なる。日々に同志が行を重ねて居る內に、嬉しい事が一つ一つと出來上つて來ます。天國は案外近い所にありました。思ひの外道は坦々として居ますので、何故もつと早く目が醒めなかつたかと惜しくてたまりません。それにつけても、老師の御教を思ひ浮べては、頭が下るのみです。

教育の要諦は童師の自覺にあり。と云ひ切る事が出來る身とはなりました。あゝ一德なれば萬德自らなる。誠に一德に成功すれば、其の後は道坦々、春の野を行くに似て居ります。

第七　根　接

私は可成の柑橘園を持つて居ますが、樹齡が進んだり或は此の頃の樣に管理不充分で鐵砲蟲が根へ侵入したりすると、今迄靑々として居た樹勢は次第に衰退しまして、見る目も傷しうなります。此の時私共のとる回生の手段は根接より外はありません。畑を持つて居る者は先づ此の樣な事があるべき事を豫想しまして、年々と枳殼の實生を澤山作つておきますから、溫州畑を巡視してこれはいけない。と云ふ心配なのがありますと、根接の時季を待ちまして、枳殼の苗を親の傍に植え、兩方の幹の形成層が出る樣に表皮を取去り密着させて縛りつけておきますと、やがて親子一體となります。よい頃を見計らひまして、苗の幹を密着して居る所から切離すのですが、何と之がために親木は靑々と樹勢をとり返しまして、壯年期の姿が再び見られます。然し健氣なる苗は茂れば必ず一人前となるべき將來を投捨てて、親木のために一本の根として一生を終るのです。若し不心得を起して途中から芽でも出さうものなら、直に親木の運命は迫つて來るのです。これは誠に我等に御奉公の仕方を教へて居るのではありますまいか。

家と云はず學校と云はず國家迄も、其の構成する一員が何時如何なる所ででも、自已を無にする潔よさがない時は、秩序は保たれず、繁榮する事は出來ないでせう。常に自已を第一線に立てゝ、忍耐も努力も要するに皆自已の爲であつたなら、どこに和が生れませう。かゝる人達が社會より卑めらるゝは當然の事と存じます。靜かに思を回らしますに、世界中で日本程社會の秩序を重んずる國はありますまい。古來歐米人の不思議がる切腹とても、自已が社會の秩序を亂したと云ふ自責の念の表徵であります。社會の秩序を何より重んずるから、自然と個人を無にせなければなりません。つまり生活の秩序を完成するためには人間は意志的に無となる度胸を養成せなくてはなりません。思へば日本の一切の文化は、此の無の單純化から唆出したものでありませう。もし地球上すべての文化が完成するなれば、此の自已を無にする行の形態によるのでありませう。つまり知性の到達出來る一種の限界まで行つて居る此の自覺により、義理人情の完璧さのために、最早知性は他の國の樣に必要がないのではないかと存じます。若し必要と申しますなれば、夫は自然科學の方面ではないでせうか。我等の以つて規範とすべき行の實際は、神代以來國民の前に現實に示されて來て居ます。我々は理窟を申す前に自已を無にして他に求めず、默々として行じて行く時我等の教育道は限りなく進展するのではありますまいか。あの禪海がよく古洞門を開き得て、光明の歡喜に躍上つたのも何等變つた事はないと存じます。

思へば今迄私が進んで來た道は誤つて居ました。あまりにも言論家の新說を眞に受けて、日本の精神の何れにあるやも

見定めず、徒らに知のみに走り過ぎました。知あれば一切萬事わからぬ物はないと考へてゐました。知ある者をこそ賢者と申すべけれと、愚にも若さにまかせて考へつゞけて來ました。然し今にして思へば、知はやはり知でありまして、知識の極致も尙惱みの坩堝であります。思へば永い〳〵迷ひの道を踏んだものです。あの荊棘の道こそ、自ら求めて易行も棄てた、憐なる者の行く姿であります。

第二章　道の建設

第一　道ありて道なし

芦田老師の教へ給ふ道にいそしまんとする者の一番苦しむ事は、よく御話を聞いて居ると彼方に道は見えながら、いざとなると、それ迄渡行く道のない事です。何からどう手をつけてよい事やら、とても方角が立たず、悟る事は出來ても、打立つべき一點、端緒がありません。丁度活動寫眞を見て居ますと、映寫幕には樣々と人を豐かにする映畫は見る事が出來ますが、それがどうしてあのフイルムから出來るのかと云ふ點なのであります。道に入らんとする者が搜し求めるものはフイルムから映寫幕へ繼ぐあの光線の道であります。時に煙草の煙や塵埃のまに〳〵に直射する光を見る時、觀客はあゝあれが道かと合點が行くものです。あのみちが判らぬ限り、活動寫眞なるものは只彼方の影にあこがれる憐な群集に過ぎないのでせう。

教育道はたしかに分りつゝも、之に移るべき道のない位情ない事はありません。私は道以前の道を何とかして見つけ出し度いと、こゝ數年努め且つ苦しんで來ましたが、今やつと光明を得まして、前任校千松尋常高等小學校に行じて見て、これなるかなと自得しました。更に本校に參りまして、再び道を建設、これなれば更々間違ひあるまいといよ〳〵強い自信を得ました。

あの活動寫眞の直射線を握る事は、とても一苦勞であります。それで大方の教育者諸君は芦田先生と申せば、うんあの

七變化かと片付けてしまつて、老師を讀方の技術を教ふる一介の技師の樣に思ふてか、自已の學校の道を興さずして只七變化のみいそしまれ、壇のみに熱注して壇の裏に潜む老師の偉大なる教育精神を逸し、一線を引き得れば早我が事なれりと誤り給ふ方が眼に入る度に、吾が師にも相濟まねば又教育者としても默つては居れない事なのですから、私の信ずる道以前の道をものするのであります。

第二章　校

照る日も曇る日も、三三五五嬉しげに語らひつゞけて、學校へ學校へと四方から集つて來る兒童の群程、世にも賴もしい風景はありますまい。彼等の顏に限りない喜があります。光があります。誰一人學校を厭ひ、今日も亦いやな學校へと云ふ曇つた者を見ない、有難い子供の國日本です。何と申しましても子供は先天的に學校を好むのでせう。

「行つて參ります。」と云ふ聲は朝々子供を持つ家毎に聞えます。いかな間抜けた先生でもこれを申すに不贊成の方はありますまい。所が不思議にも、學年が進むに從つて、其の聲に張りがなくなつて、蚊の鳴く樣な憐なものとなつて來ます。あの一年生の時の樣な眞心のこもつた聲を何故持ちこたへる事が出來ないのでせう。學年の進むにつれて、全く反射的無自覺の行となり終るからです。朝の始から本統の人間の行が踏める樣にせないと、輕卒と浮薄が町に村に滿ち滿つる樣になつて來ませう。嬉しさに滿ちた子供らしい聲が出る樣に、母姉の教育にもぬかりの無い樣に致さなければなりません。

「いつて參ります。」に第一義的の響を持つ者は必ず「お早う御座います。」に生命のこもつた聲が聞えます。「お早う御座います。」は子供同志や長上に對してなすべき道であります。所が中々思つた樣に出て來るものではありません。始の程は兒童を集めて「必ず御友達同志にも、長上へも忘れては許しません。」などと强制して見ましたが、一向に利目がなくやつと出來ましても、御つとめの聲でいつ迄待つてもよい、子供らしい、生々したものは聞く事がありませんので、一工夫しました。

子供より引出さんとする物は、先づ教師より實行するのが常道です。教師相互の挨拶が第一義の聲で出來ない樣だつたりすると、何程力を出して見た所が方向が誤つてゐますから、いつ迄待つても朗かな聲一つ出ません。此の點を同僚諸君によく理會してもらつて、耳から口への實踐を始めました。

途中で兒童に出會つた時は教師から

「お早う。」

と、呼びかけてやりましたら、どの子供もにこ〳〵して張りの有る聲で

「お早う御座います。」

と、返してくれますので、私はしめた、と思ひました。出る〳〵、いくらでも出る。今迄は出ない樣にして、出ない〳〵と苦しんだのでした。もし「お早う御座います。」と返つて來ましたなれば、教師は正しく帽子を取つて答禮してやる事を忘れてはなりません。丁寧過ぎる位にしてやつて見なさい、子供も一生懸命になつて來ます。若し此の時過つて帽子も取らず口先ばかりの挨拶でもしようものなら、折角の試も一時で崩れてしまひませう。然し中々これだけでは全校兒童が行ずる迄には參りません。やりかけたら途中で止めては訓練は成立ちません。どこ迄もやり拔く事が一番です。

私の學校では校下を數區に分けて、職員各々分擔して居りますから、地方擔任は一週に一度日を定めて、登校指導に出ます。正しく挨拶が出來るか。左側通行が出來るか。正しく登校して居るかを見るのです。子供は學校へ向いて來るのだし教師は逆に迎へに行くのですから、盡くの兒童に時間を置いて幾人かの先生の顏が合ひますから、此の時どの子供にも

帽子を取つて、笑を含めて朗かに

「お早う。」

と、投げかけてやるのです。かうやつて居ますと、何時とはなしに校下全體何とも云へぬなごやかさに滿ちて來ます。此の間も町の有志が來られて、

「此の町内でとても嬉しい事が出來たよ。つい此の間朝起きぬけに、齒ブラシ咥へて門まで出てゐると、どこの子供かは知らないが、どの子供も私の前を通る時、腹から『お早う御座います。』と云つてくれる。いや何だか身の内が溫まる樣な氣がして一日中嬉しい、これに味をしめて僕は用がなくても、毎朝子供の『御早う御座います。』を受けたさに門前で待つて居るのです。實に氣持のよい事になつて來ました。今迄は朝寢坊のせいで此の味を知りませんでしたが、『早起に三文の徳あり』とか、私は嬉しくてたまらないのです。先生恐ろしいものです、子供の朝の挨拶は内の職工を教化してくれました。一度だつて親方の私に挨拶もせず、すうと來てはすうと歸つて居た連中も『御早う御座います。』が申せる樣になりました。妙なもので朝の挨拶が出來だすと、夕方の『左樣なら。』が物になります。私は何と御禮を申してよい事やら、子供は實に本町を教化しつゝあります。『負ふた子に教へられ』とは此の事でせうか。」

と、涙して申されました。

近所の學用品屋の主人は、

「子供が家へ買物に來てくれますと、必ず帽子をとつて『御早う御座います。』『左樣なら。』と云つてくれますので、家中が電燈がついた樣に明るい氣がします。いやもう何と申してよろしいか、芽出度い事です。」

と、喜んで呉れます。

澄み切つた腹からの「御早う御座います。」が出來る迄には、斯くも教師の垂範と努力がいります。いつでも若しか忘れて過去らうとする一年生などあれば、後から

「お早う。」

と、投げかけてやつて見なさい、滿面笑にして

「お早う御座います。」

と、むくいてくれます。斯くして子供達は無心に町内を教化しつゝ、學校へ學校へと急いで來ます。

校門を入れば正しく立止つて、御眞影奉安殿と我等の校舍に朝の感謝を捧げるのが人を教ふる者、道を學ぶ者のなすべき本道でせう。奉安殿は申す迄もありません。毎日自已を伸してくれる校舍であり、師の君在す校舍ですもの禮を捧げずして何と致しませう。話しながら御申譯に一寸頭を下げる樣では、何の爲に禮をするのか、全く意味を失つてしまひます。私がさる有名な附屬へ參觀に行つた時新任の主事樣は

「君本校の兒童の奉安殿に對する禮を見てくれ給へ。ピョコンと頭を下げて話しさへ止めずつか〳〵と歩むあの輕卒さあれで將來がどうならう。殊には本校は本地方の知識階級又は富有階級の子供の集りです。近頃の附屬は教科經營を第一義に於て人を集むるが故に、知識は殘つても人間的教養は下る計りです。」

と、概嘆されてゐましたが、いざやるとなりますと、中々此の域から脫する事は、むづかしいと見えまして、ついに榮轉せらるゝ迄ピョコンとする御挨拶より出た所を拜見が出來ませんでした。一粒選りの教師と兒童を持つ特別の學校でさへ、主臨部も自覺しつゝ尙且つ行じにくい事ですもの、道にいそしむ者はよく〳〵腹をきめてかゝらねばなりません。

又此の禮を境として帽子は右手に持つたまゝ教室へと進み行く樣に致しませんと、平氣で廊下へでも教室へでも帽子の

まゝゐて耻としない樣になります。これが引いては、他人の家へ行つても平氣で帽子のまゝ座敷へ上つたり、長上に遭つても帽子取らずに挨拶して見たり、國歌を聞いてさへ脫帽の出來ぬ國民を作る根源となるのではないでせうか。

兒童相互の禮でも、そのまゝ打捨てては自然と出來るものではありません。隨分と骨を折つたものです。殊には每日兒童のために働いてくれる給仕君や、小使樣に、「お早う。」と投げかける樣にする爲めには更に一苦勞です。あらゆる計畫や職員會より、只實行する事が一番有効でした。敎師が

「給仕さんお早う。」

と、小使にも給仕にも申してやる樣にしましたので、子供達もいつか引かれて來てしまつたのです。

思へばあの校門で每日繰返す禮一つは、云ふに云へない苦勞を重ねて居ります。先づ職員會で全職員に何故校舍に禮をするのであるかと云ふ眞精神を丁寧に說明し、方法迄示し卽日實行を求めましたが、敎師でさへ中々です。翌朝登校する職員諸君を靜に見て居ますと、第一どの邊で禮をしたのが正しいかに迷つて居るし、頸卷のまゝの者、手袋共のまゝ、煙草を咥へてゐる者、さては立止りもせず帽子のまゝで勇敢にやられる人、やれ〳〵敎師と子供を同時に始めないでよかつたと、寒心しました。事をなすには何としても敎師の先行を鐵則とします。大體職員諸君の實行が出來る頃を見計ひまして、全兒童を集め

「每日私共を育てて下さる、なつかしの校舍。此の校舍がなかつたら私共は何と致しませう。畑の中で机につかねばなりますまい。暑さ寒さも平氣で凌げるのも此の校舍の御かげでせう。每日ありがたいと御挨拶すべきではありますまいか。先生方は遠の昔から始めて居ります。」

と合點させまして後、各學級擔任は兒童を引率して、自ら實踐此所に止つて帽子を採り、校舍に向つて眼を注ぎ、正しく頭を下げて更に三呼吸位立止り、校舍に注視して、始めて正しき第一歩を踏出すのですよと、會得させるべきであります。事をなすには理會が第一なのです。一人〳〵の理會のない事には何としても大衆は最低位の行動しか出來る物ではありません。何としても一人〳〵の實習を致しまして、個々に手を入れるのがよろしい。只漫然と一齊敎授で判りましたね。と小學校敎員の平常型を出して行きますと、折角の實習も亦駄目となります。一人〳〵行じさせて、指導し訂正してやる間他生は縱隊で參觀する熱心さが必要です。一度出來たから安心だときめ込んでは大間違ひです。絕えざる注意がいつとはなしに性格に迄なるのですから、各學級に實習が終りますと訓育部の者が每日門まで出て根氣よく指導してやります。それもいや〳〵の御役目式では本物は出來ますまい。喜び勇んでにこ〳〵しながら子供を待ち、校門の禮が濟み次第、此方から御早う。と呼びかけてやる位の豊さがなくては、かなひません。地獄の門番の樣に唯小言と否味だけに終始しては學校は朝から荒れます。よく出來た者にはよろしい。と共に喜んでやりなさい。

校長が門の脇まで出て行くのは、いかゞと存じますが、校長室の內から感謝を込めて見てやるべきです。これさへ見れば、自校の訓育がどの方向に進んで居るかが、はつきりして來ます。只威儀を正して茶を飲んだり、新聞見て居たりする事が校長だと思つて居る內は、道の建設は覺束ないのです。

第三　音

間もなく掃除はじめのサイレンが鳴響きますと、學校全體一人も殘らず直立不動、靜の極致となります。當地では一般人は御多分に洩れず阿波時間と稱へまして、平氣で時間を尊重致しませず、遲刻など普通の事に考へて居ますので、子供へも決してよい影響は致しません。此の多忙な時世に一人の時間を尊重せない者が、どれ位人々に損失をかけるかは今更

申す迄もありません。時間を尊ばぬ原因は何でせう。今鳴る鈴は、今鳴るサイレンは何を意味して居るかと云ふ事に無自覺だからです。何とかして子供に自覺を呼起させたい、合圖はそれが始りの事であつて決して豫告ではないと云ふ事を知らせたいと、永い間考へあぐみましたが、名案もなく其のまゝで來て居ます內、或年横內（靜岡市）へ出した視察員が解決してくれました。それはサイレンと共に直立不動となる事でした。斯く行じ出しますと、いかに間拔けた者にでも、今何を報じて居るかと云ふ事が蘇つてきます。靜かにも靜かに聞き入つて餘韻も聞きとれぬ樣になつた時、靜かに步みはじめますと、見る間に集合も出來れば、仕事も始められます。合圖を準備だと心得ますから、更に今一度號令をかけねばならんのでせう。

毎時の集合にしても所定の處に集つても、がや〳〵と烏合の衆其のまゝの光景を呈し、級長は何度も、氣を付けをやらねばならぬ淋しさになります。これで仕事を始めるのだとの自覺は子供のみに求めず、必ず教師が自ら率先行ずべきです。兒童と共に便所の內でも、井戸端でも、二階の段に片足かけて居ても、夢忘れてはなりません。教師の音に聞き入る姿勢が出來て、始めて全校正しき型が出來上ります。殊に職員室で喫烟したり、雜談にふけつて居る時など誠によい切上げ時です。此の間も萬年筆の行商人が來まして二三名修理を依賴して居ましたが、サイレンと共に直立、音に聞き入る態度をとりますと、不思議に萬年筆屋樣も直立不動、話はこれで打切りとなります。尙彼氏が續けて行き度いと思へば、今から四十五分待たねばならぬと諦めます。

兒童はどこまでも子供であります。一度出來たら、それが何時迄も續くものであるなど考へては忽ち幻滅を感じます。根氣よき繰返しによつてのみ性格となるのです。之を行じ拔くためには始に時間前全職員が出て、サイレンの鳴るを待つて子供と共に直立するのが一番よい樣です。校長も日に一度や二度は運動場へ出て、子供と共に行じ得る朗かさを持ちますと、何となく校內が氣持よく行きます。校長が常に校長室で頑張つて居る樣では、する事皆机上の空論となつてしまひよし計畫通り出來たと思つても、學校は何時の間にか冷藏庫の樣になつてしまひます。常に第一線に進み、朗かな太陽の直射を受けて、子供を直視して見ますと、教育の妙諦は自ら湧起つて來まして、「これだ。」と自ら膝を打つ事が度々あります。今の學校位机上の空論をやつて居る所はないと存じます。それは校長・職員共に日蔭人種で日の光を知らず、從つて子供の實際を知らぬ故ではないでせうか。

音に聞き入る態度を作らんとする時、サイレンを使用して居る所では、耳の澄める人程微かな音迄聞く事が出來る、と話してやる事です。誠に心を一點に集注する事の訓練が、人間的の價値を高むるは明かな事實であります。人によりますとサイレンは餘韻が長くて困ると云はれますが、此の利用をすれば、子供は益々落付いて參ります。同じことを行ずる學校でも、落ちつきの有る所と遲緩した所の分岐點が此處に出來ます。心すべき事であります。

私は常にサイレンの音は校長の聲だと聞きなさい。本統なれば私が「皆樣はじまりです。」と申上げるのですが、かう廣くては仕方がないので、サイレンに代理させて居るのですから、皆樣はあゝ校長先生が始まつたとおつしやつてゐると思つて下さい、と繰返してゐます。

行の徹底には教師先づ行ずる事と、個々に亘る指導が根本條件ですが、學校が大きくなればなる程、教師は自己擔任以外の子供には手を出さぬ風がありますから、子供も擔任以外の教師を教師の樣に思はず、引いては父兄達が擔任以外の某々先生が宅の子供に訓戒するとは不都合だ等と云ふ樣になりますが、此の樣な傾向が出來て來たらそれこそ大變です。兒童には總ての先生が皆教へ親であると云ふ信念を持たさなければなりません。此の意味から云つても、どの教師も心から指導してやらねばなりません。若し破る者があれば、其の場を逸せず直に注意するのが訓練の要領です。尙不心得者があ

りますれば、擔任によく話して、間違なく導いてやらねばなりません。

第四　朝の御掃除

兒童は朝自室に入ると、机の中へ書物や雜記帳を時間割通り上から一時間目二時間目と重ねて、時間があれば豫習や復習をして居るのですが、御掃除のサイレンが鳴ると、當番は勿論居合せた者は皆行じはじめます。あちらでもこちらでも御掃除の歌が朗かに聞えて來る。教師が上衣を脱いで雜巾握れば子供は箒を持つ者、水汲みに急ぐ者、誠に和やかなものです。誰が今日の御掃除かなど云ふのでなく、來る子供來る子供がやつてくれます。擔任は子供にさすまいと早く來れば、子供は師に御迷惑を掛けまいと尙早く出て來ますので、うつかりして居る方は出て行くと早くも朝の行は終つて居る。「有難う。」と云ふ外はない、毎日「有難う。」の連續では何程心臟の強い方でも、じつとしては居れぬと云ふ有樣、行ずる者の一大潮流の中では一人や二人の不心得者は立つて行けません。恐ろしいのは流れであります。

然しこれとても始から易々と出來たものではなく、童師骨を彫む行の苦しみを經たものです。明日は誰々の當番ですと命じまして、合點をしたから定めし早くから出てやつてくれてゐると安心して、始業前いや〳〵ながら教室見廻りに行きますと、昨日あれだけ整理した教室が、今朝來た子供にあらされて目も當てられぬ慘狀、朝から青筋立てゝ、遲いと當番を叱る。兎も角之では時間の間に合はんと云ふので、其の邊に來合せた子供に迷惑を掛ける。子供は早く來ても此の樣な雰圍氣に入る事がいやさに、鞄を投出して運動場へ出てしまふ。今一段狡い者は始業直前に出て來ると云ふ有樣で、自覺行は中々進みません。

教師の方でもまだ一段と下があつて、靑筋組など上の部、第一時目まで自分の教室へさへ出て來ない方があります。かゝる人に限つて、尙更前日に嚴命朝の掃除を怠る者は承知しません。操行點を引きますと云ふものですから、子供持つ家庭でも大騷動

「お母樣あすは御掃除だから一時間早く行きます。」

「其の樣な事せなくてよろしい。宅は御掃除に學校へ出してないのだから。」

と云ふ具合。すつかり父兄の考へ迄が間違つてしまひます。

誠に無理からぬ事、師たる者が一段高い所で監視して、丁度刑務所で囚人でも使ふ氣持ですもの、子供にだつて何の喜びがありませう。師たる人が自已を殺す事が出來ぬに、どの子供がよく己を無にして、學級のため學校のためと飛込んで來てくれませう。此の情況で停滯して居る限はどうにも學校は進展致しません。一度師の眼が自已に移りまして、內省・悟を得、氷を破つて雜巾を握出しますと、それこそ妙なもので、皆喜んでついて來まして、

「先生私にさせて下さい。」

と、無理にも教師から雜巾受取り、今迄逃廻つて居た子達が、向ふから働きかけて來て、一度だつて

「誰々樣御掃除して下さい。」

など云ふ必要がなくなつて參ります。うつかりしてゐますと持つて居たバケツを子供が横取りして、井戸へ急いでしまひます。掃くにしても、拭くにしても意氣込が違つて、心で拭いて、心で掃きます。口で掃いたり、手先で拭いて居る樣では、とても長續きはせず、まして光出して來たりするものではありません。此所まで來ますと、父兄は申します。

「お前早く行つてせないと又先生が雜巾がけせられますよ。」

と、子供をせき立てゝ出してくれる頃が來ますと、皆にこ〳〵顏で朝の勤行が出來る樣になります。かうなれば當番など

誠に形式的の事となつてしまひ、うつかりして居る當番など

「御免よ、有難う。」

と、云ふ位が山々となります。こゝ迄進みますと、御掃除のサイレンなど凡そ用のない事となります。

朝の御掃除で特に氣をつけねばならない事は硝子戸の始末です。老師が或年錫を止められて申されるには

「寒國へ行くと童師共に、窓の開閉には餘程注意してゐるが、暖國へ巡れば巡る程、此の方面がゆるがせになつてゐる是非親心で見てやりなさい。」

と諭されまして、始めていかにもと悟りました。平生天候と窓については注意はして居る氣ではありますが、やはり手抜かりがあつて、恥かしい次第でありました。いつもながらこの周密で教育全般に亘る御配意有難く拜領して、それ以來は窓の開け方を大開、小開と定めまして、養護係より毎朝指示する事に定めましたので、都合よくなりました。

斯くして硝子窓のさい掛、机のさい掛、床板の清拭き、机は縱横井然と列び、窓は其の日の天候と調和して、始業の合圖を人が待つのではなく、教室が待つて居てくれる樣ですから、朝禮後入室しますと、心も安く落付いて、今日の勤めが出來ます。自已の學級さへ出來ればそれでよいと考へる内はまだ充分でありません。隣の廊下をも手傳つてやる心が湧かなければなりますまい、「ありがとう。」「いゝえ。」と答えつゝ、たしかに運動場へ出て行く子等の顏を見て御覽なさい、生氣に溢れてゐます。喜があります。あの圓滿なる相には此方から頭が下ります。掃除せよと云へば隣の廊下の板一枚拭込んでも損をすると考へて、美事に境界線をつけた頃より、今の境がよけいに光る時までの變化を思へば、あゝよく出來たものと自分ながら感に打たれます。

此の間も或父親が來られまして、しみ〴〵と申されますには

「宅の子供は尋常五年ですが、此の頃女中が掃除して居ますと『僕も拭いて上げる。』と雜巾取り上げてやつてくれますので、まだ學校へも上つてゐない下の弟迄が手傳ひます。それで緣板など美事に光り出しまして、うつかり汚れた足などで上りますと、『あゝ御父樣跡がつきましたよ。』とやられます。始めの程は一體今度の校長の樣に學校で掃除など教へて何になる、早く出て行つて掃除する代りに文字一つでも教へてくれたらよいものをと、内心不服に思つて居ましたが今になつて有難さが判りました。歸つて來れば机の上に荷物は正しく置く樣になつたし、下駄は正しく列ぶし、大人の履物など亂れて居ますと默つて直してくれますので、全く學校の教育には頭が下ります。」

と、述懷されました。朝の行一つでもいつとはなしに鄕土へ喰込みます。

鄕土化實際化を稱へて、立派な鄕土室を作り、鄕土調査と申して澤山の金や時間を空費するよりは、校門を町村の境迄次第に押出して、鄕土全體を學校内に包含し、學校の行ずる處全町其の風に應ずるのがよいのではないでせうか。

第五　役生集合

次の振鈴は、朝の御掃除を止めて運動場へと云ふ意味と同時に、役生の集合を報じます。小使は百間に近い中央廊下を急ぎ足に鈴を鳴らしながら渡つて行く。まだ其の音の鳴り止まぬ内に、監護當番の職員諸君は校長室に集つて來て役生を待つてやります。

此の待つてやる氣持が兒童には誠に有難く、溫く身にしむのでせう。先生に御待たせしては相すまぬと待機の姿勢で居た役生は靜かに速に校長室へ集ります。にこ〴〵した先生方に迎へられて心はすつかりなごやかになり、今日のつとめが嬉しくなります。

もし教師が今日もまだ當番か、一週間はとても長い、何時が來たら無罪放免かと云ふ氣持になつたり、兒童より遲れても平氣で居る樣であつたりすると、此の監護當番と役生の打ち合せの會は冷たいものになります。

校長席の前で、笑顏で待つ監護當番と、我が家の如くなごやかに入つてきた役生とが向ひ合つて、どちらが先と云ふでなく敬愛の籠つた聲で

「御早う。」

「御早う御座います。」

と、挨拶を交し、監護當番主任は昨日日誌を書いた時の打合せ事項の外に、今朝分擔の巡視によりまして更に氣付いた所を話し、

「今日は特にこれ〳〵に注意して協力してもらひ度い。」

と、指導目標を授け、昨日拾上げてくれた美事善行の數々を話合ひまして、

「今日も亦一つでもよい善い事を見出して下さい。」

と、依賴します。

靜に頭を下げ合ふ內には、賴んだぞ。承知致しました。と、云ふ意味が通ひます。

此の時校長からも、

「此の點に注意して戴き度い。此の方面は特によくなりました。」

などと話合ひますと、頓に此の會合はなごやかになりまして、全校一體今日の目標が定まる心地がします。

此の時教師が警察署長の管內巡査非常召集を行ひ、一場の訓示でもする樣な氣持になりますと、如何にも見事な統制ぶりに見えて、時局柄氣持は宜しいが、忽ち兒童に響いて豆巡査を作り、終に陷り易い自負心と高慢性の溫床となります。

役生とは教師の監護當番の補助役で、高等二年生の男女で組織してあります。何故此の集合を思ひ付いたかと申しますに、兒童の役生を作り、任命式をしてマーク迄與へても、監護當番の先生が擔任で無い限り顏も知らず、話した事もないと云ふのでは、すつかり兩者が隔離して、其の間何の連絡も無く、親しみもなく、いざと云ふ場合は勿論、日々の訓育目標の實踐にも役に立たぬ無用の長物となる恐があります。

監護當番は其の日〳〵の實情により適切に指導せなければなりませんから、其の眼光は學校經營に喰込んで來て、平生學級の天地より見てゐた學校を見直す機會ともなりまして、殊に味があります。役生も一校の中樞たる校長室で學校經營に參劃して、校長始め各部の先生方と協議が出來るのですから、名譽ではあるし、責任は重し、勢一生懸命やらねばならぬ樣になります。

本校は可成の人數を集めて居ますから、全校を一部（一・二年）二部（三・四年）三部（五・六年）四部（高等・女子青年學校）に組織してありますので、監護當番も、各部內から學年一名づゝ出しまして、部內十學級を二人で受持ち、一週間繼續して專ら訓育の徹底に當つて居ます。

役生は高等二年の男女中より、進んで行じ得る者、喜んで人の世話の出來る者を十六名選出し、各部に四名配當しまして、一學期間を任期としてあります。此の役生には常に自ら範を示して美事善行をなせ、校內の美事善行を見落す勿れ、監護當番の先生と一體となれ、親切なれと擔任より話すは勿論、學校訓育主任は時々集めて座談會を開き、校長も參加して先づ人を作ると共に、兒童より見たる學校訓育觀を聞き、先の先まで手の屆く樣にすべきです。

授業終れば各部の役生は集合、其の日の日記を作り、校長室へ御立合ひの先生、御指導事項、朝禮晝會の情況、先生へ

の御願、美事善行、指導事項、雜件等記入其の部の當番の方に提出します。各部の當番は兒童の日誌を閲讀の上二名の所見をまとめ、役生指導事項、朝禮畫會情況、關係學級への希望、內外淸潔整頓情況、救護事項、雜件等の日誌記入の上當番主任に提出、更に所見をまとめて學校訓育主任の手を經て學校長に提出する樣になつて居ます。

此の時監護當番主任は四部間の意見を聞き、明日指導すべき具體案を練り、訓育主任と相談の上遺憾なきを期します。

職員の方々には朝出勤簿と共に此の日誌が出て居ますから、閲讀の上捺印、學校及び自已の屬する部の有樣を承知して手落なきを期します。

校長が監護當番の日誌を机上で閲覽して我事成れりと、泰然として居てはなりません。事務など出來るだけ首席に委せて、毎日〳〵或る時間運動場へ出て子供と遊ぶだけの元氣と若さがなくては、つい机上の監護當番となり、巡査見習となつて、和を望む學校も何時しか冷たい恐怖の學校とは成下ります。何と申しましても子供は子供です。つい誤りますと役生にしたために性格上に汚點を印しませう。師ありてのみ子供は育つ、心すべき事であります。

第六　職員朝禮

第二のサイレン、之れは職員朝禮のはじまりと、學校朝禮の豫告であります。此の時刻になりますと全兒童は出揃ひまして、朝の御掃除の終つた者も嬉々として遊んで居ます。これがサイレンの音一つで一瞬靜寂に入らす事が出來るかと心配する程、活潑に騒いで居ますが、一度はじまりを自覺しますと、子等は流るゝが如く實に大河の悠々たる流の如くに朝禮場へと集まつて參ります。

教師は四十に餘る各自の教室から或は運動場から、職員室へと足どりたしかに急ぎます。此の足どりが直ちに兒童の模範となるのですから、注意に注意をせなくてはなりません。兒童とは全く反對の方向に歸りますので、双方充分注意しないと衝突したり足を踏み合つたりしますが、それが有る內は一校の訓練もまだ〳〵です。師の在す事さへ知らぬ無自覺さでは、何をしても賴りない事に存じます。師としましても、どの子供も殘らず輕い會釋を致しますから、何程急いで居ても必ず受けてやらぬと和は其の邊から破出すのです。

校長は合圖のサイレンが鳴る前を見計つて教務室の自分の机で、職員諸君を待ちます。どんなに多忙でもこればかりは怠り度くありません。丁度役生指導の時に監護當番が役生を待つのと同じ氣持で。サイレンの餘韻の消える時を見計つて

「皆樣御早う御座います。」

と、丁寧に禮をしますと、一同も自席に立つてサイレンに聞入つた靜寂の中から、

「御早う御座います。」

と、申されます。どちらが早く云出すかと云ふと、始めの程は無論校長が先づ申して職員諸君は答える樣でありますが、少し時間が經ちますと、流石は職員諸君です、校長に先言はせてはならぬと、次第に早くなつて間髪を置かず、此の頃では答へると云ふでなく、どちらが早く云ふ事やら私もすつかり分りません。皆樣の前へ出て眼の合ふ時、何とはなしに出るのです。柔かいほのぼのとした氣持が行の上に表れて來なければなりません。所がはじめてやられる方には、かゝりが中々むつかしい事で、職員諸君に話合ふ事にも可成の苦勞はいるし、さて行じて見ますとぎごちなくて、何だか恥かしい、子供じみた樣な感も有りませうが、しばしやつて行かれる內には自分の物になつて來ます。

職員朝禮には小使も給仕も、參觀人も父兄も皆出來るだけ立合つて朝の氣分を正して戴きますと、今日一日學校につどふ人皆が晴々とします。

「お早う御座います。」

と、氣持の落付いた時、唱歌主任これはとてもよい聲を持つ方ですか、かすかに、靜に、次第に力强く鶯が遙の谷間より初音をもらす其のまゝに、たへなる御製朗詠を致します。

いかならんときにあふとも人は皆
誠の道をふめと教へよ

一同襟を正して肅然聞入り、二度の繰返しの頃がきますと、いつか歌に引込まれて、自分の心に誠を堅く誓ひます。朗詠が終ると誰からするとなく一禮致します。これなど何時始めたか誰も意識しませぬ中にさうなつてしまつてゐます。畏多い事ながら　陛下の御車が御通過の時、いつとはなしに頭の下るのと同樣であります。朗詠が終つた時位、爽やかな氣持になる時はなく、只何となく今日もよき日よと自然と心が勇みます。

本校で職員朝禮に此の朗詠を入れたのは、兒童の朗詠を聞いて居ると、何とも申樣もない身體中溫まる樣な氣持がして羨しくてたまらんものですから、幸よい聲の持ち主を得たので始めましたが、有難い行事の一つとなりました。

朗詠が終りまして各自着席致しますと、本日の行事打合せに入ります。前日下校前に首席訓導が校長と打合せて、掲示黑板に主要行事、日直、宿直、出張、缺勤等書出してありますから、必要事項は校長或は首席より說明し、更に各主任より本日行事遂行上なくてはならん事につき簡單に附加して、一日の計が全く定まつてしまひます。

打合せ內容としまして最も大切なる事は、校長として、本日朝禮又は晝會で兒童に話さなければならぬ事があれば先づ職員に納得の行く樣にして置かねばなりません。敎師に何事も云はず、いきなり兒童に申す等は謹まねばなりません。又其の日の指導目標も必ず忘れてはならん事です。大抵の事は第一時に各敎室に話して貰ふ事が一番よく徹底しますから、擔任にメモに書きとめてもらつておくがよろしい。尙緊急を要する　皇室の御事、社會情勢等につき簡明に話しますと、職員諸君の常識は次第に高まつてきまして、學校生活が豐かになります。此の激務の中にあつては職員間殆ど雜談する時間もなし、朝新聞見る間もなしに、社會の狀況を大體認識する事の出來るのは、此の朝禮有るが故であります。

然し兒童は職員朝禮の合圖が朝禮場へ集合と云ふ事になりまして待つて居ますから、長々されてはやり切れますまい。何事も簡明に會得の行く樣話す所に校長の腕が入りますから、充分用意して行かねばなりません。

職員朝禮で特に校長が留意すべきは此の日の職員諸君の顏色です。健康を損じて居る者はないか、昨日迄の風邪は回復して居ようか、自宅に心配事の出來た者はないか、戀愛に身を焦しては居ないか、昨夜の宿醉のまださめやらぬ者はないかと、慈愛の眼で見屆けねば其の日大切なる人の子を安心して托する事は出來ません。殊に學校が大きくなればなる程此の必要がありまして、惱みある者には進んで相談相手となり、病ある者は早期に發見して手あてをすゝめるなど、限りなき親心もて抱擁しますと、職員室は太陽の輝くが如くぱつと明るくなります。

此の間も校長に面談致し度いと來られた保護者と、一寸氣候の挨拶してゐる間に、合圖が鳴響きましたので、「どうです。」と促して、職員朝禮へ出ましたが、終つて校長室へ來られての話に

「とてもよい會合ですね。私は八幡樣へ詣でて神の前にぬかづいた時の樣な氣になりました。あの朗詠を拜聽しては全く虛心になります。實は本日私は伜の中學校入學志願の事につきまして、色々折入つて御無理な御願ひに上つたのですが、いやもう何も申せません。先生の御心の誓を知りました上は、只もう頭が下るのみです。私はこれにて失禮致します。」

とて歸られました。朝禮の力の恐ろしさをしみ〴〵と感じました。

斯くして私達は、毎朝々々心の誓を固めつゝ男々しくも道に入らん哉と武者ぶるひを致して居ます。

第六　學校朝禮

職員朝禮が終ると、全職員は無言の内に眼を歡喜に輝かしながら、大運動場へ大運動場へとたしかに靜かに進んで行きます。此の時校長は誰よりも早く朝禮場へ出る元氣が大切です。

兒童や職員が美事に整列して居る所へ、しづ〳〵と進み行く姿は實に美事で、堂々たる樣にも見えますが、私から見れば實に憐な考へ方で兒戯に類する事です。此の型で行く限り何時までたつても、道に入つた學校は出來ません。

兒童は職員朝禮のサイレンによりまして、所定の位置へ二列縱隊に列び距離間隔を取つて休めの姿勢で待機し、ひたすらに師の君の御越しを待ち、誰一人私語く者もありません。職員が各自學級の前五歩所定の位置につきますと、しいんとして運動場の空氣が何となく引き締り、一分の隙もない狀態となります。二千の兒童五十の職員で三千五百坪の大運動場を埋め盡した樣に見へます時、小使は經驗により機の熟するを見拔きボタンを押せば、サイレンは鳴響き、全員無言の内に氣をつけの姿勢となり、瞑目して餘韻の消ゆる迄待ちます。此の時校長は尙ほ五六呼吸待ちまして、張切るが如き氣の中で靜かに指揮臺上に立ち、更に氣を落ちつけて、全兒童から注ぐ生き〳〵とした、むしろ鋭い位の視線を豊かに受入れて

「お早う。」

と、腹から出る明朗の聲で申しますと、殆ど同時に子供も

「御早う御座います。」

と、澄切つた然も確な聲で、あたかも一人が行ずるが如く、全校に響けと申して、正しく頭を下げます。

全兒童の視線が再び師の眼に歸つた時其の日是非話さねばならん　皇室の御事や國家の大事を決して長々とならぬ樣、要約して話します。眞綿で首を締める樣な事や、大喝一聲怒髮天を衝く勇壯なる訓示は無駄な事です。學ばんと道に志す本心は忽ち消失せるでせう。只然し職員朝禮でも申した其の日の目標は、豫め言葉を要意して簡明に傳へ、壇を下りますと御製の朗詠が始まり、それが終ると朝禮は終ります。

校長が動き出しますと同時に、兒童入室の行進がはじまります。かく申しますと何でもない樣ですが、今日を得る迄には實に筆舌に絶する苦心と、長い〳〵時間を費しました。今過ぎ來し方を振返つて見ませう。

もと〳〵本校は長い間の習慣で、白旗の標識を出しておきますと朝會の有ると云ふ約束ですから、兒童は心の用意を致します。次に二默鐘が鳴りますと、全員朝會場へ。やつと揃ひますと當番の先生が指揮臺に上り「氣を付け。」「前へならへ。」「直れ。」「禮。」これより校長の訓示が長々とあつて、次は體操主任が指揮臺に上り「體操の體形に開け。」「ラヂオ體操用意。」「始め。」と二回繰返し「元の體形に集れ。」「禮。」「前へ進め。」の號令によりまして入室と云ふ事になつてゐました。

教育は永遠の生命を培ふのであり、久遠の生命「道」のために一日〳〵の建設である限り、今迄の朝會ではならぬと氣がついて以來と云ふものは、常に內省を怠らず、自已の再檢討を續けますと、どうもぴつたり來ません。子供は遠の昔から教師を御待ちして居る處へ、やつとの事で教師が揃へば「氣を付け。」が一年中繰返されるのですが、それでは集合しても氣をつけなくてもよいのだらうか。遊んで居てもよいのでせうか。本當は待機の姿で居てこそ學ぶべき者の心掛けではないでせうか。教師は常に自覺を失はす爲に、毎日「氣をつけ。」をかけて居る樣に思はれてならなくなつて來ました。それでは「此の氣をつけ。」を無くしたらよい事だと考へつきまして、サイレンが鳴れば直に「氣をつけ。」をして待つて居

なさいと申しつけまして、やりかけて見ましたが、中々もつて何度繰返しましても、號令で育つた者は號令なしでは出來さうにありません。辛抱が出來なくなつてつい大きな聲で

「皆様は盲目ですか、此處に私が立つて居るのが判りませんか。」

と、吐鳴らなければ此の場の收拾が出來ぬ日が續きます。今日こそは〳〵と心待ちして居ましても、何時迄經つても靜まればこそ、今度は首席訓導が指揮臺上にかけ上つて「休め。」と大喝します。いかにも集れば氣を付けの姿勢で待てと申し付けてあるものですから、今更「氣をつけ。」とも申されない理、休んで騒いで居る者に「休め。」とかけなければならぬ羽目になりまして、更に「氣をつけ。」と一段と張上げて、やつと隊形が直る始末、全く何とも手の付け様がありません。一週間經つても三週間が來ても何の跡方もつきません。職員間では、此の様に規律がなくなつては困る、本校傳統の方法が何程小學校らしくて良いか知らない。と、不平を申す者、再考慮を直言してくれる者、私もすつかり困りました。と申して今更腰も折れず、これは方向を變へて今一度躍進するに限ると決心して、頭が動いて居ようが、私語してゐようがどうでもよいと腹をきめまして、

「明日からは私が御早うと申しますから、皆様も御早うと云ひなさい。」

と、强制的に命令しました。子供達は、

「明日から禮がないのだと云ふ、どうすればよいのかなあ。」

と、私語し合つて動搖してゐます。教務主任は前校長以來一糸亂れぬ此の朝會、恐らく他に類例を見ない嚴肅なる朝會を打壞して、「氣をつけ。」を除いて只今の混亂に導きながら、更に又「禮。」をやめて「お早う。」一體左様な事が出來ますかと語る。

さう職員間に理會がなくては困る。此間も職員會で御相談してあるではないか。まあそれでは諸君の御意見を拜聽しませうと、會議を開いて見ますと、出る〳〵不平の連發、とても勇敢に直言してくれます。

「本校傳統の朝會を打破り前例を見ない混亂に膺りず、更に又此の改變とは何事ぞ。」

と、云ふ者

「校長は氣でも狂つたのか、それで一校の統制が出來ますか、フアッショも物によりけり。此の大衆を動かすに、間違の獨斷は教育上の外道である。」

と、恐ろしう冠を曲げる人。

「常識で考へて見た所で間が抜けて左様な事が出來ますか、少しは子供の身にもなつてやつて下さい。」

と、云ふ同情家。

「體操の方では大衆を動かすには號令に限るとなつて居ます。只今の様では規律も何も立ちません。」

と、教へてくれる體操主任。私の心の判つてくれる方は殆どない様ですから、成程教師諸君に理會がなく、此の反抗的にさへ見ゆる形勢では、とても兒童に會得させるなど云ふ事は無理である。何とかして職員諸君に道に勇む心を與さねばならんと考へましたものですから、

「諸君の御意見一應は御最もに存じますが、まあよく考へてくれ給へ。子供は教師が『氣をつけ。』と云ふ迄時間が始まらうが合圖を聞かうが何をして居てもよいのでせうか。どんなに氣を緩めてゐても「氣をつけ。」の聲を聞いて始めて不動の姿勢となればよいのですか。只々機械の如く動けばよいのでせうか。かう考へて居る現狀が續けば、人間として自ら氣をつけなければならぬ時が來た時に、誤らず自ら氣をつけ得る者が何人出來ますか。毎日教師に强要せられて何の意味と

も知らず、人がするからと頭を下げるのであつたら教育的に何の意味ありや。いや〳〵ながら叱られるが故に何の敬愛の念もなく、スイッチを入れた機械の如く一齊に前に身體を曲げる。それを私達は眞の禮として受入れられますか。禮とは内に溢るゝ敬愛の念が形に現はれるものではあるまいか。さうして見ると禮の强要、否禮の强奪では我々目ざめた只今では滿足が出來ぬ筈。今迄の强制朝會でも今日になる迄何程の時間を費して來ましたか、最惡の意味に於けるフアッショが强行せられて、教師有つて兒童を見ずと云ふ形で進んでさへ、中々思ふ樣にならず、小言や注意が亂飛ぶではありませんか。それを思へば今少し時を待つて然るべきかと思ふ。三週間や一ケ月でさう痺を切しては早計ではないでせうか、今暫く時を待つて、師たる者は誠を彼等に覺らせねばなりますまい。子供とて「誠」があります。我等が眞心にて臨めば自ら其の道は開けませう。我等は久遠の生命を求めて居ます。瞬間の形をのみ願ふものではありません。」

と、無理押しとも見ゆるばかりに强く出まして贊成を求め、校長と共に流るゝに非ずば、道に近づく事は出來ぬと迄申しました。今となつて同僚諸君が話されます。あの時位校長が眞劍になつて信念に燃え、何と云つても正を取つて動ぜず、腹を据えた事は知らぬ。我々は全く瞠目の形であつたと申します。

兎に角無理押かとは思ひつゝも「お早う。」に定めまして、明けの日よりやつては見ましたが、さあ大變です。指揮臺上に立つたがいつ云ひ出せばよいのか其の機がつかめず、何だか氣恥しくなつて腹からの聲も出ず。子供とても拍子抜けがして「お早う。」とは出ないで只默つて居る有樣、何度繰返して見てもうまく行くでなし、何日待つてもいよ〳〵駄目でした。かうなつては人も笑ふだらうし、自らも次第に自信を失ふ樣な氣もしまして、考へ直さねばならぬかと靜かに悶へた時もありましたが、何、善と信じて一度踏出した此の行をと、思直しては日を重ねて行きました。

壇から滿たぬ心で下りますと、體操主任がこれも困つたといふ色を浮べつゝ「前へ進め。」と云ふ。混亂した心を持つ者の足どりは何とも例へ樣のない雜踏ぶりである事よ。滿員の芝居小屋から亂出る群集の樣で何の自覺もなく、傳板あれば土足で踏み、帽子が落ちて居ても平氣で靴で踏みにじり、下履の脫げて拾はんとする者の上へ後から後から重なり上つて倒れると云ふ混雜、馬觸るれば馬を斬ると云ふ元氣よさであらゆる物とあたかも盲目の徒競走の如くに衝突して行き、富士川の水鳥に驚いて混亂した平家御曹子の軍にも似たる情況、情ないやら腹が立つやら、凡そ私が考へた事とは對蹠的の方向へ方向へと突進して行く樣です。とう〳〵考へ方はよくても實行は出來ぬものかと悲しい諦めさへ出て來ましたが、最後に心に浮んで來た事は、職員諸君でさへ中々理會して下さらなかつた事故に、子供となれば尙更合點が出來ないのだらう。無自覺なる所、過必ず起るの例に漏れないのだらうと考へつきまして、或日指揮臺に上るより先に子供の前へ進み出て、

『いくらつとめても誠は表れず、聲さへ合ひません。聲の合はない事は心の合はぬ證據です、皆の心がばら〳〵の根性であつたなら學校はよくなつて行きません。よく〳〵考へて見なさい、一人〳〵なれば『お早う。』と云へる者が全體となつたら云へぬ道理がないはず。さあこれから私が壇へ上つて『お早う。』と申しますから、皆樣よく私の聲を聞いて『お早う。』と答へて下さい。」

と、涙を込めて話してやり、更に壇に上り「お早う。」と呼びかけますと、此度は皆が答へるつもりでありますから、調もよく聲も大分澄んで來ました。嬉しいの何のと申しても、苦勞に苦勞を重ねて、待ちに待つた產聲です。

「今日こそ本統によい聲です。私が願つて居た聲が聞けました。今一度。」

と、「皆樣お早う。」と繰返しますと次第に澄んだ聲が出て來ます。これはよい、やつと待ちあぐんで居た聲が聞えた。光明が見えたと、其の日の朗かさは今も尙忘れる事が出來ません。

うれしさは宅へ歸つても尙盡きず、あの時あゝやればよからう。かうやればもつとうまくいくのではなからうかと、思ひつゞける內にさうだ校長自身の聲が駄目だ、しつかり腹の底から出さねばならんと氣がつきましたので、大に練習をしておきたいと云ふ心は切なのですが、さてやるとなると家族に聞かれてはいやですから誰も居ぬ座敷で、周到なる注意の內に「皆樣お早う。」と獨でやつて見ましたが、やればやる程自分ながら拙い聲に愛想が盡きます。今迄遲々としてすゝまぬのは大半私の責任であるとさへ思はれます。腹の中から全靈の籠つたものは出ぬかと繰返し〳〵やる身を切る樣な苦心が幾日續いた事でせう。所が來たるべき日がつひに來ました。夕食の膳についた時長男が、恐る〳〵、

「お父樣此の頃少々神經衰弱ぢやないのですか。誰も居ぬ御座敷で、夜毎〳〵に獨りで『皆樣お早う。』と鸚鵡の樣に繰返して居ますね。」

と、申しますと、長女もくつ〳〵笑ひ出して、

「本統よ、私は始め氣でも狂つたのかと、障子のそばへ何度も〳〵行つたわ。」

と、申します。さては皆知つて居るのか、周到なる注意も謀略未熟かと、共に大笑ひしました。

斯くして次第と聲が整つて來ますと、兒童の方も加速度に良くなりましたので、或朝又壇へ上る前に兒童に近づきまして、

「今迄は皆樣が御返事する事になつて居ましたがね、本統は皆樣と同時にするのがよいと思ひますから、私が壇に上り皆樣の顏を一通り見て行きました時を見計らつて『お早うございます。』と云つて下さい。もうこゝ迄來たら必ずうまく行きますから、腹の底から出る誠の聲でね。」

と、充分腹に入る樣申してやりますと、今度は子供の眼が輝いて來まして、前の樣な不安の相と比べて隔世の思がありま

す。氣の利いた子供等は、校長先生に先に挨拶させて居たのを相すまぬと云ふ色があり〳〵と浮んで來た事も見落す事は出來ません。此處まで來ると、日を重ねるに從つて聲は益々澄み、眼の輝も恐ろしく違つて、何千の視線は一瞬にして壇上の私に燒きつけて參ります。餘程腹をきめてかゝらねば氣押されてだぢろぎます。もう成功の域にも近づきましたので、或る日又例の通り壇に上る前に親しみ深く、子供の前へ進寄り、

「朝の御挨拶の聲や眼の色は實によくなりました。誠に嬉しい事ですが、皆樣よく考へて見て下さい。私が壇に立つのは本校の諸先生を代表して皆樣から受けるのです。先生が先に「御早う。」と申したり、又同時に云つたりしてもよいのでせうか。誰から先にせなくてはならんと云ふ事は言はずも知れた事でせう。今日からは先生に負けずになど思つては駄目です。先へ申し上げて、先生に受けて戴くと云ふ氣持になつて下さい。」

と、申してやりますと、子供の眼は益々和やかになります。

もう此の邊迄來ますとしめたもので、始めの內は教師の方は「皆樣御早う。」と申してゐましたが、それではとても兒童について行けなくなりまして、とう〳〵「御早う。」としました。それでも子供より早いと云ふ事は出來なくなりました。

「御早う、御座います。」はいくら朗かに爽やかに申せました所が、禮が正しく出來なくては何にもなりません。丁度ミシンを習始めの人が手を指導すれば足が動かず、足が蹈め出すと手が御留守になると云ふ具合で、立派に物を縫ふ事は出來ないのと同樣です。此の指導にも永い時間と色々の苦勞をしました。

これには氣が合ふと云ふ事が何より大切でして、サイレンが鳴り童師共に不動の姿勢をとつて餘韻の終る迄で瞑目、靜かに眼を開いて見ますと、全兒童の視線は期せずして校長の眼を求めて居ますから、先づ壇に上らんとする者は靜かに靜かに心を落ちつけ、よく呼吸の靜まる迄待たねばならないのです。或は何千もの心の合ふのが判る筈はないと思はれるか

も知れません。そこは理窟なしに「勘」で行くのでして、いよ〳〵自分の氣も落ちつき、全員もぴつたりと來たと思ふ時に、たしかな足どりで壇に上り、更に急ぐ事なく先づ自らの魂を下腹部に集め、子供と教師の呼吸の合ふ時を待つのです。と書きますと何だか神秘的の樣ですが、眼と眼、心と心がぴつたりと合致した時、「お早う御座います。」「お早う。」と、大運動場一ぱいの聲が出て來ます。實に妙な呼吸でありまして、永い間苦しんだ者のみが知る事の出來る味でせう。そこで兒童は正しく頭を下げて、今上り終らんとする時壇上の人の眼も正しく、前方を見、子供の全視線が只一人の眼に集る樣待つてやらねばなりません。此所が中々むつかしいので、よい加減にして壇を下りたら、いつ迄で待つてもよい朝禮は出來ますまい。此の腹さへ出來れば、すべての兒童の頭はぴつたりと止ります。もしどうしても止らぬ時は、全部の頭が上り終らんとする直前「はい眞直に。」とか「止つて」とか、讀方の着語の樣な氣持で申してやります。

輝く眼、動かぬ頭を見屆け、呼吸を整へ悠然として迫らず、整つた足どりで壇を下ります。木曾義仲が昇殿の際、御殿の階を一つ踏越えた事が殿上人に著しく人格を疑はれた樣に、校長の輕卒さは殿上人ならぬ兒童でさへも輕んじませう。心すべき事です。

長い事ながら皇室の御事や國家の大事、社會事情等子供に傳へなければならぬ事は、降壇の前全視線の集まつた時に簡明に申しますし、其の日の目標は僅々數口で傳へます。目標事項は既に前日の打合せに、役生指導に、職員朝禮に知らせた所ですが、全兒童に會得させておく事が大切なので特に此の機を選びます。忘れても山鳥の尾の樣な長々しいものや、子供を硬直させる樣な命令傳達式の內容や口調をしてはなりません。童師共和やかに時には微笑さへ浮ぶのでなければ折角の御話も時間の損となります。叱言などに朝禮の時間を割く事は禁物である事は申す迄もありません。御話が終れば禮を致しますが、それは前と同じに心得ればよろしい。

校長が壇から下りまして童師の呼吸整ふ頃、誰から歌ひはじめるではなく、何千の兒童職員の御製の朗詠が始まります。二回繰返して全校深山の樣な靜寂になり、針の落ちた音でさへも聞取れる嬉しさ。朗詠は教室で全校揃つてする事が最もよいとは存じますが、本校の樣に平屋建で四十學級にも及び、廊下を巡つても一校時を要する樣な廣さでは、最初入室した組と終りとでは十分以上の差を持ちますので、致し方なく戶外の朗詠と致して居ります。これにつきましては、後程項を改めて書きませう。朗詠終れば何の號令あるではなく、靜かに頭を下げて入室の順を待ちます。

二千の魂が相寄り共に今日のよき日を壽ぐ此の朝の行に朝會と名づける事は何だかいやな氣持になりました。會と云ふ意味がぴつたり來ないのです。誰云ふとなく朝禮と申しはじめまして、あゝそれでよしと滿足致して居ます。

次は入室となりますが「前へ進め」の號令なしにいかにして行進をはじむべきか、これにも一苦勞かゝりました。朗詠が終りまして、いつとはなしに頭の下つたのが上る時、急に動き出しては氣分がすつかり崩れてしまひます。子供と向合つて居る靜寂の內にいつか動いてよい時が獨りでに出來てきます。此の自得の機を見拔くのは何と云つても、勘であります。校長がすた〳〵と動出しますと、子供も進み出しまして擔任の居る線まで來ますと、先生が先頭に立ちます。此の時順序を餘程注意しないと混亂におとしいれます。教室の遠近、學年の高低、男女の組合せ等を考へ、更に廊下の廣さも注意致しまして、始めは十六列で二間幅の廊下へ這入り、次第に十二、十、八、六列と分れて自教室に參ります。順序さへ定めておけば、朝禮の隊形の中程から行かうが、一方の端から行かうが、流れには何の關係もないものです。此の時早足で行つたり、樂隊に合せたりする事はいかゞのものでせう。本校は色々やつて見ましたが、此の型の朝禮に合ふのは、正常步ですつ〳〵行くより外ありません。折角靜を求めて來た者が、樂隊などで躍上つてはすつかり壞れませう。

始めの中子供は本能的に寄合へば必ず雜談しますが、朝禮が本格的になりますと、いつの間にかよい流れとなります。

若しいつまでも雜音が去りません時は、順序に無理があるか、朝禮が腹に入つて居ない證據ですから、反省をつゞけねばなりません。只一人の私語が全校の氣持を亂しますから。

眼に餘る程つどひつどつた子供達が、何の淀みもなく流るゝが如く、誠に大河の海に注ぐが如く洋々として、己の位置を正しく守り先を爭ふ如き者は一人もなく進み行く力强さ、賴母しさ、試みに流れの中程に立つても、自覺の足どりは決して行き當る者や足を踏む樣子はありません。校長、首席、訓練主任の樣な人は時々此の流れの中の人となつて見なければなりますまい。共に流れて行く中に、其の頃の全校全童の氣分が朗かになつて來ます。私は常にあの大河の水を思ひます。岩と云ふ岩は殘らずこれに逆らはず、洲あれば更に之に讓り、一寸も無理と云ふものがない。先を爭ふたり後向きに騷ぐ渦卷の無い許りか、塵埃を投入るゝも、素直に之を受入れ、身に餘る大船巨船さへも何の文句なしに浮べて行く。あの樣が子供の流れであらねばなりません。砂場あれば徐ろにこれを廻り、傳板あれば靜かにこれを越え、塵あれば拾上げて進む豊かさ、美しさがなければなりません。

次はラヂオ體操ですが、いかに長い歷史を持つて居るにしても、學校で毎朝せなくてはならぬと云ふ理由を不思議に思つて居ます。いかにも放送局は全國に向つて、勇壯に體操せよと呼びかけてくれて居ますが、それは局の御都合の事故小學校には各獨特の個性を持つてゐます。只むやみに引きずられるもいかゞと考へまして、本校は先年來晝會へ移したのですが、幸レコードも擴聲器もありますので、何の不都合もなく春夏秋冬うれしくいそしんで居ります。

朝禮は靜を尊びます。靜中の動こそ人間處世の祕訣でせう。此の靜を養はんとする朝禮に遲刻生のある事は一番困る事で、一同全精神を耳と眼に集めて居る時、靴の音下履の音にすつかり氣持を崩されて了ひます。勿論遲刻はせないがよいには決つて居ますが、大勢の子供の事故家に病人も有らうし、止を得ない御使も出來ませう。避ける事の出來ぬのはどうしても許すより外はないと思ふが、さて其の子供の取扱には困り果てゝしまう。子供の眼や耳は散易い。何か一寸した切掛けがあれば、あらぬ方へ飛んで行つてしまひます。物に動じない樣に迄仕込んでやる事は、中々一應や二應ではありません。それで遲刻生はもしサイレンが鳴つて居る時なれば、どんな所でも直立不動の姿勢をとり、餘韻も聽取れなくなつた時、靜かに〳〵目立たぬ一處へ二列横隊として集めます。うつかりしますと全く無規律の集合となり易いものです。只さへ遲れて心の亂れて居る者、特に氣をかけてやらないと、終日取返しがつきません。殊に全體の行進をはじめる道筋になど居らせては、一同の迷惑となる事だし、それかと云うて朝の行に參加の出來ぬ樣では子供にも相すまぬと存じます。

朝禮は兒童縱隊に列んだ前へ擔任が向ひ合つて立つて居ますが、不注意の者があつて體操帽を被つて居たり、私語いたりすると、たまり兼ねて指名して注意を促すものですが、之が又全體としては、とんだ迷惑となるもので、つい不用意の一言が全校の朝禮を臺なしにします。若しかゝる兒童がありましたなれば、其の名を記憶して居て、教室へ入りまして充分會得の行く樣に話してやりましたら、又とは繰返さないでせう。注意の亂飛ぶ朝禮ではいまだしと云ふ所でせう。

朝禮場へ師は早く行つてやる親切がなければなりません。他學級は師が來てゐられるに、或學級のみ中々御出がないとすると子供はとても心配しまして、其の隊間から亂始めるのが常ですから、他より早く〳〵と心得べきです。さう考へる時、一番手間の取る物は履物です。普通に職員諸君は、上履と靴の二種で行かれる樣ですが、これでは不足です。此の外に靴の古い物をスリッパとした下履を一足御奬めします。さうすると靴は常に履物箱に納めて居ても、すばやく用が足せますし、朝禮後入室の際にも、自室の昇降迄其のまゝに行く事が出來ます。物は考へ方一つで此の樣なつまらぬ何でもない事が、一校の重大行事に影響するものです。朝禮などで思ふ樣に行かなかつた時は、只其處に許り膠着せず、よく其の來る處を考へて見るのが大切かと存じます。

兒童が登校しますと、直に今日は朝體があるかなきかを知らす事が大切なのです。何事にも心の用意がなくては、腹に入つた事は出來にくいもので、私共が日常茶飯中に不覺を取るのは大低彼樣な時ではないでせうか。本校では宿直員が起上ると直に其の朝の天候を見定めて、校内二ヶ所に標識旗を出します。勿論見易い場所である事は申す迄もありません。白旗は朝禮の有る事、赤旗は朝禮のなき事、赤白旗は朝禮はないが遊ぶのは運動場でと云ふ意味を示してゐますから、子供等は何の間違もなく心の準備が整つて、朝の行が終り次第大運動場で遊戯します。尙役生集合の節は當番教師より朝會の有無につき更に指示しまして、萬一標識に間違なきやを質しておきます。

朝禮の行事につきまして今少しく書きませう。平生は其の日の目標を示すのみで極重大なる事より他何も申さないのは既に述べましたが、月の一日には國旗揭揚と皇太神宮遙拜　皇居遙拜を致します。先づ常の朝禮通り整列し、特に皇室の御事につきて詳細に話しまして、唯今より遙拜申上げると注意しますと、子供は各自服裝を正し、髮をなで靜かに方向變換致しまして、今迄の北面縱列が東面縱列に何の號令もなく變ります。隊の整つた時唱歌主任の指揮で君が代二唱、終つて各自注目の内に國旗揭揚、更に呼吸を計つて何等の指揮もなしに童師一體恭しく頭を下げます。更に直立不動の姿勢に歸りました時校長はしづ〳〵と皇居遙拜所へと進みます。本校では校庭の東部中央に祭壇を設け、玉垣を巡らし、鳥居を建て、松の植込を作り、鳥居へ向つて左側に國旗揭揚臺を作つてあります。鳥居を潛り松の葉陰に直立不動、呼吸を整へて最敬禮する時、彼方の童師一同何の合圖もなしに遙かに誠を奉ります。更に校長の遙拜所より原位置に歸ると同時に廻れ右を致しまして、校庭の西中央に安置したる忠魂碑に對し最先に進出たる校長と共に敬禮を致します。忠魂碑に對しては毎朝大運動場へ出る者は必ず西に向つて敬禮を捧げて居ますが、月の一日には一同揃つて禮拜致します。又毎月十五日には朝の禮が終りますと兒童に教育勅語、戊申詔書、國民精神作興詔書の中何れかを指定して壇上で暗誦させる事として居ます。學年によりまして、奉讀するのが勅語か詔書かを定めてありますから、指名された兒童は敬虔なる態度で暗誦を致しますと、童師全體直立不動の姿勢で拜承します。朝、靜かなる朝、兒童の暗誦し奉る御教へを拜聽する心持は何とも申上げ樣もなき有難いものです。

第七　下駄

二十幾年御奉公して來た者が、今更下駄の始末など致しましては大人氣ない樣な氣持がしないではありませんが、私の經驗によりますと中々むづかしい事で、全校兒童の下駄が見事に揃ふ時が來ましたなれば、私達の念願して居る仕事の大半は成就したと申して更々過言でないと云ふ事を確信して居ます。恐らく此の事に御心配なされた方々には御同感でせうが、中々滿足する迄に出來るものではありません。何としても全校兒童に自覺が出來る迄は如何とも仕方のないもので、本校などやつと整頓の出來る樣になりますのに、御恥しい事に實に二ヶ年の月日を費しました。

此の頃見て下さいますと、靴一つ亂れて居ないと云ふ自信はありますが、さて始めて手をつけた時の苦心は全く御話になりません。もうこれは駄目なのかと同僚諸君と悔みつゞけたものです。隨分叱つても見ました。梟の目玉の樣にして下駄箱の傍で立つても見ました。さうして揃はぬ者は引ずり出したり、逆向に置いたものなどに大喝一聲頭の一つ位毆つた事は其の數を知らない位です。職員會毎に訓導諸君に嚴命しまして、其の責任を問ふと迄申した事もありましたが、いや早何とも致し方がありませんでした。

先づ一番困つた事は雨の日の長靴の始末でした。下駄箱の出來た頃は、長靴と云ふものは兒童達迄がはく樣に普及して居なかつた時代ですから、どうしても其の下駄箱を使用する限り、混雜は免れる事は出來ません。廊下は傘と長靴で持返

して居ますから、子供も仕方なく其の上を踏んで行かねばなりません。歸る頃が來ますと、一足として正しく揃つたもの等なく、其の邊を探し集めて歸るものですから、人の物は自分が履き、自分の物は人が履くと云ふ騷ぎ、父兄は父兄で、宅の子供の靴が新しいものですから、此の樣に古い物と履代へられましたと、不平を持込まれ、いやな事迄聞かねばならぬ破目となります。これはとても根本的改造より外ないと決心しまして、殘りの少い備品費の內より無理算段して、長靴の入る樣に段を改造しましたが、使用數が二分の一となりまして、下駄箱の不足を訴へて來ます。更に思切つて、新調して見ますと、置場所に困る事になりましたが、やつとの事で雨の日だけは何とか形がつく樣になりました。

下駄や靴の始末には、雨の日よりは簡單に見ゆる平常の日思はぬ難關に乘上げてしまつたものです。下駄箱にさへ入つて居ればそれでよいと思つた頃は、誠に芽出度い限りでありましたが、眼光が人の心の奧迄見え出して來る頃が參りますと、中々滿足する事が出來ません。向の反對になつて居る者、自分の一足が揃つて居ぬ者、人の靴と出入りが揃つて居ぬ者、人の心其のまゝの千差萬別で、どうにも仕方がないものですから、或日職員會で

「履物の始末にはどうも困る。諸君も餘程御留意下さる樣だが、まだ〳〵駄目です。明日より私が全校を廻り、都合の惡い履物の中へ『校長室へ』と書いたカードを入れて置きますから、其の子供は直に來る樣にしつけて下さい。」

と、依頼しましたが、大した効果も見えません。やむを得ず各學級に下駄當番を作り、兒童入室後見廻りさせました。かうすれば履物は見事に揃ひますが、何日たつても子供は當番がしてくれると云ふ氣持で自覺が出來ず、擔任は擔任で、いくら子供に申しても、腹の立つ計りで何の役にも立たぬものだから、只一筋に當番を督勵して、

「校長先生に叱られたら、あなたの責任ですよ。」

と迄、强調する。或時校內を廻つて居ますと、他の兒童は入室授業して居るのに、一人だけ頻りに履物を揃へて居るのを見ました。奇特な兒童かな。夫にしても他は皆勉學して居るのにと近づいて尋ねて見ると、例の責任問題。此の兒童は擔任より履物に關して全責任を負はされて居ると云ふ始末。どの棟を廻つても、この憐れな犧牲者がある事に氣の付いた時の驚きは非常なもので、又しても邪道に迷込んだと悔を深うする計りです。悟り顏にやつては見ても、行詰りの果は知らず〳〵に此の外道に立つと云ふ不覺。最後は最早術では駄目だと存じまして、自分の手で直して廻る事としました。とても毎時間廻る暇もなく、全校に手を延ばす事の不可能な事は百も承知の上、一つでもよい、夫で一つだけ直せたのだ。三つ手がつけば全校から履物の亂れが三つ減じた事になる。我が身を殺さずして只權力によつて成さんとした愚を自ら嘲りつゝ、空いた時間には何にも申さず、只默々一心に直して廻りました。此の行を續けて居ると、一番に氣がついたのが給仕君でして、私も直して行きませうと云ふ具合で、私の手助けをしてくれます。二名の給仕君の應援を得て、我等同行三人となり、毎日〳〵やつて居る內に、次第〳〵に子供にも分つて來ます。

「いけない、校長先生が直してゐるぞ。」

「僕は給仕樣にやられた。」

「校長先生相すみません。私が整頓致します。」

と云ふ具合で、擔任同志、子供同志が職員室や運動場で話合う頃には、早子供は自分で行じ出して、やかましく云ふ必要もなく、獨り手にすら〳〵と出來てきました。何と不思議なものではありませんか。顏を眞紅にして叱つて居た時の事を思返しますと、恥かしいやら笑止やら、思へば〳〵今少し早く此處迄氣のつかなかつた自らを憐れに思はれてなりません。

さて履物を正しく列べたり、下駄箱へ入れたりするためには、事前に周到なる注意が大切です。傳板や廊下まで來る道中を正しく列ばなければなりません。朝禮場より一糸亂れず廊下に入り、自分の番の來る迄前の人には觸れない樣にして

待ち、傳板又は廊下の緣に踵をつけて履物を揃へて上り、右手に持つて下駄箱の前迄進み、棚の端の線と靴の踵の線が同一になる樣、子供に會得さす事です。こゝ迄來ますと樂なもので、前の子供が不始末にしてあれば、後の者は知らぬ間に直して行つてくれます。擔任は子供が此の美しい事に氣のついた事を見逃がしては、彼等の心は躍進しません。時に應じて有難うと云ふ意味を溫顏に浮べて、感謝するだけの餘裕を持たねばなりません。履物の正しく入つて居る程心持のよいものは無いものです。履物の亂れたる家に泥坊は窺ふと申します通り、整頓の出來てゐない學級へは、萬事の指導の手を校長が伸さねばならぬ憐れな存在である事に氣がつきます。

學級擔任者は履物の整頓で自分の敎化力が分ると思ふと、何としても一工夫がいりますが、只整頓本能を滿足さす爲にやつきとなつてゐるのだと解決しては、とんでもない間違となります。斯く申す本心は人間を作らねばならぬからです。一事が萬事と云ふ通り、履物の末に到る迄自覺を失はぬ樣願ふのです。只美しさ、氣持よさのため、敎師の滿足のため、校長の機嫌を取るためにと云ふ事となりますと、忽ち外道に陷りませう。或る時子供の父が來まして、

「何と云ふ氣持ちのよい下駄箱でせう。私の處など家內六人ありますが、一度だつて下駄の揃つた事はなかつたのでしたが、內の三年生の方がちよい〳〵直してくれる樣になりまして、私共も子供に直されて知らぬ顏も出來ず、今度上る時は氣をつけねばと思ひますので、家の內が氣持よくなつて來ました。全く負うた子にの諺の通りです。これも皆學校の御蔭です。」

と、喜んでくれます。學校で作つた人間が、次第に家庭に喰入つて行くのがとても嬉しい。私達の理想とする校門を町境迄と云ふ事が、着々實現して行く樣に思はれて、限りなく豐かとなります。

子供でも美事に揃つた履物を見ては氣持がよいものですから、各自が亂すまい亂すまいと努め出します。時間の半に便所へなど出て來る者が、廊下や傳板を歩み乍ら、ちよい〳〵と直してくれて居る事が見られます。誰も見ても居らない所で、只々行じて行く此の尊い姿を見る時、目頭が熱くなります。此の樣な有難い事が校內に現出した頃、どの學級からともなく、掃除當番が下駄箱の土を箒で拂ひ、更に雜巾掛を始めました。恐ろしいもので、何年か土に荒れた板が光り出します。かうなれば兒童も次第に自重して、水の中やぬかるみの中へはむやみに下駄で行かなくなります。此の心掛けさへ出來れば、益々美しさは增して來ます。

兒童が一刻も早く入室せんと脫飛ばして行つたあの淺間しい姿を、今更に思返して穴へでも入り度い氣になります。人間としての價値はどこから出て來るかと考へます時、今一段低く考へ直して見て、自らの足下より堅實に積直す必要を痛感します。

先年本校で大會を開きました時、老師を御宿に御案內申しますと、半年ぶりに御目にかゝつた事故四方山の御話を伺つて居た時、宿の女中が御風呂の番を知らせてくれました。

「井村君も一風呂浴びませんか。」

との有難い御言葉、せめて御流しでもして差上げて、旅の御疲を忘れて戴き度いものと御供をいたします途中、老師は便所へ、私は御先へ失禮して湯加減でもして置きたいと思つて、浴室へ參りましたが、丁度浴槽の中へ這入つた時、愕然として思はず

「あゝしまつた。」

ともらしました。何たる不覺ぞスリツパの向きを變へず、其のまゝ脫捨てて來た事に氣がつきました。今更何とせう、悲しい哉一絲纏はぬ丸裸、やきもきしてゐる內に老師も御出になる、まゝよと度胸定めて雜談しつゝ御流し等してゐました

が、何としても氣に掛つて仕方がないので、一足先に失禮して出て見ましたが、果して恐れてゐた通り、私のスリッパは履いたらよい樣にきちんと揃つて、不躾者の主人を待つて居ます。しまつたり、申譯なしと思へば思ふ程、足にかける事も出來ず、幸老師がまだ湯上りを着て御座る間に、スリッパ抱へて、どんなにか廊下を急いだ事でせう。時は八月、風呂は熱し、おまけに思ひもかけず泡喰つたものですから、流汗淋漓止めどもありません。

「あゝえらい汗だ、熱い。」

と、獨語して居ますと、丁度廊下を通つて居た受持ちの女中が

「あそんなに御熱い御湯でしたのなら、水道栓から御水入れて下されぱよかつたに。」

と云はれて、女中の親切も全く私には痛い皮肉になりました。笑ふに笑へぬナンセンス、自分の到らぬことに恥入りました。

それ以來、履物を脱ぐ度に、自らを省みる樣になりまして、決して一度でも無自覺に脱いだ事はありません。自覺なき所不覺を生ずるものでありますから、兒童には常に一つ一つに心を注ぐ習慣をつけなくてはなりません。自覺を起さんと努むる者は、子供に斯くするのがよいと云ふ理會を與へなかつたら、爲す事すべて機械的となりまして、一寸した切かけで破れてしまひます。夫で若し履物の亂れてゐる學級がありましたら、全兒童を現場に集めて、一人に其の範を示させ、かうする事が便利で然も秩序の立つ事だし、見る眼も氣持がよく、一級一心を表はすと說明してやり、更に敎師が見てゐる前にて數回實習させる事です。此の時は細密なる注意をせないと、可成の高學年でも思ふ樣に出來ません。二列で列んで來た者は、どちらの者が先に脱ぐか迄氣をつけねばなりません。大低の事は判つた樣で判らないのが普通です。例へ高等科の兒童だとしましても、此の行に一時間や二時間を割いても何も惜しい事ではありません。算術一題、文字一つを敎へるに急でありまして、人間を作る事を忘れて居るのが現代敎育の姿ではないでせうか。子供が會得したから一度で一生出來るものでありますと、敎育は實に易々たる業です。只々師の行によりて導かねば、いかに小さい事でも、改造など出來るものではありません。何物も欲せず、只默々として行じ通し

「山師訓導と笑へば笑へ、我この行によりてのみ千萬の罪業を消滅せんとす。」

との心を持續けますと、いつの間にやら全校が和やかになつて參ります。

第八　傘

履物の整頓がうまく行く樣になつた頃には、傘の始末はやかましく申さずとも出來て參りました。一德なれば萬德成る。一つの「こつ」をつかめば、敎師も兒童も、苦も無く又一つと進んで行ける樣です。

何をするにつけても、師たる者は智慧を動かせて最善の方案を立て、願つて居る事が成るべく易々として成就する樣設備を整へねばなりません。徒に勞苦の多い廻り道などさせる事は、師としてついて居る以上罪な事と存じます。傘の始末に致しましても、傘棚や釣り場所が惡くてはいくら焦慮したとて始らぬ相談であります。板張廊下なれば昇降口に折疊み自在四段式の物を二個學級一つ位の割合で作り、雨天の時のみ引出し得る樣工夫するし、土間廊下なれば硝子窓の下に敎室の廣さを限度として、一學級單位で折釘を打てばよろしい。釘の頭が出ては人を傷け、服を破り、暴虐の限りを盡しませうから、紐を持つた二本の指が這入るだけ切込んでおけばよいと思ひます。尙長靴の出現と同時に、マントの繁榮時代となつて來ましたからには、傘掛けに兩用の工夫が大切となりました。

掛ける式はそれでよいが、折疊式になりますと、早く登校した者が誰でもよい廣げて、一番端の方へ置きますと、後の

者は柄の先きの線に氣をつけて揃へる事さへ忘れなかつたなれば、夫でよいのです。若し亂して平氣で行つた者がありとしても、誰か一人默つて直してやる親切者があれば、其の學級はいつとはなしに整つて來ます。尙師として深く注意すべき事は、當日の風の具合です。子供がいくら正しく心して置いた所で、風が逆つて來る段となると、鼠の嫁入りではありませんが、雲の申した通り風樣にはかなはないでせう。今日はいけないと勘づいたなれば、出入口の戸を締めるなり、傘の置き方を逆にするなり指導してやる親心が、何よりも有難いのです。

朝は雨で授業中に晴天にでもなると、さあ傘を忘れる者が續出します。雨中では傘を間違へる人はあるが、忘れたと云ふ事は聞いた事がありません。只御天道樣だけ見て自省しないうつかり者は、平氣で歸つてしまひます。私はよく校內を見廻りますので、其の學級の教育徹底度が、忘れ傘の本數と反比例する事をよく知つて居ます。一度見逃しますと、其の子供は今後何度でも繰返すものですから、此の機會を利用して人間を作らねばなりません。

急に晴天になどなつた日には師が只一口

「今日はよい天氣になりましたから、うつかりすると傘を忘れて歸りますよ。」

と云うてやる親切があれば、一本だつて殘るものではありません。然し、擔任はそれで安心してはなりません。必ず放課後傘棚を見廻り、其の姓名を控へて、明けの日

「誰々樣は昨日傘を忘れましたね。」

と、注意するのがよろしい。叱つたとて何になりませう、只自分の不行屆を子供の罪にする樣なものです。斯く師の教への手が溫かく喰込んで行きますと、つい何かして忘れて歸つた者がありましても、途中からでも、歸宅してからでも、汗を流して眞紅な顏して取りに來ます。

一年生を受け持たれる方は特に傘には留意しなくてはなりません。雨の日など子供より早く來て見てやる親切が大切です。殊に放課の時は雨の日ですから、整列もかなふまいと、早い者から傘取つて歸るのが普通ですが、さうすれば必ず合羽の紛失者、傘の替つた者等數名も出來て、泣き叫ぶのが雨の日の行事となりますから、教室から出す時

「すぐ歸つてはいけません。皆樣傘をさして順々に列んで待つてゐて下さい。」

と申しまして、しばし待たせますと、間違ひなどすぐに發見されます。何と致しましても師の誠によるに非ずば、教育は出來るものではありません。

第九　朗　詠

大分橫町の細道を廻りましたから、此の邊で再び本筋へ歸りませう。

現在の學校は餘り學級が多すぎまして、朝禮より全部の入室迄にはどう考へて見ても十分を要します。これでは早い學級は十分餘り待たねば揃はないので、今は朝禮の中に朗詠を入れました。此所に書きますのは前任校の苦心の跡で、何かの參考にでもなりますれば幸と思ひます。

兒童は履物の始末も正しく出來て、自覺ある足取で何の雜音もなく入室、列ぶ時には机の順に出來てゐますので、少しの雜作もなく席につく事が出來ます。若し過つて机の順と違つて居ましたら、入室後の雜音を止める事は出來ません。やはり此の邊にも細心の注意が大切です。席についた者は深く腰をかけ、兩足は正しく揃へて輕く床につけ、手は靜かに膝の上に置きまして瞑目一筋に呼吸を整へますと、學校中が次第〳〵に靜の深淵へと落ちて行きます。教師は朝の御掃除の者がちやんと教卓の後に椅子を持つて來てくれてありますから、其處で共に行じて居ます。恐ろしいもので修行を積むに

従つて、かすかなる呼吸の音さへ聞取れなくなりまして、柱に掛けた時計の秒を刻む音が、耳に立つて仕方がありません。只室内には師もなければ、童もない時が來ます。全校兒童の入室に要する時間は豫め測定してありますので、よい頃合を見計らつてサイレンが鳴響きますから、之を合圖に眼を開き、餘韻終れば

さし昇る朝日の如へさはやかに
もたまほしきは心なりけり

と、かすかにも起つた聲は次第に和して全校の合唱となります。隣室との調和をとりつゝ、いとも爽やかに、朗かに二度繰返し、再び靜寂に歸つて來ますと、一同輕き禮をします。殊更にするのではなく、誰するとなく敬虔なる禮の終つた時の子等の顏を見ますと、何と云ふ圓滿なる相でせう。之が美しくてかなひませんので、職員朝禮にも朗詠を取入れた次第です。子供の朗詠こそ師の本家であり、親でもあります。私達は正に子供に教へられたので御座います。

この朗詠の整ふ境地までの道程も並大抵の事ではなく、實に長い日時と、限りなき苦勞をつくした末でした。始め靜岡の横内へ出した視察員がほれ〳〵として歸つて來て、是非共本校にも始めたいと報告します。聞いただけでも賴もしい、やりませうとなりましたが、さてどんな調子でする事やら、はたと行きつまりました。尋常一年から高等二年迄合唱し得るものとなりますと、いくらもある調子が皆都合が悪い。終に唱歌主任に作曲して貰つて、やつと出來た樣な有樣です。

始の内はサイレンの鳴終る迄瞑目して居まして、眼を開けると同時に歌ひ出したのですが、急に明るくなる關係で、心の落ちつきを損ひまして、うまく聲が出ませんから、サイレンが鳴始めると眼を開く事にしました。あまり曲に捕はれ過ぎると、何だか賴りない響がありますし、馴れすぎて自覺を失ひますと、大きくなつて朝の行としては不似合となり、どうも氣に入りません。之は職員が朗詠の打合せをせぬからだと氣がつきました。何度となく打合せ、之でよしと、自信も出來まして後、各室で行じて見ましても、やはり全校の響が面白くない。今度は講堂に全兒童を集めて練習して見ますと、其の時計りは巧く行くのですが、各室に分れますと不思議に混亂、朝の始から芝居小屋の樣な氣がするので、どうもいかない。と、皆が申しますが、さてとなると名案がありません。此の度は主任が各室へ廻つて指導して見ましたが駄目です。もう之はいかぬ、止めた方がよいと迄に心をきめた頃でした。或組が始はとても低い、有るか無きかの聲で口の内で歌ひ出しますと、隣の方も一寸調子が狂つて小さくなります。自分の室計り高い調子でやつて居ると、何だか賴りなくなると見えて、皆々かすかなる聲に變つて來た時に、不思議にも揃つて參りました。斯くして何ケ月か迷路を辿りながら行じてゐる中に、何物かが内に滿ち足つて來たものと見えまして、次第に底力の有る朗かな聲が起つて來ました。

其の頃になつてやつと氣の付いたのですが、サイレンと教室距離は各違ひますから、餘韻の終る時間が同一ではなかつたのです。耳がさえて來ますと、其の時間の違が物を申しまして、歌ひ始めから力を入れますと、すつかりうなりを生じまして、聞き辛くなつたのです。かすかに起し、周圍の聲を聞きながら互に待合す心得さへ出來ればよかつたのです。此の要點を握ればしめたものです。始めの程は有るか無きかのかすかなる聲が、次第に高々とつのつて、全校の一大合唱となり、又いつしか落ち汐の如くに絶えるです。事はすべて成功を急いではなりません。希望と粘りを持つて、子供達の内に滿つる或る物を待つべきです。

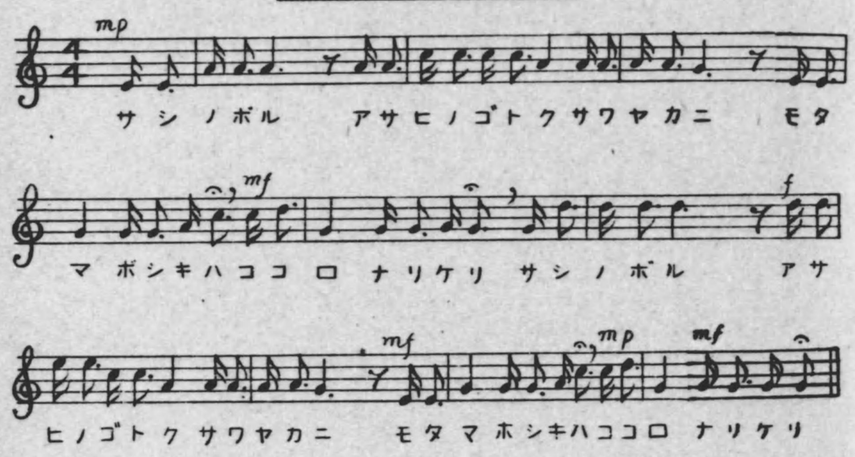
朗詠が同時に終る事を狙つて居ては廣い校舍を持つ所ではとてもうまく行かないが、揃はぬから勝手にやるとなればそれこそ大變、一大うなりを生み出して、學校は混亂の渦の中に卷込まれます。此の邊特に氣をつけて、隣室と合はす工夫が大切になります。隣と合はす爲には聲を落すがよろしい。こゝが大切な所で、自分の聲は自分で聞き、更に隣の聲迄腹に入れて合唱が出來る樣になると、再び聲はもり上つて來るのです。それでも少しづゝにせよ音の傳はる時間を要するだ

けの間隔はどうする事も出來ませんから、全校同時に終る樣には參らないのが、自然であつたのです。

斯くして何時終つたともなしに合唱の聞えなくなつた時の靜けさは、何とも申し樣もない深みのある靜の極致です。吾ながら學校には生きて居る者は居らぬのかと考へられます。然しながら、此の靜こそは動を孕む靜でありまして、死を思はせる靜ではありません。各室靜の極まる時、早くも動は發して居ます。子供の眼は希望に輝き、姿勢は直に動に移り得る待機の有樣なのです。陰極まれば陽發すと申しますが、誠に其の通りです。

支那は古來冬至を非常に重んじましたので、新生維新政府も冬至の祭は尙有して居ます。彼等は其の時盡くの城門を閉ち、各戸は更に戸締を嚴重にして、終日其の生業を休み、只管謹愼音一つ立てる事を致しません。何の爲に斯かる事をするのでせう。陰の極まる所則陽の發する根源であるからです。よかるべき陽の發生には人は皆只一筋に神に念じ、誠を捧べぐきだと信じて居るのです。誠に秋去り冬來るに從つて、陰は日々に積り、樹木は其の葉を失ひて成長を休み、動物は活動を止め穴に入りて眠り、日中は一日は一日より其の長さを減じ、寒氣は時と共に加はり、其の極が冬至であります。然し乍ら、此の極致には早くも生物は春を望み、蟄て穴を出んかなと蠢動を始めんとし、木々の若芽は堅き隣片に覆はれながら、靜かにも靜かに乙女の乳房のふくらむが如く、何時とはなしに動きはじめてやまぬ時なのです。私共も此の意味に於て朗詠後の靜寂を限りなく大切にし、今日一日の動を孕ませて、時到りなば震天動地大河の一時に九天より落下するが如く、何物をも恐れざる躍動を待つのであります。今其の朗詠譜を揭げませう。

御製朗詠譜



★

さしのぼる
あさ日のごとく
さわやかに
もたまほしきは
こゝろなりけり

★

いかならん
ときにあふとも
人はみな
まことのみちを
ふめとおしへよ

第十　禮

朗詠が教室内で出來て居た頃は、其の組の合唱が終りますと、誰するとなしに、自然と頭が下り、靜の靜たる中に授業を始めてゐましたが、尨大なる校舍へ轉じましてからは、さうする事も叶はず、朝禮で朗詠をなし、入室と定めてゐますが、何としても室内朗詠が戀しくてなりません。動もすると朗詠後の入室は、つい何かの切かけで亂れる機會が多い樣ですから、擔任はよ程の氣の配り方が必要となります。朝禮からは、下履のまゝ兒童の先頭に立つて昇降口へ參りますと、先に朝禮に出る折脱いであつた上履が待つて居ますから、これと履替へて教室に入る兒童を待ちます。此の樣に靴の外に上履と下履を持つ事は、大變便利が多いのです。若し靴で朝禮場から歸るとすれば、又元の靴箱迄來なければ入室が出來ませんから、其の間に大切なる機を逸する事が多い樣です。少しの工夫がどれ程學校を滑かにするか分りません。

師が第一番に入室して、兒童は次第にこれに續き、先の者から腰を深く掛け、腰を立てて手は膝の上に置き、すつ／／と視線を教師に注いで來ます。凧の糸目の如く、扇の要の如くにすべてを絞り得た時「始めます。」と、敬愛の念を込めて只々神に此の一時間御役に立つべき事を祈りつゝ正しい禮を致しますと、兒童も亦後れじと誠を込めて行じます。

教師は朝の御掃除の折今月一日の教授用品は持つて來てあるし、兒童は運動場に出る前學用品は机の上に揃へて有りますから、先づ教科書を戴きます。此の戴き方も馴れるに從つて反射作用に落ちますから、誠を失はぬ樣よく注意して、御本は押上げる氣持であり、頭は下げる氣持で行きますと、大變調子がよいのです。いよ／／御稽古が始まりますと、澄切つた教室の中に漲り切つた靜中の動。心持よい第一時限の終りのサイレンが入りますと、童師は始めの如く教科書を押戴き、壇の中央の教師の目に全視線を絞り得た時「終ります」と申しまして、互に正しく禮をなし、只管に此の一時間御役に立ちました事を神に謝し奉ります。こゝにも亦靜の極致があらはれます。師が動き始めますと子も亦動き、硝子戸は開け放されて、職員室へ運動場へと靜かに流れて行きます。

以前は教師が兒童に後れて入室するものですから、運動場の話や喧嘩の續きがいつ迄も切れず、恰も戰場の樣な光景を呈してゐますから、師の御出でも何もあつたものでない。したがつて師は暫く壇の中央に突立ちまして、勢よく四方八方を睨み、やつと靜まる頃級長は重々しく出で來り、師の膝下に虎の威を借りて、起立、禮、着席と大聲叱呼致します。若し不心得者が有つて、師の睨みにも氣の付かぬ事がありますと、「美馬」「大田」「某々」と注意を連發し、やつと起立の號令が出ます。いや早中々嚴重なものでありましたが、考へれば考へる程、妙な事に思はれてならなくなりました。毎時間前後二回何等禮をする氣持の無い者を、師の睨みと級長の注意で無理に整然と禮をさせて何になります。大切な時間を長長と取り、教室の空氣をすつかり濁してどうするのでせう。これでは全く禮の强奪です。子供も諦めてか輕くあしらひ反射的の一行事と心得、何の敬虔の念さへもありません。其の證據に、着席すれば直に姿勢は亂れ、私語は始まり、何としても教權なる奥の手を出さん限りは、しんみりと教授に入る事が出來ません。餘りにも無意味な事を、毎日然も毎時間繰返す事が馬鹿氣て來ました。禮と云はれぬ内は騷いで居てもよい、何の心構もなくてもよい。大きな號令があつたら、一齊に器械人形の如くすればそれでよいのなれば、如何に禮はさせても、何處に禮の有難さがあるのでせう。又何處に弟子の愼みがありませうぞ。斯くも師は毎日毎時禮の奪略をして何とします。此の樣な事が積り積つて、師に對する信賴の度は薄くなり、卒業生は、殆ど敬意を拂はなくなるのみか、途上に會つても知らぬ顏して、あのいかめしく教込んだ禮を一つしないのは、奪略に對する自由人としての報復で無くて何でせう。恐るべきは只型のみの教育であります。「始めます。」と、急いで白墨取りにかゝつたり、「終りました。」と、やれ／／と云ふ態度で職員室へ急ぎ歸るものですから、禮に本心が籠

りません。師も誠を示し、子供も第一義の禮を行じてこそ意味の有るものです。童師共に禮をして正しき姿勢に歸る迄待たねばなりません。其の又待つ間の師の態度殊には師の顏が何よりものをいひます。あの芦田老師の子供に「其のまゝで。」と申されて禮の終つた時の福德圓滿なる御相、實に何とも申す事が出來ません。何時笑が、何時やさしい御言葉が湧出るかも知れぬと云ふあの御態度を思ひ浮べて、內に深く愼まねばなりません。閻魔王が御臨席の樣な風では吾等の望む教室は現れません。

禮はいつ何時でも、爲す者も受ける者も至誠が端々迄も滲出なければならぬ事は勿論ですが、と申して每時の禮を起立する必要はありますまい。着席のまゝして一向差支へないと存じます。あの勢よく「がたん。」と音を立てて腰掛を脚にて後に突き、更に着席の折は各自兩手で引きつけるあの音は、折角の心の落ちつきを搔亂して、將に發せんとする動を混亂の中に消してしまひます。只知のみを磨く教育工場なればいざ知らず、授業其の物が訓育である我等の學校では採らぬ所であります。敬虔なる心が內に滿ち滿つれば、何を好んで機械人形の如き一齊起立を要しませう。正しく上半身を前に曲げ、師に誠を捧げればよいのです。

斯くして行く內に子供は禮に對する自覺を呼起して來ますから、校庭や、廊下で遭へば、師からと云ふのでなく、兒童からとも云ふのではなく、會釋が何時でも出來ます。人と出會つた時に、天下の公道を乃公が行くに何の關りありやと云ふ樣に、昂然と或は傲然と通る者と、何とはなしに輕き會釋が殘して行ける人とは、大國民として何れが好ましい姿でせう。まして長上に遭つた時あまりにも淋しさが湧いて來ます。此の萬民總親和の根源を養ふ尊い心境も、師たる者の少しの心やりにて容易に成就します。

此の會釋は只校內を和やかにするに止らず、大きな副効果るもたらします。廊下を疾走する者が影を潛めてしまひました。本校職員會議錄を繰返して見ますと、「廊下を走らぬ樣に注意する事。」とは前校長以來何度議題に上り、或は指示して有るか其の數を知らぬ程です。私も同志の諸君又は兒童に直接に何度要求した事でせう。時には眉を逆立て、校長室へ引ずつて來て訓誡した事もありましたので、職員諸君も其の災厄に遭はぬ樣にと躍起となつて防止に努めはしましたけれど、一向其の効果は表れませんものですから、廊下のよく見える所へ「廊下は靜かに」「廊下は走らぬ樣」「廊下は走るな」「廊下は必ず靜肅に」と日が經つにつれて、次第に威勢のよい標語を揭げましたが、更に變つた事もありません。訓練主任も力盡きまして

「校長先生此の度許りは匙を投げます。何としても駄目です。」

と、冑を脫いで仕舞ひますので、最早廊下を走る事は止める事は出來ない事だと諦めかけて居た時です、廊下で行合つた子供が立止つて會釋してくれました。で、私も有難い事と思つて、頭を下げて、これに答へました。つい此の嬉しさに引きずられて、會ふ子供に皆頭を下げてやりますと、校長先生が頭を下げて下さる、とても氣をつけねばならんぞと、何時の間にか、全校が引締つてきました。同志の方にだつて一度も要求した事はありませんが、皆々揃つて會釋をしてやつて下さるものですから、子供とて先生へさせては相すまぬと、向ふから先に頭を下げ出しました。廊下など走つて居てはいつも失禮をするばかりですから、これではならぬと次第に落ちついて來まして、混雜は次第に取去られて來ました。誠に教師の會釋は、兒童の廊下疾走を止めたと云ふ結果になりました。

然らば「絕對に誰もが走らぬか。」と申されるかも知れはせんが、それは其の通りは參りません。必要な時はやはり走ります。大勢の中にはそれ〴〵走らねばならん時があります。例へば時間の張切つた學習後、もう何分もないと云ふ時に、便所へ急がねばならん者もあるし、學友の病氣を知らす爲に走る子もありませう。學用品を忘れて長い廊下を姉の教室へ

念ぐ妹も有るべき筈です。それを走るなと申せば、其處で用を足し、怪我人を其のまゝにし、或は學用品なしで授業をうけるか、友達に遲れ靜かに學習する中へ、がたりと戸を開けて入室するより外道がありません。それがならぬとなれば、走らざるを得ないでせう。まして生氣に溢れた子供ですもの、歡喜に燃ゆる時には思はず走りもしませう。廊下を絶對に走るなどと考へる事が既に無悲慈です。間違です。不可能の事を職員會に掛けたとて、兒童は何で止りませう。走るべき時に走るのはよいのですが、走る中にも走る作法を忘れてはなりません。他室の邪魔にならぬ樣人に迷惑のかゝらぬ樣走らせて戴くと云ふ心持が大切です。此の心さへ有れば、會ふ人毎に會釋して行くのと何の變りも無く、靜かに早く用の足せる事は間違のない事です。

師に會へば會釋すると云ふ氣持は、廊下で不覺の疾走などを無くし、いとも和やかなる風景が校内に漲つてきました。所詮禮は内なる誠の表現であります。内に一點の誠なき空虛なる型ばかりの機械的作業なれば、何の有難さが有るでせうか。現在小學校より大學校迄行はれつゝ有る禮を窺ひます時、尋常一年生の禮と高等二年生の禮を比較しまして、何程の進歩が見えるでせうか、自覺なき者の作業は積めば積む程反射運動に落ちます。私に云はしむれば、一年生の禮がどれ程本心の籠つた正しい禮であるかと思はれてなりません。更に中等學校の生徒の禮を見る時、いよ〳〵惰落を感じてならんのです。若し誠を以つて行じて居るものなれば、六年或は八年の長年月、假に毎日五時間一年二百五十日の授業とすれば、將に一萬五千回或は二萬回の行を積むのですから、美事なる進境を發見せねばならぬ理であります。餘りにも無駄を繰返す我等の無頓着さに、驚き呆るゝ外はありません。

誠の禮を願ふ者は先づ師より行ずる外はありますまい。徒らに口頭のみの訓辭や說教は、兒童をして益々あらぬ方へと導いてやみません。兒童と會つた時の一つの會釋、校舍に對する心からの態度こそ、全兒童をして敬虔なる禮を行ぜしめて

ゐる原因であります。

第十一　教室の出入

教師となつた始め頃には、教室の出入など露程も考へた事は無く、靜かに入ればよし、靜かに出ればよし位に思ひまして、只徒らに靜かな事許り命じて居ました。今の師範學校の教育方針はいかゞかは知りませんが、私の在學中には一度だつてかゝる實際的の事は教へられませんものですから、何時も大風に灰を蒔く樣な事許り、教壇から放送して居たのでした。それで一年生が二年生になつても、五年生が六年生になつても、及第と云ふ事には教室の出入や禮などは考慮に入れてない樣なもので、むしろ次第に下手になる事が人間發達の過程であると迄考へた樣です。今の若い方でも「教室の出入」など云ふ事を題目として書きますと、「何の寢言ぞ。」と御笑ひになりませうが、道以前に難行しつゝ有る方は膝を打たれて、深き思ひに沈まれる事と思ひます。

元來自由教育花やかなりし頃は、一向左樣な事に考へは及びませんで、早く出たり、早く入ればそれで目的は達したものだ、むしろ騷ぎつゝ談笑し、或は人の肩車に乘つて出入りなどすると、何と自由なる事よと、其の自然さを喜び、極端なる所になりますと、窓を平氣で飛越しても、子供の心理はそれが本統だと、何の臆面もなく、自校の子供が天眞爛漫でありますと自慢氣に申された事を今に忘れは致しません。何でもよい、出たり入つたりすればそれで目的は達して居るではないかと、輕く裁いてゐる中は、中々に師の教へを受容せんと勇む心にはならんもので、何としても事前に心を靜める行が大切であります。

氏神に詣でる人は誰でもが必ず鳥居を潜るでせう。水屋の水で手を洗ひ口を清めるでせう。何のために鳥居を潜り、

や口を清めるか。謂はずもがな整ふべきすべてを整へんとする事前の行なのです。

顏は汗ばみ、心臟は早鐘を打ち、運動場の爭が入室後もまだ續いて居る樣な兒童の群でありますと、いか程學ばしめんと力みました所が其の甲斐はありますまい。速に入室、一刻も惜しみて師の敎へを受けんと待つ態度を作るには、正しく列ぶより外工夫はありません。勿論列ぶ事が不要な程自覺して來るなれば、これ程結構な事はないのですが、中々其の境地に達する事は餘程の時間と絕えざる反省とを要します。

私は始業の合圖と共に混雜の極に達する兒童を何日も〳〵校庭へ出て觀察致しましたが、其の第一の原因は便所へ走る事です。子供達には始業の合圖が便所へ行けと響く樣です。それで先づ第一に、授業が終れば直に用をたす事の練習を始めまして、其の次にサイレンと同時に其の場に直立、餘韻終れば靜かに學級所定の場所に集合整列する事に定めましたが、職員も兒童も喜んではくれませず、幼稚園の樣だ、と不平顏でしたが、さて整列をして見ますと、高等生と雖思ふ樣には參りません。流石に冑を脫ぐ連中が多くなりました。混雜を救はん爲の整列が、むしろ自由入室の時より混亂に落入るなれば、爲さぬ方がよいと云ふ結果になります。から物事が行詰ります時は、机の上の計畫や議論を何程戰はしても、解決の出來るものではありません。師たる者は靜かに觀察する事です。サイレンより先に出て居て、子供の騷ぐ樣をよく見ますと、そこに道が開けて來ます。小學校の先生方の通弊は、兒童と離れて論議を甲乙する事だと思ひます。

早く列べと嚴命して御覽なさい、子供は正直に其の番の先きならん事を爭ひまして、自已の到着順を他生に奪はれまいと前の者の肩に手をやり、數珠繋となつて押合ひます。若し不心得者が有つて、割込みでもしようものなら、忽ち匪賊蜂起の樣な騷ぎを起しますから、級長は其の制御に閉口してしまひます。「氣をつけ」「前へならへ」「直れ」と御苦勞にも何度となく繰返し、惡い者には注意したり、或は引ずり出したりして、所謂　敎權の分前を受けて見たりして居ます。心掛のよい先生は合圖と同時に出てやりますが、雜談係の方等は中々に御見えにならないものですから、級長も根氣がつきて何度も〳〵職員室の方を窺ひつゝ「休め」をかけて御出を待ちます。其の間に又しても隊列は亂れて、いざ師の御越となれば、更に威儀を正して「氣をつけ」よりやり直しをすると云ふ有樣、大體小學校で本統の氣を付けの出來ないのは、此の級長の「氣をつけ」の亂用から始まつて居るのではないでせうか。「氣を付け」などと申しますからそれ迄は遊んで居てもよい樣に考へ出すのではありますまいか。いかに油斷をして居ても、聲さへ聞いて居ればよろしい。丁度雁などが群り下りて餌を探す時、當番の親雁が一聲警告を發する迄は自由自在に遊んで居ればよい、と云ふ意味に落ちては居ないのでせうか。合圖のサイレンが鳴れば夫が集合であり、氣をつけであり、前へならへであると何故思はせないのでせう。合圖其の物が始業であります。然るにこれを競技の準備運動の樣にでも考へて居るが爲に、一日に何十回となく「氣をつけ」を繰返しながら、其の「氣をつけ」は一寸の進歩もない淋しい號令と成りはてゝゐます。考へれば考へる程馬鹿氣て參ります。如何に列ぶかと云ふ事になりますと、些細の樣ですが中々當を得た方案はむづかしいものです。氣の小さい事を申すなと、或は嘲笑される方が無いとも限りませんが、私から申せば、列び方さへ考へる事の出來ぬ方が果して何が出來るかと申し度い心持であります。身幹順とするか、到着順とするか。所謂自由勝手とするかとなりますが、私の經驗によりますと、何れも都合が惡い樣です。

一番よいのは室內に机を四列にして有ると致しますなれば、入口から一番遠い四筋目の最後の机の二人が最先頭となり順次二番目、三番目の者が後に竝び、次は三筋目の一番後の机の者が其の後に從ひますと、最先頭の位置さへ定まれば、後の者は順次自分で、前へならへをして、集まるべき所は自然と定ります。每時間其所へ集まればよいのですから、子供にも易々たる事です。これで「前へならへ」と申さなくても、列は正しく出來ませう。只缺席者の有る時は一人列びとなるの

は仕方がありません。

斯く致しますと一番取りのために疾走して見たり、自己の位置の保有のために珠數繋ぎになつたり、どちらが先だと論爭する必要など更々無くなります。子供は各自自己の位置に早く着いて靜かに列び、只管師の御越しを待てばよろしい。師も亦出來るだけ早く出て行つて、良く兒童を運動場に曝すまいとすれば、子供は益々師の御出で迄に列び終へてと云ふ心と心の動きは尙更列が整つて來ます。師が一寸眼で合圖をしてやれば靜かに入室となります。

級長を使つてやつて見ますと、一寸は氣持よく成る樣ですが、之は只教師の整頓本能を滿足さすに過ぎず、子供の心はとんでもない方向へ走つてしまひます。思ひもかけぬ副產物が生れて來ます。虎の威を借る狐である事を忘れた級長は、さも自分が偉く歷上つた樣に思ひ、自負をいやが上にもつのらせて、取返しの付かぬ性格が習ひ性となつたり、側から見ると如何にも威勢がよい者ですから、不心得な親になりますと、級長の運動に來たりするものです。

斯くして入室となりますと、履物の始末など何でもない事で、順次置いて行けばよろしい。子供と云ふ者は實に奇妙な通有性を持つて居るもので、戸あれば必ず戸に觸れ、柱あれば又柱に觸れないと歩けぬ樣です。それですから何れの室でも、入口の柱や廊下の角の柱は黑塗りの樣に燦然と光を放つて居ます。此の習慣が强くなりますと、運動場へ出る迄手を出して、蔕でも格子でも紀念樹でも教材園でも、何の自覺もなく平氣に觸れて行きますから、校內の子供の手の行く所は甚だしい被害を受けて居ます。誠に醜いものであるし、學校衛生を重んずる時、トラホームや蛔虫の原因が此のあたりよりもきつゝある事を思へば、何とかして此の惡習を斷つてやらねばなりません。

さて時間が終りますと、次の授業の準備を整へ、出口に一番近い筋の者が全部起立して机の左右に出で、一番先の机より順次出て行き、其の列の最後が第二列目の先頭の所へ來た時、其の列の全部が机の左右に出る事としますと、入室とは全く逆ですから、何の苦もなく靜かに雜音を拔いて、流れるが如く出て行きます。履物は一番最後の物より取つて行けば易々として少しの混亂も見せません。運動場には入室の時と同じ所に止り、各自廻れ右さへすれば、全く始めと同じ隊形となり、師の御越しを待ちまして、眼と眼の會つた時靜かに會釋して解散すればそれでよろしいのです。室を出て列ぶ必要は認めぬと思はれるかも知れませんが、それ程成功して居ますなれば、誠に結構嬉しい事ですが、道以前に苦勞の殘つて居る者は、早く其の境地に達し度いと念願して居ます。今假に自由解放して見なさい。子供の特質として早く出度い、出て何をすると云ふでなく走つて出たいものです。急げば必ず亂れます。亂れた所に必ず不覺は生れて來ませう。

道の建設に誠に譯もない些細の所を疎にしましては、永久に難行する許りで成就する時はありません。如何にもつまらぬ事の樣ですが、師の慈悲心が此所迄さし込んで來ない限り、兒童の永遠の生命は育ちません。

第十二　學用品の始末

今又重ねて此の樣な問題を持ち出しますと、物分りの惡い時代遲れの典型的固陋な教育者と、笑ふ方も多からうと思ひますが、道以前を固めんとする者は、骨の髓迄喰ひ込むのでなかつたら、途中で狂が生じて來るのです。一度播ぎの生じた道は危くて、常に磐石の上で教育する者と比べると、不安の色の漂ふのをどうする事も出來ないものです。

私も始めは、學用品の始末等捨てゝおいても自然に出來るものだと高を括つて居ましたが、夫が根本的の間違でした。經營の進むにつれて、都合の惡い事が後から後から出てきますので、之ではいかぬと逆戻りをして、考直したのです。斯くするのが一番よいと分つてゐるのに、自然に出來るだらうなどと時を待つのでありますと、何のために師が附いてゐるのか凡そ意味のない事にもなるし、又何時迄待つても自然になど出來るものではないのです。

自然に出來ないとすれば、一齊にやるより外はありません。或學級はやるが、或る學級はやらぬと云ふのでは、兒童が就學して居る間、積上げたり壞したり、年が年中どて〳〵を繰返してゐる中に、早くも卒業期が來て、習ひ性とならずに終つてしまひませう。一年生から高等二年生迄同一の方法でやつて行けば、童師共實に氣持よく、何の不安もなしに只一筋に學習が出來ませう。

登校した者は鞄から學用品や教科書を出して、其の日の時間割の順序に机の中へ積重ね、時間が終る毎に一番下へ入れて行きますと、次から次へと、あたかも自動的に、次の時間の教科書や雜記帳が競り上つて來ます。さうしないから机の內が常に混雜して、子供自身が持て餘すのです。朝は第一時間目の用意をするし、第一時終れば第二時の準備をしますと、入室すれば直に仕事にかゝれますので、其の間何の滯もなくすら〳〵と運びます。もし教師の心やりが足らずして隙を與へますと、其の邊から不安が兆して來ます。

學習中に一番氣持惡く耳を打つのは「ガチヤン」と筆入れの墜落する音でせう。子供は思はず眼を丸くし、師は不覺にも心がぎくりと搖ぎます。一時間中に數知れぬ繰返し、何とかして防ぎ度いと其の都度注意しますが、子供はいくら自分の物には氣をつけましても、隣の者か後の者が机間を通る度に「ガチヤン」と來るので、どうにも仕方がないものです。これ位の音は一向差支なかつた威勢のよい教室であつた時代はよかつたが、鉛筆一本落しても室一ぱいに響く教室となり、音は只時計の秒を刻むばかりになりますと、實に耳障りでたまらぬ樣になります。そこで考へついたのは机の上へ筆入れは一切出さぬ工夫です。前の時間の終りに、次に必要な雜記帳の今日使用する所へ鉛筆と消ゴムを狹んで机の中央に置き、其の上へ教科書を重ねて置きます。次の時間が始まると、鉛筆と消ゴムは栞になつて直に開く事が出來ますし、休み時間には教科書が重しとなつて、大抵の風には雜記帳の散亂する恐れは有りません。かうしますと氣持のよい程雜音がとれます。教科書を使用する時は雜記帳は机の中央へ兩方から寄せるし、雜記帳を使ふ時は教科書が其の位置へ參ります。斯くして筆入は机の上から姿を消しましたので、讀方の書く段など實に氣持のよいもので、學ぶ者も、教ふる者も、亦參觀者も、只自分の呼吸をかすかに聞くのみですから、餘にも自已の息の大きなのに驚き呆れる事があります。

子供に學用品の整頓を申す限り、師も亦常に自ら其の範を示すべきであります。職員室の御自分の机は、教室の指導机は果して子供に恥かしくないでせうか。若し師之を行はずして、人をのみ責める時の結果はどうなりませう。教育屋として滿足する人はいざ知らず、道を求めて一時を惜しむ者の採らざる所であります。子供に一日中の學用品を時間割通り積上げる事を教ゆる師は、率先して教卓の上に自らも實踐すべきが當然かと存じます。朝第一に教室見廻りの時、一日中の必要品全部を時間割通りに積み、時間の終り毎に繰上げて、次の時間の用意をすべきです。若し此の心づかひを怠る人達は、時間の途中職員室へ書物取りに走つて歸らねばならぬ醜態を演じます。

兒童に只整頓〳〵と嚴しく申すばかりで周到なる反省を怠りますと、とんでもないものが出來ます。或時教室を巡つて居ますと、机の棚の中央へは教科書學用品を整然として入れ、其の兩側へ上草履と辨當が列べてあるのを見ましたので、

「これはどうした事か。」

と尋ねますと、

「上草履を廊下で脫いでは間違ふから、外へ出る用意にきちんと机內に保存するのです。」

といひます。聞いて全く呆れてしまひました。子供と云ふ者は教師が申せば如何樣のことでもすると見えますから、事を爲さんとする時は、よく理解の行く樣にすべきです。辨當と教科書と草履がいかに整然と置けた所で、人間を作る教育として何の價値がありませうか。腹をきめて一つの事を行じた時は、必ず靜かに之が子供には如何に徹底したかを反省して

後、更に進展の道を辿らなければなりません。

校内に入れば帽子は最早用のない物ですが、此の帽子の始末にも一苦勞を致します。机間巡視をすれば必ず三つや四つ足元に落ちて居るので、氣の付く方は丁寧に一々拾つて机の釘に掛けてやられるが、大抵は跨ぎ越して行かれます。然しこれはまだよい部で、假にも頭に被る物を足に掛け、落して居る者が悪いと平然として居られるのを見ますと、顏を背けずに居られません。と申して此の帽子の保管法には、何れの學校でも持て餘して居ると云ふ現狀ではないでせうか。之と等しく鞄の始末も中々にうまく行くものではありません。路傍の石ではありませんが、よく其の樣な風に輕視して來ました。困り果てた末、朝登校して學用品の整頓が出來れば、鞄は空だ、其の中へ帽子を入れて歸る迄置くとよいではないかと、思ついてやつて見ますと、うまく行きます。鞄は机に釘を打つなり、教室の後の壁に鞄掛けを作ればそれで、よい事になりました。只の少しの工夫がどれ位童師に安心を與へてくれるかと云ふ事をつく〳〵思はせられました。

第十三　机

今は早、何年位前の事でせう。三十四・五年にもなりませうか。暗い洋燈の下で腹這ひながら、何代か傳つて來たであらう古い石盤に算術して居た私の妻を、じつと見つめて居られた御祖父樣が、にこ〳〵しながら

「清、御前にも机がいるなあ、今度朝廷樣から恩給戴いたら、買つてやるぞ。」

と云つて下さつた時の嬉しさ。

御祖父樣の末つ子、私の叔父は日露の役に遼陽の激戰で歩兵中尉として名譽の戰死をされたので、恩給を拜領して居たのです。

思へば其の頃私の家には、鉛筆削るナイフ一つ有ればこそ。母が臺所から庖丁持つて來て削つてくれたり、座敷へ鎌を持つて來ては用を足してゐた時ですから、机などと云ふ事は思ひも寄らぬ事でした。左樣な贅澤な物は私の家の樣な百姓家の貧乏人の子供には凡そ用のないものだと思込んで居た私ですから、机と云ふ聲は天來の福音の樣に響いたのでした。

それで今でも「机」といふ聲を聞く度に、御祖父樣の溫顏が浮んで來て、机の有難さがしみ〳〵偲ばれてなりません。

それからは御祖父樣が恩給戴く日を、それこそ文字通り一日千秋の思ひで待ちました。何度も何度も其の日を問うては

「昨日も問うたに、今日も亦か。」

と、笑はれた事までまざ〳〵と思出されます。

然し待ちに待つた其の日は終に來ました。夕日さす黃昏頃、机をかついでにこ〳〵し乍ら歸つて來て下さつたあの御姿。あゝうれしかつた、有難かつた。もうじつとしてゐる事が出來ず、机差上げ「机だ。机だ。」と凱歌を上げて家中走廻つたことが浮んで來ます。今でしたら三千圓の勸業債券の籤が五枚も一度に當つても、あゝは狂喜しますまい。あの嬉しさが今も人靜まつた時よみ返つて來ますと、思はず身體中が溫まる樣な心地よいほゝゑみが湧いて來ます。さうしてこれは私の生涯の嬉しさの尺度となりまして、あゝ嬉しいと思ふ時には密に測つて見るのです。机、机、私には何としても机程嬉しい懷しい言葉はありません。

さて座敷のまん中へ靜かに安置して、机についた時の心よさ。何だか恥かしい樣な、そうして恐ろしい樣な、どうにもじつとしては居られぬ樣な心持。傍から父や母が

「大切になさいよ。勉强しなさいよ。偉い人となつて御祖父樣に御禮申しなさいよ。」

と諭された事は、今も尙此の心の內には生きてはゐますが、御祖父樣も亦父も早他界せられて幾年ぞ。偉くなれと諭され

た此の私が、やつと小學校長として終らんとする年が來ても「机」と聞けば、有難いもの、大切にすべきものと云ふ感が次から次へと湧いて來ます。

此の心持つ私が、小學校の教師として御奉公を始めて以來、自分の教室の或は自分の學校の机を見る時、常に幻滅を感じてやまないのです。何校か轉任しましたが、何れに御世話なつても、眼を開けて正視する事が出來ません机でした。長い長い學校生活の內、机を新しくしたい、更生は出來ないものかと考通して來ました。時には磨き砂で磨いて見ました。たわしでこすつても見ました。が然し皆徒勞でした。たゞ白くなるばかりで、反つて氣持の惡い教室となりました。或時勇敢にも校長先生に机の新調の必要を强要しても見ましたが、

「君馬鹿な事を云ひ給ふな。此の學校ではもつと大切なものでも買へないのだよ。まあ兒童數だけあれば結構ではないか。何の文句があるかい。」

と、叱られたりなどして、有難いと思つて居る机はどうも後口しとなりましたので、何時も自分が校長になつて見よ、必ず實現してやるぞと密に心にきめてゐました。其の後やつと校長になる事が出來てからは、何を置いても新しい机を作つてやり度いと思惱みますが、さて有り餘る程の金はなし、急を要する仕事が後から後へ出て來まして、中々手を出す事も出來ません。村會に或は町會に机の有難さを說いて見ましたが、道理は御最だが肝心の金がない、まあ辛抱してくれ給へ、と、折角村長や町長を說いて豫算に出しても、取上げてくれません。

何所に赴任しても滿身創痍、將に倒れんとする敗殘兵の如き醜狀を曝して居る教室を見ると、眼を覆ひたくなります。

「公共の物は大切にせよ。」「物は粗末にするな。」「机は勿體ないぞ。」

と、御談義は列べるものの、若し氣の利いた子供が居て

「先生これは何ですか。」

と、机を指したなら何と申しませう。

「失禮ながら父祖傳來の机、此の痍の中には恐らく汝の父も不名譽の一刀を加へたであらう。此の机、三代相傳へて成就したる此の彫刻、何を申すか。」

こは如何に心臟の御强い方でもよも申されますまい。

長い間に墨汁は痍ごとに食込んで、黑光のする机、横には揚子江の洋々たる流をかたどつてか深い溝が出來上り、縱には戰國時代の領土爭其のまゝに堅城を築くに似せて、中央の境を明徵にし、所々にトンネル工事も完成せられて、圖畫も書方も出來たものでない此の机。此の机ある限り訓育など大きな顏して申す事さへ出來ません。此の現狀に適應してか、兒童は机を仕事臺と心得、机の上を飛びあるいて恥ぢず、雜談の折には腰掛の代用となり、疲れたと申しては寢臺と間違へられ、急いだと申しては上靴のまゝ机上に上つて壁に成績品を貼る有樣。いや早世は澆季の末かと涙なしにはゐられません。

何とかせねばならん、何とかしてやりたい、机一つで日本の教育が廢れるぞとは思ひますが、さて全備品費をつぎ込んだとて何程出來ようぞ、年々氣長に一學級宛新調して見た所で、此の數多い學級を何とせう。今教育者の運命を勤續三十年として見ますと、卒業以來校長をしてゐた所で、一生かゝつても尙一巡は出來ますまい。よし完了したと假定しましたとても、始めの頃の購入品は最早遠の昔に御用濟が來て居るべき筈、とても左樣な氣長な事は出來ぬ此の私。考へて考へ抜いた末思ひついたのは天板裏返しの離れ業。さうだ自分の洋服だつて大抵は裏返して居る僻に、何で今迄氣がつかなかつたか、間抜けた事であつたわいと、直に出入りの大工を呼んで見積らして見ますと、天板裏返して、削つて、尙黑く塗つ

て十二錢でやりませうとの事、全校やつても百圓餘りか、一學級の新調費にも及ばぬではないか。何を置いてもこればかりは決行しよう、決行だ決行だと、會計を督して直に着手しました。

天板は前後に返したのでは穴の具合が悪いから左右に返せ、其の穴埋木してくれなど傍について監督しても、一日に一人よく二十脚の仕事が出來るのです。

始めの中は毎日曜日に作業をさせてゐましたが、月曜日が來る度によい天板の机が增すので、とても嬉しくてたまりません。子供は子供で出來上つた教室を覗いては羨しさうに

「校長先生、僕の方はまだですか。」

と訴へて來る。擔當もちつと待つては居れず、促進運動に來られる。致し方がない大工の手間を增して見ましたが、それでも間に合はぬ、思切つて毎日作業斷行と云ふ明朗振り、校內は大工の槌の音と共に喜びが增して來ます。

然し大工は大工で訴へるので、

「校長先生、一脚十二錢と御約束はしましたが、どうも辛抱出來ません。何とぞ十五錢にして下さい。此の天板の中へは釘、針、石の破片などが裏迄數限りなく喰込んで居ます。何枚鉋の刃が臺なしになつたか知れません。道具に御奉公で、一錢だつて殘りません。一體此の大切な机に誰が此の通り痕をつけたのでせう。馬鹿な事ですね。何樣私は大損です。何とかして下さい。」

と泣いて來ます。

「此の机は皆、君達本校卒業生諸君の御努力の結果ですよ。此の痕の中には君達も少からん勞力を費して御出だぞ。刃の毀れるのも何かの因緣ですわい。まあ辛抱したまへ。」

と笑つた事です。

私の樣に面の皮の厚い者は、時々先輩諸君に一皮剝いて戴くと、どうやら一人前になる樣に、汚れた机も時には一皮剝ぐ用意が大切です。どうしても生地其のまゝなれば、墨を使へば汚れる事はきまつた事だし、板の事故次第に板目の荒れて來るのはどうする事も出來ますまい。それで新調する時は少々位の高價には恐れず、天板は厚い素直なものを註文する事です。

さあかう天板が美しくなつて來ますと、子供は平氣で居れません。どの學級からともなく、新しい天板に古い脚では似合はぬと申して、全員たわし持參して自分の机の脚を磨始めましたので、見る見る內に美しくなる。隣の教室も負けてはならんと井戸端へ持つて行く者、バケツに水を汲んで來る者、それタワシだ、それ磨砂だと、二週間位は旋風的に机や腰掛が教室を出たり入つたりしまして、全校が見違へる樣なすが〳〵しい教室になりました。

此の時まで夢にも百圓そこ〳〵の金で元の新裝が出來るなどとは思はなかつた私、古い物は倉庫へ投込んだり、壞して薪の代用にするより外道のないものだと考へてゐた私を、自分ながら淋しい者に思はれてなりませんでした。物には生し方がある。生して使へば、新しい物と何の差違もなく用が足せるとつく〳〵思ひました。机などは此の頃作る松やラワン材とは違つて三十年も、前の品になると檜材が多い。削上げて見れば、子供の机には勿體ない樣な氣も致します。

かう教室が美事になつて來ますと、壇に立つ教師も、机につく子供も何時の間にか氣持がすつかり變つて來まして、誰もが机を大切にしてくれます。過つて少しでも痕など付かうものなら、半泣になつて手入してゐます。平になつた面を撫でては、何とも云へぬ嬉しさうな笑を湛へてゐるし、机に頰ずりしては、會心の情を表はしてゐる者すらあります。御掃除の時など謹んで取扱ひ、少しでも痕つけては相濟まぬと、鞠躬如として行じてゐます。私は此の樣を見る度に、三十年來の喜が

よみがへつて來てたまらなくなります。

「教室では騒いではならぬ。」「机は大切になさい。」「机を汚してはなりません。」など云ふ事は最早意味のない事になりました。

居は心を移すとか、實に恐ろしいものです。百圓そこ〳〵の金で、此の人間が出來たかと思へば、今更に嬉しさが込上げて來ますし、金の有難味が分つて來ました。何故もつと早く手をつけなかつたか、間拔け者めが、お前は机の思出は强かるべきにと、自ら責めてやみません。

教育は只表面に現はれた事象のみを見て騒ぎ廻つても、更々効果のないものです。よくその根元を尋ねて、一つ一つと手を入れて行けば、物皆は正しき所を得て素直になります。私が道以前と云ふ事に氣がつき出したのは、机でも黑板でも額でも腰掛でも、さては毎時の教室の出入靴の置方、傘の掛け方、禮であれ、擧手であれ、學校に行ぜらるゝありとあらゆる物皆は先づよく理會させ、自覺させ、師弟共に至誠の道に勵んだなれば、教育の構はいつしかに出來上るものだと氣がついたのであります。

私は机こそ勿體ないもの、嬉しいものと思ひつゞけて小學校を卒へ、中學校に進みましたが、丁度四年生の頃私を震駭させた事がありました。それは某と申す英人で宣教師を本職とする英語教師が、授業中にびよいと教卓へ腰を掛けて、講義してくれた事です。道を說く宗教家が何と淺ましい眞似をする事よと驚いたが、机と云ふ物の考へ方に、又一筋外の道がある事に氣がついた始めでした。それでも尙机とは教育の代名詞なりと心得て居た私が、愈々教師として世に送られた頃には、嘗て目を背けたあの英人等の思潮が、洪水の樣に湧上り押寄せまして、世は其の送迎に暇もなく、社會事情は走馬燈の如くに變り續けて止まず。自覺なき者はつい新思想なるものに溺込み　皇國日本の姿を見誤りまして、春風秋雨三十年、今に其の思想の教育實際が此の世から去りません。

さうですあの思潮の最も渦く頃、私は中里介山の大菩薩峠を讀みまして、机の夢は益々破れ、底知れぬ闇の中へと陷つてしまひました。世は机龍之助の如く失明陰慘、どこへどう流れて行く事やら、音なしの構で常に暗黑の世界をさ迷ひ、時には血に飢えて劍氣を追ふなど、いつ迄も〳〵行末知らず血に迷つて走る、あの息づまる世界が來たのです。机で代表せらるゝ教育も、無明の劍鬼机龍之助の机が直に通じたるが如く、萬身創痍の萬年仕事臺と成下り、頗る明朗を缺いで來ました。これをしも御時世と申しますか。

思へば私達教育者は、皇國次代の小國民を一手に引き受け乍ら、何と云ふ不甲斐なき姿でせう。我等の心一つで、次の日本が良くも惡くもなる重責を負ひ乍ら、餘りにも安眠を貪つて居るものですから、今の世は教育を第二義的に取扱つて居るのではないかと疑はれてなりません。教育は重大なりと云ふ事をよい事にして、再考の上再考の上と、愼重にも愼重に奥の奥へ仕舞込まれてしまつて居る樣に思はれてなりません。教育者たる者奮起一番、世の覺醒を促さねばなりません。

東亞の安定勢力と自他共に許す大日本帝國の義務教育が、果してこれでよいのでせうか。何時が來たら世界大國の水準線迄上つて來ませうか。府も縣も本省も教育を取扱はれる方々に何人の教育者がありますか。教育と云ふものは素人でも平氣でやり切れるものでせうか。教育參謀本部は不用でせうか。流るゝまゝに流れて行くのが教育なのですか。制度や監督だけが出來ればそれで安心なのでせうか。教育の本源は教師にあるのではないでせうか。人が人に接して日本人を作るのが教育ではないでせうか。然りとすれば、今の方法に轉換すべき所はありますまいか。更に兒童の體位は此の儘でよろしいか。それを教ふる人の健康は如何。國家は果してどの位心配して居て下さるのかと思つて、心配でなりません。教科課程の整理は必要ありと申し乍ら、何年調査に日を要して居る事でせう。教員の待遇はこれで安心ですか。教員給全額國庫負

擔でさへいつ實施せらるゝか、もう待ち精が切れ出しました。師範學校の改善は不必要なのですか。下手の考へ休むに似たりと申しますが、何時迄も休んで居ては此の非常時の國家を何とせられます。

更に又內省しますと、教育者自身も他を申す暇のない程重大事件が山積して居ます。兒童が寶と考へて毎日持つて來るあの教科書、誠に肩の負擔に耐へぬ程毎日運ぶあの教科書が、何時が來たら殘なしに讀む事が出來るのでせうか。皆書き得る日が來ませうか。毎年の徵兵檢査が終る度に學校は何して居るか、學力は少しもついては居ないではないか、六ケ年は何をさせたかと笑はれる事が何時頃無くなるのでせう。混亂其の極に達して居る教授法が何とかなる時は何時でせうか。思へば何時迄音無しの構が續くのでせう。もうよい加減に教育の本道を悟り、明朗奮起すべき時ではありますまいか。

今我等は次代の國民が何時かは脊負ふべき國難を少しにても輕かれと祈りつゝ、聖戰早三年、連戰連勝破竹の勢にて支那中原に、或は北支に、南支に皇威を輝かし、國民總親和總努力、食ふ物も着る物も極度に之を節して、只管勝利を祈つてやまないのであります。此の戰果を意義あらしめるは誰ぞ、云はずも知れた第二國民を外にしては何れに求めませう。臺灣は領有將に四十餘年いかにも進步はしましたが、まだ〳〵指導育成を要する事は現地を足の裏にて見た者が痛感して居ませう。朝鮮併合して早三十幾年、徒に年は取りましたが、指導者の爲すべき仕事が枚擧に暇のない事は現地の方にも異論ありますまい。此の朝鮮・臺灣に數百倍する滿洲或は支那を指導開發するには、實に幾十年・幾百年を要するのではありますまいか。此の考へ方が誤りなしとすれば、やがて來るであらう此の重任を果す者は誰でせう。斯く考及べば、非常時なるが故に尙一層の教育尊重の輿論がなくてはならんと心得ます。軍の方はよく軍農一致と申されまして、農業者のいかに軍編成上大切なるか、尙又其の農民が惠まれる事の薄きを重視せよと指導されますが、誠に有難い烱眼です。けれども私に忌憚なく申させて戴きますれば、軍教一致なのであります。軍の强靱さをいやが上にも增さんとすれば、先づ其の根元たるべき國民教育に諸肌脫がずばならないのではないでせうか。萬一此の教育が輕んぜられたり、効果に萬全を期する事が出來なかつたらどうなるのでせう。國家の運命を堵して只一筋に邁進する意味がなくなりは致しますまいか。私は國家が教育第一を念願されん事を祈つてやまないのであります。

机は教育に通ふ。机の大切にせられない時は教育も亦衰ふるでありませう。今の小學校の机を見て、感慨無量思はず筆はあらぬ方まで走つてしまひました。

第十四、聽

ばた〳〵〳〵がたん。がたんばた〳〵〳〵、引切りなしに耳を打つのは廊下を走る足音、戸を締める音明ける音、セメン廊下を小走りに行く下履の音、混亂其の物の様に朝から晩迄只音、音、音、學校はとても落ちつけない所、近代的工場の様な集團で、待てど暮せど澄む時がない。澄まぬが本統だと始めからきめてかゝつて居る人さへ多い今の世、さればと申して澄まなくてもよいでせうか。澄まねば兒童も教師も落付いては來ますまい。只今の有樣では何の仕事せずに居てもいら〳〵して、學校全體が神經衰弱になつてしまふやうです。それで自分自身から發する雜音を聽取る餘裕などは思ひもよらぬこと、つひには匙を投げてか雜音に更に自ら雜音を加へるので、教師も子供も浮薄で、氣の弱い、腹の坐らぬ、腰の拔けた、只口先許りで喋り議論を甲乙する事のみしか知らぬ情ない集團になりました。雜音を去り度い、雜音はいやだと年中思ひつゞけてもどうにもならぬもどかしさ。

音を聞けば、其の學校がすつかり分る。音に聞け、音は最もよき批判者であり、指導者である、と申しても、音を絕對に去れと申すのではありません。絕對の靜は死を意味します。靜は動を孕むが故に尊いのです。時來りなば逆卷く怒濤とも

なり、木も草も家も巖も一呑みして平然たるあの津浪の如き鐵石の志を持つが故に、鏡の如き大海が重きをなすのです。何時動は起るべきか、それは自覺せる我の命ずる時にのみ決然として立つべきであります。

休憩時には子供らしく潑剌として走り、或は躍るに何の遠慮が入りませう。運動場の角や廊下の突當りで、肺病患者の如き態度を取れとは露思ひません。これこそ亡國の兆です。然し此の全校雜然として遊ぶ内にも、自らが自らの音を無自覺のものにあらずやと、聞分くるだけの聰明さを育てますれば、下駄の音、靴の音、繩の音、毬の音、ヂャンケンと爭ふ聲、魁を呼ぶ聲などが全校一つに相和すオーケストラーとなつて、小學校として氣持よき響を發する事でせう。然して一度始業の合圖起れば一瞬にして靜となり、不覺の音一つ聞落さぬ聰明なる耳を持たねば、望む學校は成立ちません。

音を立つるも立てざるも、皆自覺ある我の然らしむる所であらねばなりません。よろしく走るべき時は走り、閉づべき時に閉ぢて、恥なき兒童を作らねば、靜の大目的を逸して、死の世界に突入します。

さて左樣に氣はつきましても、中々に雜音は取れません。徒らに子供を責め自ら責めたとて、所詮甲斐なき時があります。雜音の出る樣にして置いて騷いでも、それは愚なる事です。心ある者は先づ其の雜音の起る根源を突止めねばなりません。學校中で一番神經を苛立たせる雜音の放送所は傳板ですから、何より先に此の診斷に取りかゝりました。

校内全體の傳板の棧は悉くコンクリートとの接觸面が平でありませんから、どんなに靜かにと努めましても、音は遠慮なく起ります。薄氷を踏む思ひで渡つても、叱られる覺悟がなければ、傳廊下は通れぬ事となつて居りますのを何としませう。かゝる見易き事實を見逃がしておきながら、只がたゞと起る音にのみ氣を揉んだとて仕方のない事です。そこで私は直に大工を呼んで、セメントに喰付く樣に工作させて見ましたが、請負普請の常として、廊下のセメント凸凹常なきに關はらず、始め傳板を作つた間拔けの大工は曲尺當てて悉くの棧を態々同じ高さにしたものですから、どうしても手間のかかる事、とう〳〵一つ〳〵の棧から直しました。特殊の個性を持つ土間に普遍的に只間數だけ合して作つた傳板ですから、何とも仕樣がありません。かくして修理は終り、やれ嬉しやと通りぞめをして見ますと、いかにも心地がよろしい。之で明日よりは雜音の征服が出來たぞと安心しますと、中々さうは行きません。二三時間もすれば元のがたん〳〵が聞え出す、何たる不都合ぞと實地檢分しますと、澤山の者が通れば、傳板は生命あるが如くいつの間にか移行して、コンクリートとの接觸が惡くなり、雜音が出るのです。どうにも仕方がないものですから、自轉車のタイヤの古いのを集めて棧全部に打付けますと、音はすつかり柔らかくなりますが、移行はどうにも防止が出來ないので、更に傳板と傳板に觸手を作り、引合ひさせて見ますと、案外うまく行つて、何日かは持ちましたが、ちよつと安心して居ますと、忽ち警告でもするかの樣にあちこちの傳板が鳴り出します。最後に氣の付いた事は傳板の兩端と中央の棧を他の二倍の高さとして、其の半分だけの深さの穴をコンクリートに開け、三所だけはきつちり穴へ這入る樣に改造して見ました所、今度こそは見事に成功しました。下駄を穿いた部分が固定致しますから、金輪際動きもせねば音も立たず、歩き心地のよい事はいまだかつて經驗した事がない程です。私共を長い間苦しめました雜音の伏魔殿は、やつと片づける事が出來ました。これ皆耳が内へ内へと向つて少しの音でも聞込み、自らを指導しつゞけた爲であります。忘りなく自省しますと、耳は次第に聰となり、深く〳〵根源につき入りまして、學校は靜へ〳〵と進んで參ります。

傳板は音ばかりで苦しめたので、なく、自分勝手に移行して眞直に居らぬ事でも困りましたが、下駄を穿かせて穴に入れましてからは、常に直く正しく、少しも動かなくなりました。此の規則正しい傳板は童師の心を痛く打つものか、無自覺者もそろ〳〵と自覺しはじめます。校長諸君が就任後直ちに傳板の修理をせられて眞直にし、無音の通路を工夫せられたら、職員は思はざる間に方向轉換をするものでせう。

傳板は二間續きがよろしい。一間物は持運びには便利ですが、移行防止に骨が折れます。廣さは一人通るだけなれば三枚で結構でありますが、行違の出來る樣にする爲には、六枚か七枚がよろしい。又打付けた貫と貫との間隔は餘程考へないと失敗します。廣過ぎますと踏みつけた足の安定が失はれて、身體は動搖し、上履の鼻緒が切れるやら、スリツパの甲皮が裏皮と離れて、其の用を足さなくなるなど、雜音は又其處からも起ります。と申してつめ打ちにしますと、貫の枚數を增さぬ限り、幅が狹くなつてしまひます。長い間の經驗によりますと、貫と貫の間隔は一糎五粍位がよい樣です。

次は棧と棧は何程位開けて打てばよいかと云ふ事ですが、これなど始の中は何の關心もなくやつて居ましたが、どうにも貫が折れて仕方がない、貫が惡い爲めだと思つて可成厚い物に取換へても、又折れる。何度か失敗の末、つい氣の付いた事は棧と棧の間隔です。餘り廣いと子供達は貫の彈力が面白さに無用の處に力を入れて一搖り搖つて見ますから、貫は次第に耐久力を失つて折れるのでした。尙急いだ時など走りますと、最も距離の廣い處から必ず折れるし、昇降に一段下りる處や、通路などで傳板と傳板の間に切れ目を作り一跳せねば渡れぬ樣な處は、棧をつめる必要がありますが、普通一番都合のよいのは四十五糎位開ける事です。

斯く細心に注意が行渡りますと、傳板から出る雜音はいよ〳〵其の跡を斷ちますが、次に我々を惱ますのは、出入口の戸の辷りの惡いものです。一日に何度となく開け且つ閉ぢる戸を、よく諦めて辛抱して居られる擔當の方がありますが、耳がないのかともどかしう感じます。

戸は修繕する度にレールを入れて、玉ぜりの入つた車をつけると、驚く程輕くなります。

音を無くすればする程、人々の耳は聰となりまして、音なき音を聞き、聲なき聲を聞く事が出來る樣になりますので、童師の聲は底力ある低い聲と變りまして、學校全體が落付いて來ます。

第十五　晝　食

永い間の迷夢より醒めて、老師の敎へ給ふ道にいそしまんと工夫に餘念ない頃でした。或る有力なる父親が來られまして

「校長先生に伺ひますが、此の頃學校では晝支度に御湯は下さいませんのでせうか。」

との御話です。其の頃は職員諸君にまだ私の考へ方をはつきり話してない時ですから、晝食になど特別の考慮を拂つて居ませんので、實に亂れたものでした。强い者許りが腕力で茶瓶を占領してしまつて、弱い者は年中分配を受ける事はないのに、只茶瓶の當番だけは勵げまねばならん時でして、御辨當の菜など甘いものを持つて行けば全くの共產主義です。子を思ふ親になれば、辛抱の出來ないのは尤の事です。

「これだけ消耗費を置いてあるのに、常に水の樣な茶を呑ますとは妙ではないか。」

と町會に出た意見だと、町長からそうと傳へてくれたのも此の頃でした。

驚いて實地を見ますと、云はるゝ通り一時間も前に半沸しの湯を小使と給仕が、敎室の出入口へ一學級一個の割合で配給するのですから、よし强力な地位を占めて居る子供でも、水で晝食すると云はれても更々異論を申せぬ有樣でした。嚴寒の候など、敎師は股火して食事するに、子供は震いつゝ水の樣な御湯をアルミニユームの辨當箱の蓋に入れて飲むのが組の强力者で上々の部類。最早此のまゝでは、師としての役目が果せぬし、又人の親として考へても、默してゐる事は出來ない狀態でした。

先づ第一着手として各學級二個づゝ茶瓶を配當する事にして購入しました所、大變な故障を意外の所から訴へて參りま

した。小使が

「現在の釜では一級二個の需要には應ずる事が出來ません。」

と云ふのです。さあ困つた、竈からやり直さないと此の難關は突破する事は出來ぬ。仕方がない、さうするより外にないなら、それが最後の案だ、澁る會計を督勵して無理にもやり切りました。之で解決は出來たと安心して小使室へ給湯の情況巡視に行きますと、折も折小使・給仕が集つて相談最中です。よく聞いてやりますと、現在の人數では各室へ二個の茶瓶を溫い内に送る事は不可能だと申します。成る程聞いて見れば此所にも私の到らぬ點がある。もと〳〵小使・給仕に茶瓶を配らす事は一見親切な樣ではあるが、湯を水の樣にする原因は此所に有るので、配給する者も困れば、受けた子供等も冷たくて困ると云ふ有樣です。

此の解決は案外樂でした。各學級から御茶の當番を作ればよい。所が何十學級の者が一時に押しかけては小使室は又しても混亂に陷つてしまひませうから、小使室の前の廊下に蝶番で上げ下しの出來る棚を作り、御茶の用意が出來ると同時に、棚に上げて學年學級名を記した所に置いてやる事とすれば、全く易々たるものです。晝食が終れば各當番は茶瓶をすゝぎ、小使室所定の棚へ直す事と定めましたので、今迄の騷はけろりと忘れ、再び靜は取返されました。

兒童も喜び、小使も安心しましたがよく考へますと、まだ根本的の問題が殘されて居ます。今迄は只枝葉の整ふ事をのみ願つて、根幹を忘れてゐました。思へば冷汗三斗の思ひです。給湯の事をさ程迄に心配するのなれば、何故童師食事を共にする事に思ひを致さなかつたかと自ら責めてやみません。

童師會食となれば、師の食事準備をいかにするかと工夫を要しますが、之はさう手間のかゝるものではありません。子供の當番を增せばよろしい。食事前給仕三名は幸給湯の工夫をしたため手間が空いて居ますから、職員室の師の机の上に膳を置き、茶碗・箸・菜・辨當を揃へてさへ置けば、子供は喜んで運んで行きますし、御湯の當番を一人增せば、兒童の茶瓶の傍に置いた教師用の茶瓶が何の苦もなく運ばれまして、先づ一安心とほつと致しました。

少し日を置きましても、う餘程巧く行つて居るだらうと晝食事の校内巡視をしますと、問題はまだ〳〵殘つて居ました。實に思ひもかけぬ事ですが、驚いた事には殆どすべての子供が滿足に箸の持てぬ者ばかりなのです。何と云ふ迂濶な事でせう。實を申せば箸や茶碗の持方などは家庭教育の持分であつて、學校教育が此所迄行かねばならぬ運命にありとは、全く思設けぬ事でした。

義務教育が終る頃となりましても、我等の祖先以來持ち續けて來た日本獨特の箸さへ滿足に持てぬ教育、今迄家庭も學校も此の手近い仕事を殘して何を求めて居たのでせう。幸に本記錄を讀んで下さいます皆樣、貴君の學級の箸の持ち方を靜かに觀察してやつて下さい。劣等生と申す者程怪しげな事になつて居ます。私はひそかに箸の持ち方が惡かつたから劣等生に成下つたのではないかと迄に思はれてならんのです。勿論劣等生なるが故に箸の持ち方を考へず、劣等生らしい創作しか出來なかつたのだとは存じてゐますが、今となつて思ふのですが、箸の持ち方さへ見れば大抵兒童の能力が分る。入學に當り親にも子供にも迷惑をかけてテストなどせずとも、子供の喜ぶ辨當持たせて學校に來させたがよい、只一度の食事で、直に能力を見定める事が出來ると確信しました。

二本の箸の内前の方の一は親指と人さし指にて挾み、後の一本と前との間に中指を入れ、後の一本の下から紅指で押上げて居る者が學級の半數もあれば、餘程好成績の所と思ひます。子供に對する注意が此の邊迄進んで參りますと、一事一事に注意が拂はれます。何だ箸の持ち方が教育に何の關係ありやと申される方は是非もなき事、道を求めて止まぬ同志の方々、何卒兒童の箸の持ち方を見てやつて下さい。今の教育には此の樣な際間が到る所に殘されて居ます。

始め童師會食するのだと定めますと、職員諸君の中には、其の樣な事すれば子供は嫌つて辨當持つて來まいと云ふ說が大分ありましたが、實行に移つて見ますと、豈計らんや皆喜んで來るばかりでなく、今迄持つて來てゐなかつた者迄が馳參じて大入滿員だと笑つてゐます。殊に意外なのは高等二年の女生など定めて辨當持參者が減ずるであらうと思つて居ましたが、見事に豫想に反して、全員嬉々として居る事です。事をなすに當り善なりと信じた時は、あまりに取越苦勞する事はやめて先づ行じて見る元氣が、何よりも教育を進展させます。

食事作法の指導は晝食時を置いて外に見出す事は出來ないですから、全校一致强行せねばなりません。茶瓶と箸を片手で同時に持つ者、辨當箱の御飯に箸を二本つき立てて御茶を入れる者、口一ぱい物を含んで茶瓶取りに歩き廻る者、茶碗を持上げずに口を近よせて御茶を飲む者、あの子の家庭もさこそと御里が知れて實に妙です。平生やかましく物申す所謂有志の子供に、見事な不作法者が多い事に驚き呆れます。

擔任の方が申されますには、會食を始めた頃はとても多忙でやり切れなかつた。誰を見ても指導してやらねばならぬ事ばかり、學校中の作法で一番徹底して居ないのは此の時間でせう。今迄無關心で居た事が恥かしい、あまりにも現實を見せつけられると、自分の家の子供が學校で斯樣な事してゐるのではないかと、氣が引けてならぬと云はれます。いかにも私三人學校に御世話になつて居ますが、御手許拜見と申されはしまいかと冷々する次第です。家庭教育が學校教育の根源である事は何度も教へられ、且つ又私自身も申しつゞけて來た事ですが、あまりにも足下に見落しの多い事にすつかり恐ろしさを感じます。

今私の學校で全校統一して居ます食事作法を申しませう。先づ第一に手を美しく洗つて入室、御辨當の風呂敷は丁寧に四つにたゝみ机の中に入れ、御茶碗に御茶を入れ、成るべく辨當箱の蓋等を使用せぬ事にして居ます。御箸を出しますと箸箱の蓋も正しく整へ、御箸を御茶にて一寸しめし、ハンカチを持つ者は膝を覆つて靜かに一同の揃ふのを待ちます。之で準備は全く整ひます。擔任の方がよい頃を見計らひ姿勢を正して待ちますと、兒童からと云ふでなく、師からと云ふでもなく、和やかに今日亦嬉しく平和に戴ける食事を、神に父母に感謝するが如く、つゞましやかに「戴きます。」と云ひ、心靜かに食事に取掛ります。辨當箱の音が餘り耳に立たぬ樣にして左手に持ち、右手は箸を正しく持たせ、菜入の蓋は半分開けたり隱したりせず、稍肘を張り加減にしてつゞましくし、落ちついてよく嚙みこなす習慣をつけさせて居ります。教師が急ぐと、子供は遲れまいと一生懸命に速度を早め、師を待たさぬ樣にしますから、特に留意せねばなりません。急ぐ子供には時々注意を與へないと、妙な所で競爭が出來て、半分殘したりなどして、嬉しがつて居る者があります。子供と云ふ者は誠に思ひもかけぬ所に興味を持つ者です。御茶を入れる時は必ず箸は箱にかけて置き、箸を持つたまゝ用を足す樣な不體裁のない樣にします。食事の終つた者から音を立てずに箸を茶碗の中にてすゝぎ、そつと箱に納め、飲殘りの御茶の始末をして机の中にふせて納め、ハンケチで口のまはりを拭ふもよし、揚子など使ふ氣の利いた子には口を手にて隱す床しさを教へます。食事の最後に殘りの御茶にて、口中の嗽をする事を忘れてはなりませんが、其の音によく氣をつけて、殊更らしい人の耳を打つ事のない樣留意せしめます。全兒童が終る頃にやつと師の食事も終る樣常々調節してやる事が、親心として最も大切なのです。此の時計りは全兒童に待たしめるだけの餘裕を持たなければ、子供は常に師の速度を心配し、落付いて食事する事が出來ません。「御馳走でした。」と互に挨拶して室を出ますが、當番は二個の茶瓶の茶も捨て、美しくすゝいで所定の棚に置きます。師の御膳當番は御膳を小使室に下げ、小さな茶瓶も亦名札の位置に返します。

食事の後は教師より四方山の話などするとよいものです。時には食事の心得など話しますと、ひし〳〵と身にしむ樣に見えます。本校では、此の時を利用して食事の禁條を示してゐます。

箸なまり　鱠たべよか汁吸はうかと、見合せてはならない。

もぎぐひ　箸についた飯粒などを、唇などにてもぎ取つてはいかない。

移り箸　御平食べたら、一旦飯に歸らずして、他の物を食べてはならない。

握り箸　箸を握つて魚などむしつてはならない。

かみ箸　箸の先を嚙んだり甞めてはならない。

こみ箸　口の中深く箸を入れ、又は物を箸で押込んではならない。

さぐり箸　椀中の何かうまいものをと、かき廻してはいかない。

そら箸　之れ食べようと皿の中に箸をつけて置きながら、食べずに置くはいけない。

かため箸　椀の中の物を箸にて押しかためて食べてはいけない。

子供が一番喜ぶのは師の御湯を運んだり、御膳を持つて行く時の様です。殊に貧しい家の子供程此の時ばかりは生々と張切つて、人間らしい光が顏一ぱい漂つて居ます。人として誰でも持合せて居る和やかな光であり、佛性其の儘の現れです。小さい子供が師の茶瓶持つて一滴も零すまじと戰々として行くあの足どり、今迄反射的の何でもなかつた歩むと云ふ事にまで深い自覺がよみ返つて來てゐます。師の御膳さゝげて全身の注意を兩手に集めつゝ、長い廊下を進む子に、誰するとなく道を讓つて居る心と心、思はぬ所に思はぬ收獲が滿ち足つて居ます。

更に偏食兒童の調査や、偏食の矯正などは此の時を置いては他にありません。とても家庭などにまかせておきましては出來るものではないのです。次に食事量の調査も怠つてはなりません。學年が進むにつれて、辨當籍は逆に小さいのを喜ぶ樣な風が、女子には何れへ參りましても有る樣です。

第十七　晝會

午食も終り全校の兒童が嬉々として思ひ〳〵の組を作り遊ぶ者もあれば、木蔭に談笑する者もありますが、晝會の豫告にラヂオの歌や太平洋行進曲などが鳴り出しますと、教室からも中庭からも晝會場へと集つて來ます。教師は二十分前から全員運動場へ出て子供等と遊ぶ者、運動場の周圍を歩みつゞける者も皆所定の位置に歸り、子供と共に上衣を脫ぎ、體操の出來る樣に列び、サイレンを合圖に「氣ヲ付ケ」をなし、當番が指揮をとつて體操をはじめ、終れば服裝を整へて朝禮の順序に入室。必要な事を校長から、主任から注意を致します。斯く申して見ますと誠に簡單至極の樣ですが、此所迄漕ぎつけるには、朝禮に劣らぬ苦心と迷を繰返したものです。

私が赴任した當初は朝禮が終つて、ラヂオ體操をしたものです。型の如く指揮命令による朝禮が終りますと、體操主任登壇「氣を付け」「體操の隊形に開け」「第一ラヂオ體操用意」「始め」と何年續けても少しの進歩も見えぬし、子供が少しも喜びを持たぬ體操をやつて居ましたが、學校の行事を深く反省し出しますと、合點の行かぬ事に思はれてならなくなりました。若しラヂオの放送があるから便利だとすれば、夫は腑に落ちぬ事で、放送局では全國平均して一番都合のよい時に放送されてはゐますが、學校にはそれ〴〵特殊性を持つてゐる事ですから、出來る事なれば、全國一齊にする事もよいのですが、必ずせなくてはならんと云ふ理由も成立ちますまい。習ひ性となつてか、全校の體操は朝でなければ出來ないと云ふ感じがして來て居ますが、よく考へて見ますと笑止な事です。

毎朝校長や各主任より眞綿で首を締める樣な注意や、人の子とも思つてくれない樣な口振りで惡罵を受ける身になつて見れば、朝禮こそ一日中で最も不快な、恐ろしい行事として終日惡印象が生々と殘りませうし、尙又時間を合はす爲に苦

勞しながら只型の體操をするのであつたら、益々意味のない行事と成果てるので、朝禮から訓示と體操とを取りやめと決して、晝會を作りました。

心地よい日光を受け乍ら、全校二千名三千坪に餘る運動場一ぱいとなつて體操しますと、全校一心大らかなる氣分となつて、總親和總努力の根源を養ふ樣に思はれます。

然し毎日行ずる體操に、一々號令かけて迄やらねば定まり切つた行事が出來ない樣では、人を育てる學校の行事として凡そ意味の無い事ですから、或る日の朝禮の終りに

「今迄は毎朝ラヂオ體操して居ましたが、明日より午食時にラヂオの歌で運動場に集り、只今の樣に整列して待つ事にします。先發の者さへ自分の組の位置を忘れなかつたなら、集まつて來た者から順次前後左右の距離と間隔をとれば、それで充分ではありませんか。自分の位置が定まれば、上衣や羽織を取つて一直線に整頓して置きなさい。」

と命じました。朝禮も大體出來かけて居た頃であるし、大丈夫と思ひましたが、中々きつい混亂でどうにもなりません。體操主任は指揮臺の上に立往生するし、擔任諸君は自級の整理に困切つて居ます。然し出來ると云ふ自信がありましたから、何日經つても人々の嘆息も聞流して、兒童が早く靜かに正しく列ぶのだと各自覺すれば、大した難事に非ずと、始めから心にきめてかゝつて居ました。先づ擔任諸君に兒童より先に自已學級の前に集つて戴く事として其の範を示し、平常體操の時間に早く自分の位置が取れる樣毎々練習してもらつた所が、どうにか成功の域に進んで參りました。只列の後へ行く程甘く行きません。それは札付の兒童で、第一の集會の合圖を聞いても、ぐずぐずして間に合はぬ者の寄合ひだからでした。此の點に氣が付いたので、半數だけの擔任を、一週間交替で、自學級の最後へ廻つて戴きましたので、何でもなく解決が出來ました。

或る時參觀せられた方が、

「指揮臺の周圍に自由配列すればよいではないか。」

との御注意を下さいましたが、自由配列の出來る程自覺のあるものなら、隊形を整へたらどんなによいかと思ひます。全校同一事を行じ、一校一心の意氣を示す時は何と申しても形が大切です。二千名規律正しく整列して、正々堂々と行じて見れば、其の間自ら全體としての威容が整ひ、大集團としての力が現れます。出來る事を殊更不整頓にする必要もありますまい。殊に入室となりますと、整列して居る方がどれ位便利であるか知れないし、色々注意事項のある場合には尙更に整列が必要となります。

レコードに合した第一第二と各一回連續のラジオ體操終れば「休め」をしますと、兒童は各自服裝を整へつゝ靜かに前方に集つて來て、氣をつけの姿勢をとり、指揮者の目に全部の目が集ります。此の時「體操終り。」と挨拶して一禮しますと、全員豊かな氣持で會釋し合ひ、體操は終ります。

麗かなる春、天高き秋、身にしむ嚴冬も雨天でない限りはやめません。只夏の七月後半だけは注意して取止める時もあります。殊に五月中頃より十月始め迄は上半身裸體となりまして、男女共日光浴をします。海に行く機會に乏しい子供達は此の裸體々操で赤銅色に燒けまして、冬など風邪になやむ者が次第に減少して參りました。

女子青年學校や高等の女子を半裸の日光浴とは餘りに非常識なと御叱を受ける時もありますが、此の子達は學校の此の機會を除いては絶對に其の時がなく、若し自宅などにて勇敢にしようものなら、氣違よと笑はれるでせう。思切つて諸批評を押し切つてやる所に、校長の親心があると確信して居ます。

體操も終りまして、校長や主任が注意すべき必要の有る日は、指揮者と入れ替つて登壇します。子供は此の氣配が見え

ますと、自發的に中央へ集合して參りまして、早くも承る態度となります。此の時壇上の者はよい氣持になつて、豫め主要點を嚴選しておきまして、きりつめて合點の行く樣に申すべきです。自已陶醉して十分も十五分も喋る事は他の凡ての會合の場合と同樣、凡そ不必要の事なのです。兒童に限らず職員でも一場に集めて話して見ますと、案外徹底して居ないのに驚くのです。大人にして尙然りです。子供であつて見れば殆どの者が閉流しになつてしまひます。

朝禮で話した事や、本日の目標や、各學級の擔任者に依賴して兒童に傳へてもらつた事などは、此の機會に何學年何組の何番と番號を示して問うて見ると、童師共よく心に留めて居て、全校に必要な事は隅々まで行渡り、其の日の目標も終日會得して行じ、失念する樣な者がなくなつて來ます。

晝會の時にも大勢の者の中ですから、遲刻する者が有ります。何と子供が力んでも、家庭にはそれぞれ止を得ない事情があつて、休むよりましだと出て來るのですから、只一樣に叱る事も出來ませんが、之等の者がのこ〳〵と體操中に集つて來る事は、どうにも面白い事でありませんから、校門さへ這入つて居れば、校內放送のレコードに合せて、時間の鳴つた其の場で自已の命ずるまゝに體操する事にしてあります。御話となりますと、列生と同時に朝禮の遲參者集合所に集り、謹んで、承る事にしてあります。

私の學校では朝の集りは朝禮と申して朝會とは云はせず、晝の集りは晝會と申して晝禮とは云ひません。此の言葉でも其の精神を御汲取り願ひ度いと思ひます。

第十八　帽子と靴

帽子は元來舶來品、日本人としては未だ百年に足らぬ修業期間しか持つて居ない物ですから、如何なる時に被り、何時脫ぐかと云ふ事は修練が足らぬ樣です。勿論歐米には歐米の禮儀が有つて、いかに洋服を着用してゐても、其のまゝ我國人が取つて持つて行ずべきか否かと云ふ事は、よく〳〵考直さねばならぬ事です。殊に御江戸の文明開化時代以來徒らに其の形のみ取入れて、日本人である事を忘れてしまつて居る樣です。

日本人は元來外出となれば如何なる人も髻を結び直して、漆黑の髮、威風堂々と出たものですから、帽子も其の代用の被り物だと考へて居る樣で、若し頰被りと同樣と思つたら、門を入れば直に取つて手に持つべきはずであります。此の風習が根强く喰込んで居るものですから、相當の敎養ある人々が平然として敎室へでも、校長室へでも帽子を被つたまま入つて來られる所を見ますと、御自分の御宅では奧の隅迄も行かれる事と思ふのですが、日本人として家の內で帽子を被る事は間違ひではないでせうか。家は西洋建として有りましても、住む者は日本人です。何としても家の中では脫帽する習慣を作らねばなりません。

彼の食堂へ集つた時など帽子のまゝ平氣で食事して居るのを見ますと、何だか未開人の樣に思はれます。芝居キネマ等に行きますと、老も若きも帽子被らずば損だと云はぬ計りに、或は帽子がキネマでも見るが如くに平然たるものです。そこで子供達も何の疑も持たずに、何處迄も被つて參ります。丁度鉛筆持てば必ず舐めずばおかぬと同樣です。無自覺の末が遂に習慣となつたもので、實に恐るべき事です。

私の學校でも御多分に漏れず帽子は入室後も被り、「起立」「禮」の有る迄戴き通して居たものです。頭に被る故に左樣に大切に取扱ふのかと見れば、授業時間中など何れの室にも落ちた帽子が充滿して居ます。子供は出入りに蹴飛ばしても、跨ぎ越しても何の恥ぢる樣子のないばかりか、敎師共の人でさへ拾つてやる親切も見えません。全く戴き通す心理とは正反對の樣です。

何時かの職員會の折に、帽子はどうしたらよいかと云ふ問題が出ました。色々議論は伺ひましたが、室内で被るべき物ではないと云ふ事に一致しました。そして各自が今迄無自覺にも被つて居た事を、此の上もない恥かしい事に反省し合ひました。されば兒童はどうすればよいかと云ふ事となりまして、廊下に釣るのも困るし、教室の後にかけるのも困る。と申して机の釘になど掛けたら時間中に何度でも落ちるが、之を拾つて居ると授業にも何にもならぬ。一體どうすればよいかと困り果てました。私としもやつて見るだけの自信がありませぬものですから、各自色々工夫して戴く事として靜觀して居ました。或る時本年卒業したばかりの若い先生の教室へ行つて見ますと、何と見事に成功したもので、何所を見ても帽子がないのです。さては机の中かと窺つて見てもさうではありません。一體どうして居る事か合點が參らないものですから伺ひますと、何とよく考へたものではありませんか、朝來れば各自の鞄は空なのだから其の中に納める事にして、授業も終り歸る段となれば、學用品と入替へて持つて出る事として居ます。いかにもよい工夫と感じ入り、全校やる事にしました。體操の時間に運動帽は被りますが、其の時間を除いては無帽としたので、誠に心持のよい事になりました。斯くして日々の動作を少しでも、日本人として床しい習慣に引返して來られる事が教育の力と存じまして、嬉しくてたまりません。

子供と申す者は實に鋭敏な處もありますが、一面無頓着で、無神經の様に平氣な所は平氣なものです。うつかりすると机の中など學用品と茶椀、さては辨當、上草履までが共同生活をはじめて居ます。あの茶椀でよくも晝食するものだと疑はれるのですが、一向平氣で、何時迄經つても、教師も子供も考へてくれません。私は帽子の鞄入りに暗示を得まして、辨當は夏でない限り鞄の内に保存して、其の鞄は机の釘に掛ける事としました。草履袋は机の内は絶對に入れる事は許さず。時間中は空にして釘にかけ、放課後は自宅に持つて歸る事としました。

第十八　修業苦

修業はとてもむつかしい。釋迦の偉大さを持ちながら、親を捨て、妻を捨て、子をも友をも打捨てて、身を削る難行苦行を重ねても尚成らず、暗澹たる闇の世界を彷徨する事幾年にして、將に生命の絶えんとするに及びまして、忽然として構想急轉、やつとの事で功成つたのであります。

平凡中の平凡人と百も承知の私共の修業ですもの、彼岸に到達する困難は生優しいもので無い事は明かであります。然しながら凡人には凡人の修業道のあるべき筈、徒らに聖賢の大業と比較して失望したり恐怖したりするのは、自已を知らざる笑止の業であります。三しかなき天賦を十に發揮せんなど考へる日には、身を殺しても成就するはずはありません。只三なる者は三の修業をしようと、最も平凡に押進めば、案外修業は樂なものになります。此處に氣がつきますと、徒らに外をのみ見て悲歎せる事の愚を覺り、我は我なり何をか恐れんやと云ふ氣持が勃然として起つて來ます。

道の建設を思ひ立たれる時は自分の力量はいくら位あるものかと自ら試して見るがよろしい。机上で彼是論ずるは易いが、何千何百の子供を前にして、彼等の魂をよし一粍でもよい、向上させてやり度いと願ふ事は中々の大業であります。到つて平易なる行を選ぶがよろしい。若しこれに成就しましたなれば、一心萬法の世のたとへ、其の間に修業の妙味を體得して、更に躍進します。さうなると生活といふものが、常に喜を以つて修業となつて來ます。

所が大抵の人は及びもつかぬ大きな物に始から組付いて行くものですから、只苦しむのみにて其の效は擧らず、終に打捨てて修業など云ふ事を更に顧みず、たゞ平々凡々と其の日々々を送る様になるものです。

私は始に鉛筆を舐めるのを止めて見たいと思ひつきまして、職員に話して見ますと、夫は易々たる事、命令一下禁止が

出來ると力まれましたが、中々以つて一大事でした。

何のために鉛筆を舐めるか、私は不思議でなりません。或人の曰く

「それは鉛筆の心が悪いので、唾で濕して居るのだ。」

「心が堅過ぎて帳面を突破るから調節して居るのだ。」

とも云ひますが、私は合點する事が出來ません。若しさうだとすれば、日本國中の鉛筆は盡く悪い品であると申すのと同意味に取らねばならぬ。それ位大人も子供も舐めねば損だと繰返して居ます。

先づ舐める樣を御覽なさい。大人であれ、子供であれ、大きな口を開いて待つて居て、鉛筆が口の側まで行くと長い舌をぺろりと出して丁寧に之を舐め、やをら書き出すあの樣は、とても見ては居れないものです。これが習慣となると、人に鉛筆を借りても平氣で舐める。心臟の強い方になると、床の上や庭で拾つた物を子供から受け取つて、一寸持つて居る間にも早舐める。鉛筆持てば舐めねばやまぬ云ふ恐るべき癖となつてゐます。

もう三十年にもなりませうか私が中學校に居た時、極く意地の悪い數學の教師がありました。運動會の明けの日でも算術の豫習が出來て居ないものなら、牛馬を罵る樣な言ひ方で、人間並みには取扱つてくれず、大喝一聲閻魔帳をさも齒痒さうに引開けて付けて行きます。落第の數の多い事を手柄にして、去年は何十名落した、本年もと一學期の始より恰も落伍者を養成するが如き態度、學生一同戰き恐れて、山荒と云ふ尊號を奉り、血の通ふ人間の樣には思つて居ませんでしたが、此の山荒先生妙な癖がありまして、閻魔帳を開けると同時に、恐ろしい大きな口を開けて、さもいま〳〵しさうに鉛筆に嚙み付いて、符號を入れて行くのでした。何時か山荒を凹まさうとは學校中の輿論でありました。或る時一人の智慧者が出まして、僕が征伐をやるから君達見て居よと計りに、拾つた手頃の鉛筆を便所に差込み、何食はぬ顏して教卓の上に置いたものです。山荒先生つか〳〵と入室、意地悪くも其の知慧者に第一着手として指名したものです。「忘れました。」と勇敢に答へますと、忽ち怒髮天を衝くの勢で

「馬鹿又出來んか、落第だぞ。」

と、教卓の上に置いてあつた拾ひ鉛筆に手が掛ると、大口開けて食ひつきましたが、忽ち

「あゝ鹽から。」

と申して投出しましたので、全教室手を拍つて凱歌を擧げましたが、山荒先生には一向意味が分りませんから、恍けた樣な表情で、其の場は收まりました。これ程習慣は恐ろしいものなのです。

妙なもので、舐めれば舐める程色は薄くなります。危篤な病人に强心劑でも打つ樣に、次第に其の速度を增さぬと書けなくなりますから、尙々舐めねばやまぬと云ふ有樣で、日本中の大抵の人は、鉛筆は舐めて使用する物ときめてかゝつて居ますから、二つ三つの何も知らぬ子供まで、鉛筆持てば必ず舐めるのがよい事になつてしまひ、三つ兒の魂百迄とか、小學校卒業する迄何の反省もなく通して行きます。私の學校等でも始めは六割位の常習者がありました。何とかして力だめしに之を止めて見たいと、何度注意しても止まればこそ、仕方がありませんから、面白可笑しく眞似迄して見せましても、聞く時だけはさうだと合點した樣子でも、間違ふとか行きつまるとかしますと、すぐ口へ持つて行つてしまひます。

何とかして止めたい、此の根强い習慣を矯正する事が出來れば、教へる者も亦教へらるゝ者も自信ができると、可成根氣よくやつたのですが、ともすれば師の方が負けさうになつてなりません。鉛筆を舐めた者は指名して行く事にしますと、餘りに數が多いので、授業の流が停滯してしまひます。一々指さしてゐますと、本人も餘りに度々の事ですつかり恐縮して、相濟まぬと云ふ風に薄笑はしてゐますが、一年經つても成功しません。終に考へた事は全兒童に反省簿を作り、

鉛筆を舐めて指名せられた度に▲を入れる事として、最終の時間に其の數を見て自省する事としましたが、何ケ月かしてやつと全校から、此の惡習が姿を消す樣になりました。勿論之れを斷行する迄には、鉛筆の選定を嚴重にすることは云ふ迄もありません。

此の癖を取去る事が出來る頃には、大抵訓練は出來て居ました。此の根强いものを取去る自覺を呼起す事が可能なれば、他の如何なる事でも成し遂げ得ると云ふ自信がつきました。

其の後、私は本統の教育をなさんとの勇猛心に燃ゆる方々に會ふ度に、先づ鉛筆を舐める事を止める工夫をして見給へこれさへ成功すれば他は易々たるものである。行ぜんとする者のバロメーターだと申してゐます。平凡人の凡行は日常の一些事に自覺を求めて、笑ひながら全校の者が修業をする事が何よりと存じます。

正しい姿勢で學習する事は、凡そ全國の教育者諸君唯一人として不贊成を稱へる方はありますまいが、此の何でもないと思はれる姿勢が正しくなる迄には、童師共に精と根とをつくさなかつたら、成功するものではありません。所謂體操學校と銘打つて、自他共に許して居る樣な所でも、體操は體操で、授業の姿勢には更に關係ない事になつて居ますから、近視眼の多い事、前彎の多い事に驚きます。小學生から近視眼が兒童の何割もあり、中等學校へ進めば三割四割位が普通だと云ふし、專門學校や大學などに進みますと、六割七割と高率に上るさうですが、文化の進むにつれて數も正比例すると致しますと、將來日本人は殆ど全部眼鏡をかけねばならぬ樣になるのではないかも知れません。何れの都市へ出ましても、町に眼鏡屋が見當らない所はありません。勿論眼鏡屋の話では何の商賣より一番割よく儲かるさうですから、時勢に適應して居る事でせうが、一體此の調子で進んだなれば、行付く先は何となる物かと心配でたまりません。或る西洋人の申す事には、此の頃歐洲に遊ぶ日本人と支那人とを見分けるに、眼鏡かけて居るか然らざるかによるが一番間違ない事だと謂つて居ます。日本人は眼鏡掛ける事になつてしまつた樣な申分で、誠に恐入つた事です。此の恐るべき傾向にある時、第二國民を育てる教育者は、何としても奮起せねばならんと存じます。

今我等の初等教育界を見渡すに、姿勢を正しくしなさいと、百人が百人教へて居る事ですし、大抵の學級には姿勢圖を教室の眞正面に掲げて、毎日毎時拜觀させてゐるのですが、子供は其の意味さへも承知してゐないのが普通です。教室を廻つて兒童を拜借し、室內に施設してある物について問ふて見ても分る事ですが、姿勢圖を出して置けば、それで姿勢がよくなつたり、年代表があれば、年代觀念が確實になつたり、さては校訓が理解出來るなどと思ふ樣な御芽出度さは、小學校の先生でない限り、此の世には贊成者はありますまい。

姿勢を正す根本は、机と腰掛の高さと身長の關係にあります。此の根本を正さずして、姿勢々々と申した所で、百年待つても直るものではありません。私達の仕事には此の基礎工作を疎にして、只結果のみを論じ惱んで居る事はないでせうか。反省して見ねばならん事です。「腰を立てる。」とは老師の教へ給ふ所ではありますが、此の機構の整はぬ中にやたらに要求した所が、腰を立てんと思へども足の地に着かざるを如何にせんやであります。又脚が長きに過ぎても机下に折曲げるわけにも行かず、と申して机の外に出せば一喝を食ふとすれば、子供の脚を切捨てゝ調節する事が出ぬ以上、机を替へるより外に方法にはありますまい。

机・腰掛が整ひましたなれば「腰を立て」には眼が大切であります。常に教師の眼に各自の眼を注ぐ習慣を作らねば、いか程苦心した所で甘く行くものではありません。讀書や書寫の時物と眼は三十糎の距離を保たねばならないのですから、只、誰々樣の姿勢が惡いとやかましく云ふよりは、三十糎の尺を持つて當つてやるのが一番よろしい。子供ははつとして正しい姿勢に返つてきます。又時々眼と物の間に自ら三十糎の尺を入れさせて見ると、亂れんとする自覺がその都度よみ

がへつて來ます。

書寫の姿勢では右の手のみに着眼して居ては駄目です。常に左の手を重視しなければ失敗をしませう。大抵の子供は左の肘を机に掛けるものですから、勢上半身は前へ前へと寄掛つて行きます。左の掌が正しく前に向いて、机の天板に着く樣に心得て居れば、心地よく對物三十糎の姿勢がとれます。これでは怪しいぞと思つた者には

「左の肘は机には掛つて居ませんね。」

と、一口申しますれば、全級きつと自覺を取戻します。又姿勢を見る時は只壇上に許り居ては明瞭に分るものではありません。體操の指導の時と同じく、兒童の側面から見てやる親切が無くてはなりません。

校長の教室巡視の時など、左手の位置に留意して、悪い者には靜に近づいてそつと直してやるがよろしい。さうすると教師も兒童も自覺を取返して參ります。校長の教室巡視が廊下だけを散歩して居る樣でしたら、教室は脊柱前彎の製造所、近視眼の養成所となつてしまひます。校長たる人は强い意志と撓みなき實行力に滿ち滿たねばなりません。さもなければ申す事は皆、只あてもなき放送となり終つてしまひませう。

全校姿勢がよく出來たとて、それで安心したら必ず明日より亂始めます。體操時に姿勢を矯正するが如く、毎日／＼の矯正を忘れぬ樣心掛ける事が大切であります。

次は時計について書いて見ませう。

學校の仕事は全部時間によつて運行して居ます。見方によりますと、時間に引きずられて居るのではないかと疑はれる場合も度々あります。時を守る事の大切さは今更論を待ちません。大はナポレオンのオーテルローの大敗は部隊長の迂廻行軍中大雷雨に遭遇して、途中にて此の雨には敵もよも來まじと雨宿りをして居る間に指定の時間を五分過し、やれ大變とあせつて見たが、望む高地は敵將ウエリントンのために奪はれて、一敗遂に歐洲平定の夢の破れた事より、小にしては臺所の釜の飯が焦げついてしまつた事迄、秒を爭ふ時間のためであります。

誰でも時は大切である。其の時を示す時計は最も大切だと申しますものの、果して時間勵行の根元たる時計がうまく行つてゐますか。先づ第一に反省したい事は校内の時計は統一して居るでせうか。教師諸君の時計は學校標準時計と一致して居ますか。誠にかれこれと子供捕へてやかましく云ふ學校自體が、劣等物の安物時計を無定見にやたら買込むものですから厄介千萬です。どれ一つとして正時を指して居る物がなく、十數個の時計が盡く十何通りの時を示して居たりする學校で、時間尊重などとやかましく說いたとて、それでどれだけの効果が擧りませうぞ。若しも氣の利いた子供などあつて、御手許拜見などといつたら、全くのナンセンス物です。

「學校の時計は皆安物でね。」

「時計にも優等生、劣等生、中等生とあるよ。それが時計仲間の常態だよ。」

等と申して平然とは居られますまい。と申して本統に安物揃ひの時計何十を持つ學校の苦痛は一通りではありません。いくら擔任に依賴しても、全校の時計が同一時を指す事は不可能事の樣です。困り果てて窮餘の一策整時主任を作り、校內の時計の統一を掌らしめました。學校の心臟係ですから、眞面目な、まめな人でなければなりません。此の人さへ得れば校長室の親時計を中心に、職員室・會議室・講堂・小使室と毎朝正時に直してくれます。各教室は整時係の兒童が職員室の時計に合す事になつて居ますから、全校の時は間違ひのない事になります。時計一つがとは思ひますが、これにも亦計り知る事の出來ぬ修業苦があります。

毎日幾百回ともなく繰返す擧手も、本統の物にするには、中々苦しい修業がいります。私は擧手と申しますと、市場が

聯想されてなりません。組中の者が競つて「先生、先生。」と連呼しながら、指名を求めて迫つて來る。形勢否なりと見ると聲だけでは足りないと指先を動かして、御出御出をやつて見る。それでも叶はぬと知ると、其の場に立上り、上半身をのり出して「先生」の怒號、尙も激して來るとそろ〳〵出張して、教卓の前迄自已紹介に出て來る。あの競爭意識の激しい事、あの自已發表の權利獲得に己を忘れる淺ましい姿、斯くして若しか望も達せられず、他生にでも當つたものなら、其の憎惡に滿ちた目・口・顏、人を育てる教室だとは思へぬ現實の姿を御體驗ずみの事と存じます。あの人間の弱點をさらけ出して居る聲聲すべき場面を止めたいものと、職員に計つて見ると、あの人がと思ふ方が

「先生、先生の掛け聲をやめては教室が淋しくなります。外から見ても元氣のない教授の樣に思はれますから。存續したいものです。」

と申されます。成る程口先許り發達して、常に優先權の一手販賣をして居る者には、此の先生を呼ぶ教師をつり込む特殊の型が最善の武器かは存じませんが、腹の据つた者や、競爭嫌ひの實着者、さては弱氣の者などは、自分が其の教室の一員である事さへ忘れて、圈外に立つてけろりとして居る有樣、教室は常に二つの流れに分れてしまつて、とり止めもない騷然たる御祭騷ぎ、此の競爭意識を去り、全員責任を感じて業にいそしましめるには、是非「先生、先生」の連呼を取去らねばならんと苦心しましたが、中々に成功しません。

「先生。」と云ふた者に指名しないと云ふ戰法を取りましたが、長い間に教師を釣り込む呼吸を知つて居る子供の「先生。」には大抵の教師は引つかゝり「はい君。」と指名してしまひます。此の邊の調子はとても心得た者で、指名すまいと決心して居た教師も獨り苦笑せざるを得ない時が度々あります。兒童としても此の大きな獲物の妙味忘れ得ず、常にその奧儀を繰返すのです。

すつかり行きつまつて困り入つて居た時、順繰り指名の名案を授けられました。いかにも此の方案によれば、自分が欲すると否とに關はらず一日に數回當るにきまつて居ますから、常に責任を持つて居なければならず、擧手萬能時代の樣に手さへ擧げなければ、それで圈外に立ち得るのとはすつかり具合が違つたものですから、常に豫習や復習が大切となつて參りますし、教師の一口をも聞漏してはならぬ張切り時代が出現しました。此の樣な妙藥が手近にある事に氣づかぬ愚さに自ら呆れざるを得なかつたのです。何彼につけて自已紹介の輕薄さや、常に人を對照として勝てばよい、自分一人賞せらるれば滿足と云ふ樣な淋しい根性は次第に滅じて參りましたが、教室は讀みばかりに終始して居ませんから、まだまだ擧手の場合は多いのです。

擧手の型には色々有ります。握拳を突出す獰猛なものから、耳の横へ直角に擧げるキューピー式の可憐なもの、水平に突出す隣り虛め、さては教師に挑戰でもするが如き師目がけて直正面に突出して來る拳闘型、可愛いのは中指の先を耳たぶにつける型、何れにしましても皆擧手には相違ありませんが、何型を選擇するかにつきましては、自ら定まる事と思ひます。

常に教師の眼に己の眼を注いで自信ある眼ざし、指先を揃へて全身の力を此所に集め、稍斜前へさつと元氣に差出す手、觸るれば切れる名刀にも似て、りんと張りの有る手こそ有難いものであります。

自己の信念を此の一本の手に集めて、私には理解が出來ました。分りました。と次ぎ〳〵に一本二本と伸びる賴もしさ。教室は靜に似て靜ならず、活氣横溢張切る計りの心强さで一ぱいになつて來ます。

我等の周圍には取つて持つて修業の材とすべき事が滿ち〳〵て居ます。心眼を開いて物事の眞髓を見れば、事すべては我等を人となさんがため神の授け給ふた試錬の樣に存じます。人の子を教ゆる者は大言壯言をやめて、手近の一些事より

正しく整へて行けば、思はず知らずの間に眞教育が爲しとげられる樣に存じます。

然しながら我等の修行には理解を第一に致します。若し己を失つて、只命のまゝに反射的に繰返すのであつたならば、機械人形と何の差違がありませう。又萬が一師の威力に押されて、表面を整へるのであつたならば、心は恐ろしく方角を違へて走出るものと思ひます。

我が國未曾有の危機線上に立つ此の非常時には、物が貨幣よりも大切となつて參りました。國家興隆の皇戰の爲には、如何なる物をも捧盡さねばならぬ時になりました。其の現れの一つは統制經濟となり、衣食住の材料すべてが力により制限を加へられました。かゝる事の有るべしと豫想して居た、狡智にたけたる綿布商人は倉庫深く綿製品を積込み、一擧にして巨利を得んものと屆出もせず、許可も受けずに居たものです。所が經濟警察はいよ／＼峻烈を加へまして、綿布の闇取引者は續々として處罰されて行きます。此の有樣に逡巡折角の商品も取引する事が出來ず、唯徒に警察を恐れて、倉庫の綿布に全神經を集め、一家の惱はこれが安全の處置にありと主人も番頭も思案の末、事は宜しく斷に在り、勿體ない事に綿布を燒いて、罰よりの安全を求出しましたと聞ます。をかしな事です。何とか善處の道がないものでせうか。

事もあまりに行過ぎて、自覺を失つた行動をとるやうになると、此の大切なるべき綿製品を灰にして、己のみ逃れんとあせる憐な姿になるのです。この事實は我等の訓練の上にもよき頂門の一針と存じます。只徒に訓練／＼と熱中して外道に入り、子供の自覺を失へば、教師の恐ろしさに、致し方なき忍從の徒となり下り、上よりの壓力減じたる時は却つて恐ろしき我儘となつて躍返り、何等人格の陶冶に資することなき訓練と成終る心配があります。只型を尊んで人を見ぬ恐ろしさを、つく／＼と思はねばなりません。

第十九　級　長

「校長先生父兄が來て面會し度いと申して居ます。とても怒つて居る樣ですが、御通ししましてもよろしいでせうか。」と給仕が當惑氣な顏をして申して來ました。

「よろしい。」

と答へますと給仕の出るのを待たず、つか／＼と無遠慮に四十前後の方が這入て來て、何か烈しい衝動でも受けた樣に、眼は血走り頰の線には暗い陰がさして、さも不平さうな姿

「私は何某と云ふ者の親ですが、本日はしかと伺はねばならん事がありまして參りました。校長先生此の間級長の選擧をせられた樣ですが、投票用紙に疑がありますから、閲覽させて戴き度いものです。」

と許すまじと云ふ意氣込です。

「左樣な物御覽に入れる必要がありませんが。」

と相手にもしませんでした。實は私自身も校長に成つて何年にもなりますが、未だ曾つて見た事はないのです。只擔任が誰々と既定の條件に照して報告して來た者を、よし／＼と認めてゐたのですから

「それでは開票に立合人が有つたでせう、誰々ですか。」

更に面喰ひました。呆れ顏で

「そんなものが有りますものか、學級には立派な擔當がついてゐますよ。」

「其の擔當が不都合なのです。凡そ選擧をする以上は選擧法に準據せぬと云ふ事がありますか。」

と急き込んで參ります。

「學校には選擧法などありません。」

と、平氣で申しますと、

「それでは本校は公民教育はせないのですか。餘り間抜けた事ではありませんか。」

と次第に威たけだかに迫ります。

「自治體の選擧と學校の選擧は違ひます。相手はまだ思慮の定まらぬ子供です。大人と同樣に見て行つては、教育の意味がなくなります。」

「國家が定めた選擧法を、選擧に利用せぬとは腑に落ちません。」

「教育とは左樣なものではありません。本校は私の預つて居る處、校長の意見で是と信じた事をやつて行くのです。」

と長い押問答をしましたが、結局は擔當が不都合で横最負をし、投票用紙をごまかして、自分の好きな子供を級長にして居るに違ひない。それ故投票用紙の再檢査に來たのだとの事です。此の親は級長選擧を町會議員の選擧と同樣に考へて居ますが、此の子を擔任して居る教師も實に拙い事をしたもので、此の樣な事をして居ては教育は出來ません。

一票の差で級長になれなかつたら、子供も親も殘念でせうが、此處に考へねばならない事は、子供の前で開票して其の得票の順位により級長にして行くとすれば、それで教育上には誤はないのでせうか。大人でさへ迷ひ易い人間の價値を、教育盛りの子供に公民教育だと稱へてやる事が、其の宜しきを得たものでせうか。中低學年の兒童に投票させて級長を定める人も人だが、してもらつて喜ぶ父兄も亦親馬鹿の域は脫しますまい。

政黨花やかなりし頃には、級長選擧は公民教育の一端なりとし、一票にても多い者が人間的價値の大なるものだとして居ましたが、思へば教育者が時代の波に押されて、百年の大計を考へず、徒に時流に阿つたものであります。私はかゝる考へ方は斷じて教育者のとるべき所でないと信じて居ます。

學校の選擧は凡そ異なつた意味のものであつて、選擧と申す事が既に間違つて居ます。級長は校長の任命すべきものであつて、學級の兒童は其の參考迄に自分の信ずる人を申上げる態度であり度いと思ひます。

本校は尋常一年では級長は作りません。尋常二年からは學級擔任が、德性・知能・體格及び信望を考合せて見まして、最も適當なりと信ずる者を出して來ます。尋常五年以上は各擔任者が校長先生の御選定參考のため、諸子に意の有る人を求めて御出でるのだと合點の行く樣に說明して記名提出させ、擔任は其の數を確實に檢べまして、兒童が直接校長の手許へ持つて來る樣にしてゐます。集つた用紙は直に各擔任に渡しまして統計を取り、これを重大なる參考としまして、校長と協議の上選任する事と定めてあります。

斯くする事によつて上學年は、校長先生の御參考になると云ふので、實に深重なる態度で記名投票し、若し自分の投票した者と違つて居ました時は、自らの不明を悟りますから、人を見る明が次第に開けて參ります。下學年の者は校長先生が私等にきめて下さつたのだと喜びます。これを若し兒童の投票の結果に委して任命などすると、校長は兒童の傀儡となり、學校經營は子供の意のまゝとなるものだと云ふ信念を與へ、選擧萬能思想を培ひます。

いよ〳〵級長になりましても、學級の指揮の全權を與へる樣な事はなくて、學級の御世話をすると云ふ立前でありますから、誇らしげに自負心たつぷりで上つてしまつた者など無くなりました。私の學校では學業成績のみの優等生は幅が利きません。勇んで他の爲めに自分を無にする者が重きをなす樣になつて來ました。此の信念は親達も遂に理解しまして、子供の選定運動に出かけて來る親馬鹿も跡を絕つし、教師の不正選定なりなど申して疑ふ保護者もなくなつてきました。

實際問題として、兒童の選擧しました人物が教育上級長にさせ度くない事が時々有りますが、自治的に教師は傍觀して開票などしたものですと、どうにも仕方なしに、一學期を過さなければならぬし、と申して見す見す學級の氣分の壞れて行くのを見て居る譯にも行かず、全く自繩自縛で身動きも出來ぬ樣な羽目に陷入ります事を、よく知つて居ます。何としましても選擧第一主義は百害有つて一利ないものと信じてゐます。

此の樣な意味から級長選定をして行きますと、低學年の男女組などでは女子の級長がぽつぽつ現はれて來ますので、兒童も父兄も始めの頃は眼を見張つたものです。或る時など知能優秀の父親がきまして、

「私の子供は前任校長先生の時以來一年も缺かさず級長を勤めて來ましたが、本年は級長にもして戴けないばかりか、女級長の下で勉强させねばならなくなりました。女子に頭を押へられると云ふ事は將來の日本男子を育てる上に殘念な事です。第一考へて見れば家族制度を無視したやり方です。あまり常識のない御方針です。」

と、嚴しく申出て來たので、よく私の考を話し、

「貴君の樣に級長を思つて居られる事は間違であります。私の學校では級長が指揮命令などする樣な事は更々ありません。」

と話しましても、中々合點してくれません。それで擔當を呼びまして、家庭の事情を取調べて見ますと、一人息子で我儘の有るだけして育つて居た子供で、いかにも知的方面は拔群で通知簿などは常に甲ばかり取つて居ましたが、人を顎で使ふ樣な氣分の强い子で、自分から第一線に立つて働く事の出來ない性格ですから、擔任は子供の將來を思ひ、校長の意志を體して、適當なる女子を級長にした事が分りましたので、

「それはどうも致し方のない事です。私の學校では己を無にして第一線に立つて働く事が出來、只一心に學級の御世話の出來る子を級長としましたので、讀方が甲だ算術が甲だと申す樣な標準で定めたのでは有りません。從つて男子を無視して特に女子を採つたと申すのでも有りません。」

と申しますと、

「校長迄が其の方針なれば、致し方がありません。長い間御世話になりましたが轉校させて戴きます。」

との事です。

「教育は信用によつてのみ成立ちます。若し校長はじめ教師に信用がなくなつたとすれば、何とも致し方がありません。御望み通り在學證明書を作りませう。」

と、御別れしました。大變惜しい子でして、今一年預けてくれたらと殘り惜しくは思ひましたが、見界の相違は何とも仕方なく、他校へ行かれました。其の年の第二學期には級長になつたので御禮に參りましたと、級長のマークを見事に胸につけて御挨拶に來て下さいました。これには少々皮肉さを感じました。

世の中には級長を無上の光榮と心得て、擔任に運動しても成つて見度い、マークつけて寫眞撮り度いと云ふ憐れにも幼稚な、子供をまるで玩弄物視する親がありまして、生れもつかぬ性格の破綻を來します。誠に恐るべき事です。

それで級長の任命式の校長の訓示は餘程考へぬと、不注意に出た一言が思ひも寄らぬ恐ろしい結果を齎しますから、忘れてもあなた方は成績がよいから級長にしたのだ、と響く樣な事は申さぬ事です。

「組の模範となつて、人々の一番いやがる樣な事を誰よりも進んで實行してくれ。」

と、申すべきです。如何なる事があつても知識が最高の尺度であると思はせてはなりません。

級長が教師の命令で一學級を引つかき廻したり、獨斷で非教育的の事をしでかしたり、教師氣取りに指揮命令して同級

生が易々と動くと、つい背後に教師の有つて始めて命令の行はれる事を忘れ、さも自分自身の威力が次第に増したかの如く考へはじめ、やがて社會の事もすべて思ふまゝになるなどと思出し、果ては同郷同僚の人々は理窟は負けるから面と見合つては何事も申さぬが、内心嫌な奴だと毛嫌さるゝ部類にまでなりませう。又他生は他生で、常に級長がついて居る自分達は、とても級長にはかなう筈はないと、小さい時から諦めに似た自棄心さへ起り、萬事は級長に委せておけばよいと、すつかり自覺を失つた行動をして居ても、「氣をつけ。」と云はれて、氣をつけた形をなし、「禮」と命ぜられるれば禮の型をすれば、それで事が足りるとまで墮落してしまひます。一度學級が自覺を失へば、教師は益々級長を督勵して、種々の特權を與へますから、益々加速度的に兒童も教師も、思はぬ方角へ行つてしまつて、殘るものは只うつろなる學校となつてしまひます。

級長の決定と其の使ひ方には特に心を使ふのでなかつたら、徒らに教師の出張所主任や教室の留守番や、さては質疑應答係りや、運動場の王者を作ると云ふ恐るべき結果になります。心すべき事と存じます。

第二十　掃除の本質

凡そ何れの家へ伺つても、誰もが第一印象として心を打つものは、其の家の清潔整頓ではないでせうか。よし、家は古く傾いて居り、建具は古色蒼然としてゐても、庭には箒目が行き屆いて塵一つ留めず、障子の破れた所へは手際よく切貼りが出來、履物は美事に揃ひ、物皆其の有るべき所を得て安んじてゐる家へ一足入れて見給へ、主人は木綿の粗末な衣服を着てゐても、訪者は肅然先づ襟を正さずば一言の挨拶も出來ないでせう。まして其の戸は光り、椽は主婦の丹精を物語るのであつたなら、氣押されて自分の脱いだ外套の置場にも氣が許せず、帽子も外套も片手に正しく持ち、謹みて案内を乞はざるを得ないではありませんか。かくも人に迫るものの有る事は何を意味してゐるでせう。此處の家内全體は整つて居るぞ。總親和だ、誰もが同一の方向に修業して居られるぞ。うつかりしては笑はれてしまふだらうと、何となく氣負けのする象徴ではないでせうか。よし、幾萬圓投じた普請で、床には家寶の軸物を掛け、絹の坐蒲團を出して下さつたとしても、雜然騒然、煙草盆も急須も蠅打ちも、主人の煙管も、さては主婦の針箱迄が其の所を得ず、挨拶しようとしても、思ふ存分踏み脱いだ下駄や靴を勇敢に押分けて進み出るのでなかつたならば、帽子一つ置く事が出來ないのであつたとすれば、其所がいかに偉い大物の御宅であつても、既に此方に「駄目だなあ。」と云ふ優越感が芽生えてゐるので、謹んで承る氣持は出來ないのです。

古來日本人は玄關前には箒目を入れ、打水をし、玄關には行屆いた掃除をして客を待ちました。殊に此處には平常皇太神宮を祭り、朝夕禮拜を怠らず、部屋中の最も神聖なる處とし、客來りなば大麻の御前にて對坐し、客も主も形を正し心を靜めて相語り、決して人を欺かずと云ふ決心を示したものでした。それが明治以來自由思想の澎湃として流入するや、文明開化に浮かされて、鹿鳴館を作り、丸髷や島田が踊つた樣に、日本人の誇りを忘れ果てて、玄關の亂れた事は殘念でなりません。

西洋建の家などは何の設備もせず泥靴で浸入し、土まみれの室こそ西洋流である。洋服着用者の特權であると迄云ふ樣になりました。困つた思想の置土産です。

然し如何に激しい怒濤も年中休みもなく打寄せる理なく、あれ程人を騒がせた自由思想も、滿洲事變に遭つては、愕然として日本本來の思想たる忠孝の大道に歸り、四圍に轟く打倒日本の叫に猛然と抗して立上り、我等の向ふ所を全世界に指示しました。更に支那事變勃發するや、上下一致國家の盛衰を賭して八紘一宇の精神を明かにし、東洋の安定勢力たる

貫祿を示し、新東亞體制を承認せざる限り、百年戰爭尙辭せずと宣言して、全世界只汗を握つて瞠目する頃となりまして
は、流石に御人よしの教育者も、やつと目ざめて溫古の氣頓に興隆して來ました。
思へば國體明徵と云ひ、八紘一宇と申すも恥かしながら軍部に指導せられて、よち〳〵と後からついて來ると云ふ情な
さ、何と考へても恥かしい次第です。古來國家の前途を憂へ、衣食を排しても全國民に警告したのは教育者でありました
が、變れば變る世の中です。
然し徐々にもせよ神の御前に誠心こめてあひ談ずるあの淸楚なる、淳朴なる精神がよみがへつて參りまして、我等の學
園も日本人本來の家に對する精神を持つて見る樣に變化しました。若し此の傾向を三十年早く悟つたのであつたなら、只
今の世相とは又樣變つた時代になつて居たのではないかと、如何にも惜しい氣持が致します。
教育の力は實に偉大なもので、一國の興廢は教育者の雙肩に掛つては居るのですが、今直に其の効果を知る華やかさがあ
りませんから、つい第一線に居る現役の教育者迄が、其の有難さや恐ろしさを忘れてしまふ傾向があります。御覽なさい
蔣介石の支配する支那は排日・抗日・侮日の教育に熱中して遂に國を亡ぼし、ヒットラーは獨逸を地獄の底から教育で救
上げました。百年の計は教育を措いて他にない事は明なる事實であります。
小學校の教育は彼是と理窟を列べる遊戯ではなく、兒童の性格を日本人の本質にまで育て上げる基礎固めの難工事で、
方法としては知則行で、善と知れば直に實行に移す實習場なのであります。此の小學校の數多き教科には、それ〴〵目的を
持つて居ますが、個々單獨で人を完成する事は出來るものではなく、此の教科の綜合せらるゝ所始めて將來の國民として
御役に立つ日本人を作るのだと確信して居ます。然らば其の綜合教科とは何、方法としては色々あるでありませうが、私
は掃除を第一位の物と思つて居ます。實に掃除は小學校の目的達成に重大なる割役を持つものであります、文部省は何等
示す所はありませんが。
所が今の社會は勿論、教育界迄、此の掃除の持つ偉大なる教育に無關心で居られる方が多い事を淋しく存じます。昭和
日本人の教育には何より先きに掃除を正科に加へて、大に其の價値を認識しなくてはなりません。私は女の子供を一人持
つて居ますが、何樣三夫婦揃つてゐたものですから、生れ落ちると爺樣婆樣に引取られて、すつかり甘やかされて育つた
ものです。かうして置いてはならぬと思ひ、少し嚴しく叱つてでも居ようものなら、反つて父の私が老人達に子供を大切
にせぬと叱られたものです。子供はよい事にして形勢不隱なりと見て取れば、直に老人の所に避難してしまひます。子供
から見れば父が一大敵國の樣になりました。私が申すと事々に拗ねてかゝり、やがては老人の庇護を待つと云ふ有樣、つ
ひには此の習慣が甚だしくなりまして、氣に入らぬ事など申しますと、誰彼の區別なく拗ねて通すと云ふ性格にまでなつ
て來ました。身教育者に有りながら自分の娘さへ育てる事が出來ぬかと、自ら密かに恥ぢて居ました。或時など堪忍袋の
緒を切つて、倉の中へ投入れた事がありました。二時間も經つた事故定めし恐入つて居るで有らうと、期待を持つて戸を
開けて見ますと、僅かに六歳の少女で有りながら、謝らうともせず、直に雨の中をころ〳〵と轉がりながら、さも憎々し
げな泣き聲を立てゝ跳ねつゞけます。全く手のつけ樣もない所まで行つてしまひました。何とかして救つてやりたい、素
直な性格に改造してやりたいと、毎日妻と二人で泣の涙で語合ふのですが、何とも仕方がありませんでした。どうにも工
夫がつきかねるものですから、子供から手を引き靜かに觀察して見たいと、夏休中子供には氣付かれぬ樣にして、眼を離
さずに居ますと、或る日の事何と思つたのでせう、獨で庭箒を持出し、そろ〳〵と掃いて居ます。掃集めては塵取りに入
れ、さも嬉しさうに笑つて居ます。其の日はそつと置きましたが、明けの日も亦其の明けの日も繰返すではありません
か。しめたと手を打ちまして、直に新しい子供に手頃の箒と塵取を求めまして、知らぬ顏で尙注視して居ますと、いかに

も嬉しさうにせつせと庭中の掃除をやつてくれます。數日の後、子供が庭の清掃の終つた頃

「偉いね、まあ美しく出來た事。とても御父様はうれしいよ。」

と、笑ひながら申しますと、

「うち掃くの好きよ、いつでも掃いてあげるわ。」

と、申してくれます。之は何よりの手がかゝりと存じまして、掃除の指導から入り、次第に性格改造に手をつけまして、小學校へ御世話になる頃までにはすつかりやさしい子供となつてくれました。女學校に入つてからも常に眞面目に自己の役目を果す所から、時々級長などにせられて居ました。何時迄も掃除を尊びまして、誰がせずとも、獨り己を無にしてやつてのける度胸が出來て、遂には優等で卒業させて下さいました。私には此の樣な體驗がありますので、掃除はうれしいものに存じて居ます。

然しながら教育界は勿論一般社會の方々は掃除に對しては、今尙淋しい考へ方をして居る人々が多い樣です。

「私の内の子供は卒業しましても、女中などにやる考は更に御座いませんから、掃除の稽古だけは止めさせて戴きたいものです。」

「惡い事はした覺がないと子供が申しますのに、毎日〳〵掃除計りせなければならんとは、家が貧乏だからでせうか。」

と、校長や擔任に抗議を持ち出される人の家を見ますと、何と立派に掃除が出來てゐて、御自分は箒を持ち、汗を流して居たり、自ら雜巾を手にして下女を指揮して居る母親があります。御掃除は必要であるが、子供にはなさしむるものではないと云ふ奇妙な思想は誰が作つたのでせう。

思へば嚴寒氷を破つて雜巾掛けする子達を眼の前に見ながら、御自分は當然の權利と計りに職員室に股火して雜談に時を費し、掃除終了の報告が有つても見てもやらず。「冷たかつたなあ。」とさへ云ふ事を忘れた教師に教へられた母親の自然に返す教師への復讐でなくて何でありませう。憐にもかゝる教育者に育てられたる親達は、學校の掃除は一の罰とまで事な破綻をしたものです。此の邊に孕んだ思想が明治・大正・昭和と荒みきつた世相を出現せしめ、之を又肅正せんがために、曰く何事件、何事件と次ぎ〳〵と起つて來たのでせう。

掃除につきての思違ひは誠に深いものがあります。我等は何としても此の考へ方を清算するのでなかつたならば、學校が教育工場に成下つてしまひます。教育を生命とする者は大悟一番しなくてはならん時です。

日々に自己を磨き、自己を育ててくれる此の道場を、昔は香を焚いて清め、苟くも過なからん事を願つたものです。劍客の道場と何等變りはなかつたものです。それで日々に掃清め拭清めて、今日も一日己の育ち得た事を感謝し、尙明日も亦我に聖なる日を下し給へとの祈りと願が無くて、掃除に何の價値があり、何の喜がありませうぞ。此の根源を忘れては教師が清潔整頓滿點なりと喜んでも、床板の光は兒童の涙の結果に終つてしまひます。

私は嘗て漁村に長く下宿した事があります。其の時捌きの習慣、明日も亦板子一枚下は地獄の生活する爲か、何の惜氣もあればこそ、飲み且つ食ひ或は着て、何等後顧の憂もなくやつてのけるものですから、一般社會からは廢頽生活の標本の樣に申されてゐます。外見上からは貧富の差は日に甚だしく、借金せざる者が恥の樣に考込み、高利貸から金を借りる時に平氣で

「御前の印を貸してくれ。」

と、隣の家へ頼込むと云ふ想像もつかぬ徹底振り、一度此處の風潮に浸つては金の出來る心配は更々なく、富をなす者は

悉く他町村より入込んで來たものばかりと云ふ有樣、酒を飲み賭博をしない者は、石の地藏樣ばかりと、平氣で笑つて居れる人達、月々に窮迫して住む家など實に文字通り僅に足を入るるに足ると云ふ位の陋屋に、五人も六人もが雜魚寢して居るのですから、どんなに同情的に見ましても、變つた生活だと呆返るものです。然し乍ら一足屋內に入つて見給へ、何人も驚きの眼を見張る事でせう。狹い室內板と云ふ板は美事に光を放つて居るし、柱も椽も戶棚も有りとあらゆる物皆精魂を盡した拭込みによりまして、美しい丹誠の光が出てゐます。此の狹い家であるから、室內は雜然足の踏み場もない位だらうなどと豫想せられたならば、それこそ認識不足です。佛壇・戶棚・食卓などは皆あるべき處に正しく置かれ、着物など實に丁寧に積み重ねまして、丁度軍隊の樣に整然として、誠に何とも申し樣もない程氣持がよいものです。始の中は狹きが故に自ら斯樣にするのだ、環境順應と云ふ奴だと思つて居ましたが、月日が經つにつれて、さうでない事がはつきりとして來ました。此の人達の心には實に見上げた、貴い思想を內藏して居ます。

漁夫は一生を舟に托して居て、年中家の中よりも舟の上で暮す時間が長い位で、舟と人とは生命一體です。舟によりてのみ親を養ひ、妻を慰め、子供を育てるのでありますから、舟に對する感謝報恩の念は實に我等の想像外のものがあります。其の現れとしまして、掃淸め拭淸めて到らざるなく、只一筋に舟を親方と存じてゐます。彼の孫兵衛が馬を親方と信じ、荷には自分の肩を入れ、初穗だと先づ餅を買つて與へる心持と何等變りがないのです。誠に行屆いた感謝に滿ちた手入をします。此の心が妻に傳はり、自らの命を托し雨露を凌ぐ家、よし、それがあまの伏屋であらうとも、感謝の念は恐ろしいものがありまして、子々孫々相傳へて、漁師村には此の美風がいつ迄も續き續いてゐます。實に美しい、幽しい、學ぶべき所であります。

我が教育界を靜かに反省して見ますと、師弟共に育つべき此の學校・此の教室を掃溜小屋として平然、些少の感謝の念さへ見えぬ淺間しさを思へば、穴の中へでも入りたい樣な氣持で一ぱいです。これ畢竟教育とは成熟者が未成熟者に文化價値を傳へるものである。教師は高き地位に留まり、教授と云ふ魔法を以つて、兒童を棒飴の如くに引伸ばせばよい、此の作業場が教室だと考へた根本的の誤謬によるのでせう。

我等の教室は先づ自らが伸び、育ち、完成して行くべき修業場なのであります。あの劍道の道場の如く、師其の人も劍によつて人となり、弟子達も此の道場によつてのみ育ち得るのだと云ふ自覺を持つてゐるから、師自ら先づ雜巾を握つて拭淸め、此の道場に對して自己の今日育ち、又弟子をも誤りなく伸し得た事を感謝し、更に又明日の佳き日を與へ給へと祈る赤心が、掃除となつて表れたのでなければなりません。

私は此の漁師の感謝の精神を又道場精神を教室に學校に移したいと願ふのです。否移すなど考へる事が既に間違ひでありませう。日本古來の教育道は道場其のまゝでありました。あの寺小屋教育を見るに、御師匠樣の心構はどうです。彼等の教室には神を祭りて淸掃、只一筋に師も弟子も毎日禮拜してやまず、米や麥の收穫の有る時は氏神樣と同時に、初穗として御師匠樣に奉り弟子の禮をとりて怠る事はありません。師は又粗末なりとは申せ、羽織袴に身を持して嚴、自ら先づ行ひて止まず。弟子共は只其の人格に引かれて人となると云ふ有樣、誠に劍を書物に取替へて人を作つたのでありました。君は薪を拾へよ、我は水を汲まんと云ふ心づかひありてこそ人は育つものであります。然るに我等教育者は內に省る事を忘れ果て、只外來の思想をのみ教育精神なりと思違へて自らの持つ皇國の道を將に忘去らんとして居ます。危險なる哉、これをこそ危險思想と申すべきであります。

斯く考へ來る時、掃除とは我等を育て給ふ有難き教室に對する感謝であり、又明日への祈りでもあるべき筈であります。それを只子供が伸びる所故、御前達が感謝せよではなりません。教育者が常に高言するが如く、自ら伸びる者のみ、

人を教育し得るのであります。まして私の如き愚なる者が自らも伸びつゝ、長き事ながら上御一人の大御寶を育てさせて戴くのであります。自ら手を下さずして何としませう。むしろ子供等に賴らず、師一人が額に汗して清むべきであります。此の根本理念さへ離さなかつたなれば、心の光はやがて室の光と變つて來るのであります。

今岐阜高等農林學校の教授をして居られる櫻井樣が本校の隣の農學校長であられた時、處用あつて伺つて教育談に花を咲かせて居た所

「井村君、此の頃の教育家は其の精神を尋ねずして、只形だけを眞似る事を之れ事として居る。實に憤慨に耐へぬ次第である。教育は斯くして次第に墮落して行くのを如何ともする事が出來ぬ。掃除には掃除をする目的が有つてして居る事を忘れてしまつて、單に板の光る事のみを考へて苦心して居る學校があるが、本統に馬鹿氣た事だ。」

と、申されましたが、今の學校には失禮ながら左樣としか見えぬ事の多いのに愛想がつきます。根本精神を見拔く事が出來ず、只其の殘滓とも申すべき結果のみを見て判斷したがる癖は心すべき事です。更に櫻井先生は

「僕は小樽の綠に親戚の者が居るので、或年の暑中休暇が終つた直後に訪問して、全く驚いた。大抵の學校なれば休暇開けとなると、多少の亂れが見えるものだが、此所ばかりはびくともして居ない。實に申し樣のない訓育ぶり、私の學校經營は綠に暗示された所實に大である。心の恩人は沖垣君だ。」

と、つく〳〵申されました。

先生は奈良縣の吉野で模範的の農林學校を經營せられて居たのを、本縣が中等學校教育改造の一石にと、特に乞うて赴任を願つた方で、着任以來僅々半ケ年にして校風一新、誠に驚くべき一大躍進をせられました。私の御邪魔致しました時、受付氏に刺を通じますと

「只今實習地の方へ御見えになられて居ます。暫く御待ち下さい。」

と、校長室へ通されましたが、待てども歸つて來られません。ふと衝立を見ますと、ネクタイ、ワイシャツ、上衣、チョッキ、ズボン等全財產が掛けてあるではありませんか。さてはと思ひつゝ、まゝよと、同志同行を出して讀んで居ますと、實習服に素足で入つて來た方がありまして、

「井村君此の間は失禮致しました。」

と云ふ。はつと向直つて見ると、卷脚絆のまゝ地下足袋脫いで歸つて來られて居ます。つい一ケ月程前、私の學校の講堂開きの大會で芦田老師より

「井村君、此の方が櫻井樣、小樽の窪田樣と御親類の方だよ。不思議ではないか今日此の德島で御目にかゝらうとは。」

と、引合はされたのが初對面でありましたが、何と今日の身ごしらへ誰が校長先生と思ひませう。私達が校長と申す概念とは凡そ離れすぎた御姿、最早これで頭が下つてしまひました。劍道の試合に於て立合ふと同時に御面一本とやられたと同樣、話は以來受け太刀となるのをどうする事も出來ません。其の內に話の解決の必要上教務主任を呼ばれましたが、此の人も亦卷脚絆

「貴殿もか。」

と驚けば

「何、君農學校は農業を通じて人間を作る所、普通科の先生でも、武道の教師でも、本校の職員で有る限りは誰でも實習せねばならんのです。國語や地理の教師と雖も、夫を通じての農業でなくてはならんのです。僕の着任當初職員諸君に必ず實習して戴きたいと御願ひした所、「それは出來ぬ相談だ。とても生徒には及びもつかん。普通科の教師がよち〳〵と

實習などして居たものなら、必ず見下げられてしまふ事は明かな事だ。』と申します。『然しそれは問違つた考へ方だやつて見てくれ給へ。生徒は決して左樣な事は考へないよ。』と、無理に鍬を取つてもらつた所が、果して其の通り生徒等の半分も出來ぬ作業で、彼等には有難くつて有難くて仕方がない。普通科の先生迄がやつて下さる。我等のいそしむ農こそは尊いものだと自信が出來れば、先生の御勞を少しでも輕くしたいと、益々精を出して來る。それ以來教師間は一體となつて和し、生徒は前々の樣な對立など更々なく、只一筋に師の崇拜と變つて來たよ。君これが本校の本體だ。職員が實習服で野良へ出る事が、御覽の通りの現在を作つたと申してよいでせう。殊に意外な事は廊下など人のあまり行かない所や、汚れた所が美しくなつたぞ。校内に一枚の破れた硝子が見當らなくなつたよ。」

と、仰せられました。全く其の通りで、實習地を一順拜見しましたが、教師など誰一人附いて居ないのに、生徒達は孜々として實習して居るし、農作物は實に見事に生育して居て、廣い農園に草一本も認める事の出來ぬ有樣。

「君德島の人は妙だ。實習地の野菜など、たゞの樣にしないと買はんね。僕はあまり安いと育ててくれた土に相すまぬ故、堆肥にするか、豚にやる事に定めて居る。」

と申される。

「井村君僕の學校では農園の作物を取入れると、土に感謝のために、直に其の後へ堆肥を入れて整地するのだ。今の農家では取る物取つてしまつたら、次の種を蒔くか苗を移植する迄打棄てる習慣が有るが、これは實に不都合な精神だ。土に對して報恩の念のないと申すものだ。必ず天罰が當るぞ。」

誠に先生は此の土に對する感謝報恩の念が厚いから、常に土に親しまれ、校長室で一日ストーブの側にふんぞり返つて居る勇氣を持合せて居られず、第一線に躍り出て土と共に生きて居られるのだ。さればこそ農作物は常に豊かに育ち、生徒は爲に人となり、職員諸君も何時しか伸びて行かれるのであります。

「僕は校内で農具小屋を一番大切にする。見てくれ給へ、最も新しい校舍に整理整頓し、錆一つ出してないよ。農道精神は農具が鏡だ。」

と、指さゝれる。自分の學校の農具と比較して冷汗が湧出て來ます。加工室の動力の餘りで、手工室に原動力を與へ、趣味の豊かな彫刻やら、美事な机まで出來上つて居る。これでこそ豊かなる農業人が育つと腹に入る。とう〳〵歸る迄恐入りつゞけと云ふ樣。農業人が土に對する感謝と、兒童が教師が自己の學校に對し教室に對しての報恩と、何の差があるべきでせうか。共に一筋の誠より湧出づる人間の本心であります。

所が實際に於て學校の掃除程困難な事はありません。少し風でも吹けば雪の朝を思はす程紙屑が散亂するので、何故捨てるか、何故拾はぬかと口を酢くして諭しても、叱つても更に利き目なく、教室は紙屑や鉛筆の削り屑で足の踏み場もなく硝子も天井も埃だらけで、其の上蜘蛛の巣は何年越に張つて居たとて平氣の平左、私はよく時代小説に出て來る廢寺を聯想します。掃除は毎日〳〵繰返しては居ますが、御申譯的の作業、掃除と云ふ義務が有るので、しなかつたら擔任の方に叱られるので箒持つのだと云ふ歎かはしい有樣、何とかして學校らしい所にして見たいと思ひ出したのは、遠い昔の事で、色々苦勞を重ねて來ました。

始めの内は何でも監督を嚴重にするより外はない。教師諸君を大に鞭撻して子供に強く當つて戴いて、強制的でもよい美しくしなくてはと存じまして、第一に着手したのは掃除の檢閲を嚴重にする事でした。床板、戸、硝子、天井、腰板、机等と十數目を作り、整理整頓係、訓育係、總務、校長が毎月曜日の大掃除後全校巡視をする事にして、檢閲終る迄は兒童も教師も現場で待つて居て歸る事を許さず、巡視員は各項目を十點法で採點し、檢閲主任は此の得點を通計し、最高より

三番目迄は明けの日の火曜の朝會で表彰し、柱鏡を一週間だけ渡す事としました。擔當としては兒童の面前で批評せらるゝ事ですから、うつかりは出來ませんし、兒童も鏡欲しさに無理無體の競爭心にかられて、一生懸命になります。火曜日の朝賞せられる事が嬉しくて、一も表彰二も表彰と掃除本來の精神など忘れてしまひ、擔任も子供も憐れな姿になり下り、廊下など隣の持分へは一枚でも拭込む事は損だと考へまして、區切られて美しく光る事が自室の表彰の原因だとまで思込みまして、御掃除とは光る事が目的になり、油を塗る者、蠟を引く者、只一筋に工夫がはじまります。表面的に何氣なく見れば、とても修業の積んだ幽しい學校の樣に見えますが、內心は恐ろしい鬪爭氣分に燃え、獨善氣分が橫溢してゐます。

此の頃のスポーツの如く只勝てばよい、全校より選手を選出し、勝つと云ふ事を唯一の目的として、球一つに悲喜の情を打込んで人間を作る根本を忘れ、競馬の如くに榮養も運動も只一筋に勝つと云ふ事が目的で、身體に害が有らうが、德性を害はうが其の樣な、事は唯一の目的である勝利と云ふ事の前には殆ど價値のない事になつてしまひました。此の風潮は小學校に迄浸込みまして、授業さへも排して、數名の選手のために朝から晩迄で運動場に頑張り、尙も恐るべき事は遠征と稱して、馬鹿な盲目な父兄達を踊らせて、學業を排して縣內は勿論縣外まで出かけると云ふ有樣、競技は人間創造の手段であり、體位向上の方法である事を忘れ、只手段を目的と思込んだ、とんでもない御時世とはなりました。

此の考へ方は只競技に限らず、教育上最も價値ある綜合教科と信じてゐる御掃除迄が同樣の傾向に成下りまして、美しければよい、整頓すればよい、光れば尙更結構、隣室の出來ぬ事、隣の廊下の足跡は願つてもない天の助け、時さへ有れば汚れた足で歩いてやりたい、光り過ぎるから。水でもこぼしてやらうかと迄心が亂れても、外面だけは美しくなつて來ます。誠に妙な事で內は腐つて外は花が咲いてゐるのです。丁度四五月頃蜜柑を買つて見ますと、大枚十錢も奮發した美しく光澤のあるさもうまさうな物が、一度一皮剝けば中は古綿の如くで、見るのさへ氣持の惡いのと同樣です。此の明瞭な理さへ氣がつかず、愚にもいと嚴重に監督と檢査を續けまして、惡い所は其の場で、兒童の面前で、擔當と兒童を面罵し、明けの日は朝會で細々と批評したものです。教師は爲に不平滿々、內の校長は暴君だ、同情が更にない、不平と燒糞の現れが光つて居るのが判らぬかと蔭口をきゝ、清潔整頓係は月曜日が地獄の入り口だと朝から憂鬱。それでも私は何の仕事をしても半數位は必ず不平があるもの、やるだけの事はやつてのけるのだと心臟强く徹底的にやつて居ました。所が天の助けとでも申しませうか、私には大恩の有る子供が自覺の機緣を與へてくれましたので、すつかり考へ方が變つて參りました。コペルニツクス的轉廻を敢てし、以來は檢閱など重きを置かぬ樣にして、便所の下駄から揃へにかゝりました。毎日職員よりは早出晩退、校長室の窓の開閉から淸掃、整理整頓まで自からやりはじめました。それが何時とはなしに同志の心を打ち、誰が始めると云ふのでなく半時間前には全職員出揃つて、上衣を脫ぎズボンをからげて、子供が來る迄に教室の掃除を仕上げてしまふと云ふ意氣込み、今日一日自からも價値を磨く道場を淸めずして何かせんと云ふ覺悟が、眉宇に輝いて來ました。驚いたのは子供です。いや〳〵乍ら自分の當番の仕事を果すために出ますと、教室は何時の間にか御掃除は出來上り、雜巾は淸められ、バケツには新しい水が吸まれて有るではありませんか。最早何事も手の下す所がない、只呆氣に取られるより外に仕事がない。放課後の御掃除にも毎日先生が出て下さる。氣苦勞な職員室へ報告に行く必要がない許りか、御自身雜巾持つて範を示して下さるので、全く勝手が違つてしまふ。子供とて毎日呆氣に取られてのみはゐません。さうだ僕達もしなければならんと、氣と氣がぴつたりと合致しまして、先生の御出でぬ間に仕上げておきたい、今日こそ先生に御迷惑を御掛けすまいと力み出しましたので、自覺のない先生は毎日只「有難う。」を繰返すより外無くなつて來ます。如何に無精者の教師でも、毎日の事とて良心に恥ぢて奮起して下さいます。自覺ある者の行はいつしか兒童を化し、行に徹した兒童は落伍者の教師を自覺せしめると云ふ循環作用により、學校は次第と深化して參ります。

當時同志中に、月に七百圓位家賃の上る借屋を持ち、三十町歩の田畑を持ち、數名の女中を使つて、箒など一度も持つた事のない方があり、其の方が毎日氷を破つて行じて下さる。時々借家人や小作人が所用で學校へ尋ねて來て、瞠目

「學校へ行つて見よ。あの先生が朝晩雑巾持つて居られるぞ。」

と大評判。それでも其の先生は此の行を積みますと、一日中氣持がよろしい。何とも云へぬ内心に嬉しさが湧出します。私は此の年迄で雑巾の味を知りませんでした。若し校長先生と共に職を奉ずる機會がなかつたら、一生の内どれ位豊かさを失ふ事でしたでせう。實に有難い事ですと、常に感謝して下さいます。

此處まで來ますと、教室との境界爭はけろりと忘れ、若しか隣が遲れてでも居ようものなら、今日こそ私の方でさせて戴きますと云ふ氣持で、廊下をせつせと拭いてくれますから、御隣でも明日こそはきつと御禮をと、一生懸命になりまして、今迄見事について居た境界線は、次第に消失すると共に、兩方から一枚〳〵と拭込んで來ますものですから、境の邊は反つて底光が仕出して來ました。人の氣持と云ふものは實に妙なもので、囚人の様に思つて鞭撻を受けつゝやつて來た掃除から、思ひもかけずに和やかなる春の様な氣持が湧出て來まして、豊かなる掃除が出て參りました。

或る朝廊下へ出ますと、かすかに、誠にかすかに、

さし昇る朝日の如くさわやかに
　持たまほしきは心なりけり

と、御製を朗詠しつゝ一生懸命廊下を拭いて居る尋五の子供を見ました。實に何とも云ふ事の出來ぬ氣高い思ひがして、神々しささへ感じました。此の寒空に、然も始業より一時間も前に、誰にも賴らず、只自分一人で、あゝ何と云ふ美しさぞ。其の無邪氣な女の子に後光が出て居る様に思はれまして、走つて行つて其の手を取つて、押戴いてやりたい様な衝動を感じました。音一つない靜かな深層の中から、いとも靜かに響いて來る御製に、すつかり心を打たれて、羽化登仙の思ひでしたが、暫しの後、我に歸つて、さうだあれではあまりにも勿體ない。眞心の朗詠故によい様なものの、さればと申して畏れ多い。何とか朝の行にふさはしいものはないかと、其の時の心持を詠んで

誠もて雑巾とればいつしかに
　鏡に勝る床となりけり

誠もて箒持つ身となりしより
　心に塵も殘さゞりけり

と、愚作が浮んで來ましたので、其の尋五の女子と共に歌ひつゝ、私も雑巾を持つて見ますと、何とはなしにぴつたり來ましたので、同志の方に御奬めすると、間もなく校内に廣まりまして、其處此處に聞く事が出來る様になりました。朝日に輝く床板の上で、かすかに聞く時の和かさはとても嬉しいものです。米松の廊下など、光るものではないと誰もが思つて居ましたが、一心程無限の力を持つものはありません。何時とはなしに赤味を帶びた丹誠の光が出て來まして、内地松にも勝る暖味を持つて來ました。

掃除も此所迄きますと、次第と創作が加はり、發展に發展を重ねて、誰が仕はじめたか知りませんが、次第と立體的になりまして、腰板が光り出し、柱の垢が落ち、壁や天井の蜘蛛の巣が拂はれて、恰も誠の伸びるが如く、美しさが毎日〳〵丈を高めて行きます。或る日放課後教室を廻つて居ますと、作業服をつけて手拭をかぶり、教室へ出たり入つたりして居る方がありますので、何事かと思つて近寄りますと、童師一體天井を拭始めて居ます。兒童机を積上げて、師は其の上に、兒童は水を汲み、雑巾絞りで一生懸命です。「御精が出ますね。あゝこれは有難い。」と申しますと、

「校長先生、私の所の天井は何と雜巾の型計りです。これに氣が取られ出すと、どうしても落付いて教へる氣になりませんので、思切って始めました。」

「何日位で出來ますか。」

「十日計畫です。」

と云ふ。

一組明るい天井が創作されると、水の低きにつくにも似て、見る間に全校の大活動となり、女先生迄が勇敢に、机を脚に梯子や板を渡してやつて下さる。あまりの熱心さに涙が出る計りです。二十日を出でずして、本校創立以來の雜巾の跡や、張り次第の蜘蛛の巣が皆落ちて、朗かな御正月の來る樣な氣持のよい教室になりました。

中には面白い先生も居ます。人眞似はいやだ、何か新機軸を出すのだと、さも無關心らしく平然と構へて、各教室を尻目にかけて居ましたが、私は別に何とも申さずに見て居ますと、或る日大動員が始りまして、必死の活動が起つて居ます。

「やつて下さいますな。」

とにこ〳〵して廊下を通りますと、

「えゝ、校長先生子供が承知してくれません。先生がいやなら私達でやると申すのです。これには敵せません。」

と、天井拭きつゝ答へます。一校の大勢さへきまれば、落伍者も自然と救はれて來ます。大體偏屈者程小心なのです。學校經營には腹が大切です。

教室の天井迄掃除が屆く頃には、誰云ふとなく、大河の流れの洋々たるが如く、學校全體が立體的の整理を始めます。廊下の梁の上へ上つて、一生懸命に、それこそ創立以來の埃を拂つて更に拭つてくれます。之を誰が梁上の君子と洒落られませう。便所の天井迄及んで行つては、有難さで一ぱいで、何とも申す事も出來ません。唯心の内で、伏拜みたい氣持です。

或る日の事會計係の方が校長室へ來られて

「校長先生ペーパーを買つてもよろしいでせうか。」

と云ふ。手工にでも使ふ事だらうと思つて

「よいでせう。何故ですか。」

「五百枚程入用なのですが。」

と云ふ。驚いて

「何にしますか。」

「實は先生偉い創作をやりました。壁の更生法を考へました。全校に新築の味を味はゝしたいのです。」

と云ふ。合點が參りませんから、不思議さうな顏をしますと、

「私の教室の壁があまり怪我をして居ますので、何とかして見よくなるまいかと工夫し、ペーパーで輕くこすつて見ますと、釘の跡もピンの跡も皆消去りまして、何十年かの埃迄落ちてしまひ、美しい明るい教室が十錢で出來上りました。一度御覽下さい。よい樣でしたら、各室へ十枚づゝ差上げたいのです。」

と云ふ。創作もこゝ迄で進むかと小躍して、實地について見ますと、何と痛快、よい、實によい、一室の壁が塗替へたのかと思ふ程美しくなつて居ます。机の皮を時々一枚位剝ぐとよい樣に、壁の更生にはやはり一皮はぐに限ると感じ入りました。掃除は發展します。至誠にて當れば創作が續き、力は恐ろしく細部へ細部へと喰込んで參ります。

又或る日例の通り放課後教室を巡つて居ますと、かたことと云ふ音がするので、怪しいぞと覗きますと、梯子をかけて何か工作を續けて居られます。

「何ですか、御精が出ますね。」

とよく見れば、片手に釘拔を持つて居られます。

「校長先生、不用な釘を拔いて居ます。何と百七十九本ありました。序に貼紙も取つてゐます。これ亦何程有ります事やら。」

と慨歎せられる。いかにも近頃の先生方は釘打ちの名手で、あまり必要もないと思ふ所へでも、何の計畫も、遠慮も有ればこそ、勇敢に打たれて、用件が終つても、其のまゝ捨てて行かれるものですから、學校中は代々の校長や擔任が打つた釘の展覽場の樣なものです。鐵資源の枯渇せる折柄、全國の學園から此の古釘を集めたら、實に莫大の數量に上る事と思ひます。小學校の先生達が一奮發すれば、思はぬ御奉公が出來るのではないかと思はれます。紙貼りも實に遠慮なくやつてのけます。御自分の家だつたら、あれだけ鮮かに出來るかと常々思つては、先生達の誠の足りぬのを嘆いて居たのです。

嘗て米國歸りの新知識に伺つたのですが、米國では日本人と支那人に家を貸す事を好まない。日本人は遠慮會釋なしに何處へでも釘を打つて、用がすんでも一本だつて拔いた例がない。どんな大切な處へでも打つて行く人種だと思つて居る。支那人は勇敢にさも幸福らしい文字を色々の紙に書いて、表に面した大切な所へ何年經つても剝げぬ樣に糊付けにしてしまふ。それで彼の國では一案を作つて、契約書の中へ釘の始末と貼紙の始末を書込んで置くのだと聞きました。今の小學校の教師は、日本人と支那人の缺點を一手に引き受けた樣で、いかにも貼紙りと釘打ちは先生方の特技の樣です。本書を讀んで下さる皆樣、諸君の教室に不用の釘が何本、貼紙が何枚と數へて見て下さい。

更に細部への發展は續きます。床板の目を釘で丹念に浚へ出しました。實に有るものです、一教室に塵取に一ぱい位はあります。いかにもこれは神代とは行きませんが、創建以來の塵の集積です、問はばや遠き世々の跡と云ふ感を深う致します。かう出來上つて來ますと、いかに古い建築でありましても、見違へる樣なすが〳〵しさを覺へて參ります。

損德離れた誠の心、人間の本心程恐ろしいものはありません。とても常人でも氣の付かぬ樣な所へでも、子供達は注意の眼を注いでくれます。何でもない事が大きく見え出して來るのです。教室の表示板や時間割板の埃が氣にかゝつて來るものと見えまして、毎日塵拂をかけてくれます。いかにも私達が個人の內へ參りまして、門表が汚れて居たり、斜になつてゐたり、消えたのも平氣でゐられるのに出會ひますと、何だか主人のたがの弛みを思はれてならんものです。

御掃除が餘程行屆いたと云ふ所へ參りましても、電燈の笠迄は眼がつかぬと見えまして、埃だらけで平氣で捨てて有るのに出會ひますが、これでは、そこの主たる方の折角の御言葉の有難味が、減じて仕方がありません。眼の前に白い笠の上に厚味を感じる程の堆高さで、指の型まで明に殘つて居るのは、いかにも淋しいものです。教師の眼が、主婦の眼が一寸光つたなれば、一擧手の業なのにと、特に感を深う致します。

感謝報恩の念には手間暇は論じません。よいと知れば競つてやります。爲す事が嬉しいのです。各教室は日を追つて美しく整つて參りますので、童師共嬉しくてどうにも仕方がなくなつて來ましたが、此所に一番氣の毒なのは、特別室の主任です。教室を二つ持つ事になるので、多忙さは人一倍で、思ふ樣に參りません。特に專科の先生方の教室となりますと、毎日當番は來ますが、中々思ふ樣には行きませんので、常に氣をもみつゝ、せつせとやつては下さいますが、何分他教室より廣いものですから、人一倍の苦勞です。見兼ねた教師や兒童がどん〳〵手傳に行きますので、遂に光り出してきました。手工室の樣な荒い物計り扱ふ所でも、美事に光つて來ましたので、誰もが誠の心の强さに驚きました。

室内が整つて來るのと共に、舍外へも行屆いた眼が輝き出します。自分達の分擔區域を手落ちなくするのは勿論、屋根の上まで氣がついて、漆喰の壞れを丹念に掃下して行く子も有れば、瓦の合ひ間に何時とはなしに延びた草を拔いてもくれます。誠に燎原の火にも似て、物皆を淨化せねば止まない迄に押進んで參ります。

本校の掃除は長々書きました通り、至誠に其の根源を發し、精進に精進を重ねた結果、有難い事には童師の創作を生み、現在迄及びました。

昭和十三年十一月十九日老師の御來校を期して本校自然の姿を公開した折、整理作業として來會者九百八十名の方々の前に開展し、天下に掃除を綜合教科と見る考へ方の實際を問ひました所、皆樣から廊下の美しい事、教室の整理整頓の行屆いて居る事、校庭便所の角々迄も童師の力の溢れて居る事等御賞の言葉を戴きましたが、其の後ですぐ

「どんなにしてかう行屆きましたか、糠で拭いたのですか。油でも引きましたか。何かよい藥品でもあるのでせうか。」

と問はれまして、がつかりせざるを得ないのでした。

掃除は本校教育の如實部面で、何の掛値もない赤裸々の縮圖なのです。師弟一丸となつて俱に行ずる綜合教科なのです。汗と脂で鍛ふ至誠の教育の試錬なのですから、一番力を注いで居ます。心眼を開いて見ますと、平常劣等生と銘打つて居る持て餘し者が優等生であり、優等生なりと自他共に許して居る所謂自負型の子供が、意外にも此の綜合教科には見事落第して、劣等生振りをきめ込んで居る者も少くありません。

今の學校教科には此の矛盾があります。社會へ出てあれだけの優等生がと冷笑を受けるのも無理からん事、只點取虫を優等生と一途に思込んだのが、教師の誤りです。掃除を通して見ると、兒童の人間としての輝きがはつきりします。よし、知識は持つて居ても、何等消化せられず、鵜呑に丸暗記した者が、意外にも優等生と云ふ名譽を獨占して、幅を利かして居るのであつたなら、事に當つて俊敏なる洞察力があると云ふではなし、端的な直覺力も無論持合せず、理解も咀嚼も出來て居ない鵜呑みの知でありますから、求める心で深く自得し、眞劍なる行の態度で體得した實踐の所產である我が綜合教科の整理作業成績に於て、舊式考査法の劣等生に負けるのは、何の理窟もない當然すぎる程の當然さです。

本校は整理作業を正科として取扱つて居ます。第四時限の次に二十五分間を其の時間とし、童師は誠を盡して居ます。此の時間になりますと、一・二年の兒達は一日の授業が終つて歸宅して居ますので、邪魔になる心配もなし、全校一齊の掃除作業ですから、當番の兒達も勵が出ます。教師も他教室へ出教授などして居る時は、學級へ歸りたくても歸れなかつたのですが、かう時間を取りますと、安心して俱に行ずる事が出來ます。當番外の者は、全部大運動場へ出て遊戯しますので、此の子達にも嬉しい二十五分間です。

普通教室四十二室、特別教室十八室、便所十一ヶ所、廊下九ヶ所、校庭九ヶ所、運動場二區、相當廣い校舍校地を、一寸の箇所・一尺の地と雖も、作業箇所として配當されてゐない所はないのでありますから、童師の負擔は可成り重くなつてゐます。

尋一、二は無し。尋三は自教室のみ。尋四は自教室と外に一箇所。尋五、六は自教室と外に二箇所。高等、女子青年學校は自教室と外に三箇所と云ふ事になつてゐますので、當番外の子供は極く少數になります。

作業の種類は大整理作業としまして、毎週月曜日第五校時に全校一齊四十五分間實施しまして、校長と整理作業主任が全校を見廻る事としてあります。普通整理作業は毎日第四校時と第五校時の間に二十五分間を取つてやります。拭込み作業は始業前、晝食後等の短時間に各學級隨時に行ふ事としてゐます。

作業をするには服裝に工夫を要します。いかに誠を盡しましても、仕事の出來る樣にしておかなければ、能率が上らな

い計りでなく、見る目も嫌なものです。男子は上着を脱ぎ、下着の袖は臂關節迄まくりあげ、跣足となり、ズボンは膝關節までまくり上げます。女子は上着を脱ぎ、下着の袖を臂關節迄上げる事は男子同様で、跣足となり、スカートは細紐で膝關節までからげ上げる事としてゐますから、見るからに男々しく、作業も樂々と出來ます。

時間も出來るし、服裝も整ふし、童師共に感謝の赤心を持つてかかりましても、肝心の用具を心配してやらねば、徒に人を苦しめる樣なもので、此の點細心の注意を要します。

舍內では、はたき一本、手工や工業の時間に材料を提供して、作つてもらへばすぐにも出來ます。箒三本、これは棕梠箒が一番よろしい。藁箒はいかにも値は安いが、すぐ駄目になります。棕梠箒は價は可成高いが、埃は立たず、自分自身に塵を作らず、耐久力は實に強くて、二年の命がありますから、年次計畫を立てて掛りますと、却つて安價につきます。バケツ二箇、之も購入に當つて値の高いものを買ふ方が、結極は得です。使用前に下の糸尻を更に二重張としますと、忘れる程長い間使用が出來ます。只雜巾のみは各父兄に依賴して、各自一枚持たす樣にして、作業が終りますれば、美しくすゝいで自分の腰掛の棧に掛けて置きますと、明朝迄には氣持よく乾いてゐます。硝子拭、これも各自持たせませんと間に合ひませんから、父兄會などには、よく此の理を話しますと、皆で持つて參ります。土間箒一本、これは土間廊下の有る學級では是非必要なのですが、商店に賣つてゐる萬年箒が一番よろしい。どうしても打水しないと埃が立ちますので、濡れても心配のない物がよいのです。塵取一個、土間の塵を集めるのですから、鐵葉で作つたのが輕便でよろしい。長柄棕梠箒各棟一本、天井や壁の蜘蛛の巣や埃を取るために、二米半位の竹の柄をつけておきますと、至つて便利なものです。

舍外の用具としては、土箕一個、塵捨罐一個、これは石油罐を半分に切り、針金の柄をつけて、底は釘で所々打拔いておいた方がよろしい。さうすると水氣のある物を始末するにも便利ですし、又ジョロの代用ともする事が出來まして、誠に便利なものです。竹箒二本、製造元へ注文して、よい笹で作り、確かな柄を付けてもらふ事です。出來合の物となりますと、孟宗竹の笹にはしてくれず、笹の結びつけ方は悪いし、柄をとめるために、徒らに大きい穴を開けるものですから、そこから直に折れてしまひます。殊に穗竹などを使へば、只の一回で柄は折れてしまつて、誠に勿體ない事となります。長柄萬年箒一本、蜘蛛が巣を張つて居るのを觀察して居ますと、中々完成しないものですが、校庭の樹から樹に張渡すことの速い事、朝來て見て、皆樣の驚かれる事が度々と存じます。向樣は時間を問題にせず、徹夜で來るのですから、とても仕方がありません。樹から樹へと美事に張渡されてゐるが、捨ててあるのを見ますと、何となく其所の主人の情ない根性の程が偲ばれてなりません。これも二米半位の柄の付いた長柄の萬年箒で整理して行けば、何の苦勞もなく始末がつきます。

便所の用具としては、洗ブラシ三本、バケツ二個、雜巾各自。此の雜巾は乾場を作つてやらねば子供は困ります。此の邊親心を働かさなければならん所でせう。

斯く用具が整ひますれば、いよ〳〵作業にかゝればよいのですが、唯やれと計りでは混雜に陷るし、何年經つても進境を見る事はありません。全校同一の型により精進してこそ、年々の進歩も見へもするし、擔任が變つても、何の差支もなくなるのです。此の點學校經營者には深い考を要します。今普通作業の順序を書いて見ます。

舍內では先づはたきで手の屆く限りの塵を拂ひ、次に机上の埃を拂ひ、白墨の粉を取り、黑板拭を打ちて粉を落とし、腰掛を机上に上げます。腰掛は其のまゝ上げますと、持運びの時に搖れて、轉落破損を多くし、大切な後のもたれ木が折れてしまひますから、必ず裏返して上げ机の天板と密着させます。此の間手の空いた者は廊下を掃いてしまふのです。次に箒を持つた三人は前から後へと掃いて行き、八人は二人がゝりで四列の机を前へ前へと運び、後で教室全體の塵を集

め、直に舍外の塵捨箱へ持つて行きます。これで教室の後半分はがらあきになりますから、床板や腰板を拭きまして、更に机を全體後に運び、前半分を空け、床板・腰板・教壇を拭きまして、机を原位置に整頓し、縱にも横にも整然と竝べ、次に廊下に移り、床板・腰板等の一切を終り、更に鴨居・敷居・戸・障子に及び、机・腰掛の天板を洗直した雜巾にて拭上げまして、窓硝子も拭終り、花瓶の水迄替へ、尙殘つた塵を拾ひ、今一度整頓して全く完了します。次の時間より授業の無い所は硝子戸を締め、カーテンを引きます。

舍內には學年の高下によつて、多少の變更はありますが、大體十四名を標準として配當し、机運びと床拭ひに八名、床掃きと腰板拭ひに三名、黑板・教卓・指導机・棚等に一名、水汲み・塵捨て・生花の水替に二名の割普請とすると、行ふ順序も容易に飲込めて、能率は高くなります。進行の順序をよく理會させないと、徒らに急いで全部掃終つても居ないのに、拭きに掛つたりしますので、埃や塵を雜巾で拭込む事になりまして、折角の作業が臺なしになります。

拭き方は雜巾を四つに折つて右手にてたしかに押へ、膝を稍開いてつき、左手は立てて體を支へ、雜巾と共に頭を左右に大きく動かしつゝ後へ〳〵と下ります。此の時唯右手のみにて拭く氣持では、動作も小さく、雜巾も輕くなりますから、體を頭と右手を同時に動かすのでないと垢は落ちません。一列に竝んで呼吸を合し拭きますと、其處にリズムが付きまして、興味が湧いて來て、いつの間にか拭終るものです。床拭ひ組には常に指導者を中央に入れて、適當なる調子を取らせてやりますと、とてもなめらかでよろしい。最もむつかしいのは角々まで拭き屆く事で、兩端に居る者は細部〳〵に注意を向け、時には指先に雜巾を掛けて角の一つ〳〵にまで及ばぬと、居候のそれの如く、角い座敷が丸く掃除せられます。硝子戸を拭く時は指先に雜巾を掛けて、硝子に觸れない樣にせねば、乾いた後で骨折り損の結果が現れます。水は何度でも新しい物に取替へないと、埃や塵で拭くに等しくなります。殊に机を拭く時には、必ず一度水を替へる樣念を押す親切さが欲しいものです。

室內の掃除は奧の方から〳〵仕上げまして廊下に及び、拭終つた所へは成るべく行かない樣にして、廊下の完了と同時に全員足の裏を拭きます。さうして鏡の樣な床板に、足跡をつけぬ樣に努めなければなりません。

舍外では上衣は所定の折釘に掛けて、塵拾ひ鑵を持つた者を中心として左右に擴がり、一定の間隔を開けて、塵や小石迄も丁寧に拾集めつゝ、前へ〳〵と進みまして、更に竹箒で美しく掃き、地面の荒れて居る所は平に直して終ります。

いよ〳〵これで普通掃除は完了しました。一同所定の位置に集り

「終りました。」

「有りがたう。御苦勞樣。」

と、童師朗に挨拶を交します。特別教室や舍外などで、師の御出でにならぬ所は指導者が代ります。これにて師は職員室へ子供は運動場へ颯爽と出て行きます。あゝ其の眸の輝く事よ。「始めませう。」と最初にかはしたあの挨拶が、今日も見事に實を結んだのであります。

校舍內外の整理整頓がいか程行屆いたとて、掃除用具が整はぬ樣では、私達の願つて居る精神はすつかり消滅してしまひます。所が御掃除は易いが、用具の整頓は至難事です。童師の絕えてたゆみない精進がなかつたら、何時の間にか混亂してしまふのです。そこが子供なのですから、性格に迄築上げるには、師を要する理であります。

教室掃除の用具は、各教室に保有する事が何よりも手間を要しませんが、さて何處にと云ふ事になりますと、中々適當な場所がないものです。私もほと〳〵困果てました。前の角、後の角と箱を造つたり、例の釘を打つたりして、何か妙案がないかと苦しみましたが、最後に心付いたのは、教卓利用です。今迄のは大抵抽出しを一つか二つ付けまして、中には

落し物や白墨の屑など雜然と始末するのが普通の樣ですが、整理整頓をやかましく云ふ師が出來て居ないでは、教育は行はれないのは當然であります。亂易いのを何としませう。こゝに機構の改造と云ふ手の殘されて居る事を忘れてはなりません。わけて校長となられた方は、徒らに童師の苦の多い事を平氣で見て居る樣では罰が當ります。考へて出來る事のあるものなら、一番叡智を働かすのが易行の本道であります。

教卓は抽出をやめまして、觀音開きの戸をつけ、其の中へバケツも、箒も、塵取も、はたきもが樂々整頓の出來る樣な棚を作り、バケツの所へ箒を持つて行つては始末のつかぬ樣に、單獨使用の型を入れました。そして出入口と反對の側へは丸い穴を開け、蝶番で自由に開閉が出來る樣にして、其の中に塵取を置きますと、これで見惡い塵取や掃除の用具は其の所を得て、教室はすが〳〵しくなります。

用具は學級が多いと混雜し易いものですから、箒やはたきには手の觸れない所へ、赤のエナメルで學年組名を、三年五組なれば三・五と明記する事です。師の誠は此の箒の柄の文字に迄も滲出なければならんと存じまして、極く丁寧に板書と同樣に願つてあります。兒童教育は此の些細な所に重大なる意味を持つて居る事を、同志の方々に時々御注意します。

舍内の用具は教卓の改造によりまして解決がつきましたが、舍外の用具と來ては全く始末が惡いもので、大抵の所では根氣がつきて棄てゝしまふものです。第一整頓の出來ぬ原因は廣い全校の用具を一つ所に集め度いと願ふ心に發端があります。使用に便利な所へ隨所に保存して見れば、責任持つ者もはつきりして、間違ひも少いし、都合が宜しい。第二の原因は整へる機構が出來て居ぬからです。土箕掛、塵拾ひ罐掛け、竹箒掛と區別をして、他の物が他の場所を占有すれば、其の所を得ない樣しておけば宜しい。第三の原因には釘に掛ける時はつきり掛る樣に、箒の柄の中央に細い錐で穴を明け、針金を通し、正しき姿にて掛ける樣に工夫します。只不心得な人は、太い穴にすれば物を通しよい等考へますから、其處が傷口となつて、柄がぽきりと折れます。廢物利用だ等と小悧口な事を申して、糸紐等をつけるから、一日もすれば請合に切れるのです。何と申しても針金がよろしい。使用個所の名を書くのも、手の觸れぬ所へ明瞭に書いてやつて、急いで取りに行つても、迷はぬ事が大切です。土箕にも上の方に針金の手を作り、裏へはエナメルで使用所名を入れると宜しい。塵拾ひ罐には針金の柄をつけて掛け、一方の側に使所個所の名を入れておけばよろしい。斯くして常に用具の使用所名を整理場の釘にある名に合して、名前を前の方へさへ向けて置く事を忘れなかつたら、いかな火急の場合でも役に立ちます。便所の用具も、これと同樣、便所ごとに作れば何の苦もありません。整頓する時には必ず使用する時の心掛さへあれば、萬事は都合よく運行します。

此の外大整理作業は毎月曜にやりますが、これは校内全員が一心となつた活動でありまして、立體的に押進みまして、天井や蔀にまで及ぶ事になつて居ます。人員も增し時間も延びる事ですから、平生二十五分間の作業には、手の屆かなかつた點にまで及ぶ事になります。

拭込みは時を定めず學級擔任や子供が必要だと思ふ時に行ひまして、常に美しい光を保たしめます。拭込みの一番大事な事は、始めて學校を美しうしたいと思ひついた時です。油を引かうか、糠でも使はうかと迷はれても、左樣な情ない事はせられずに、拭込みの手を用ひられたいものです。先づ第一はタワシを使つて建築以來の垢を落してしまふのですが、出來ればソーダを使ふと氣持よく落ちます。實に氣持の惡いどす黑い汁が恐ろしいばかり出た後は、すが〳〵しい板本質の色に返ります。次の日から數日間續けて、水を多く含ました雜巾で、板目に滲込んだ垢を尙拭取りますと、板は次第と荒れますが、何となく夜の明けた樣な教室となります。此の頃から絞切つた雜巾を四つに折つて右手に持ち、兩膝はたしかについて左手にて體を支へ、體と頭を同時に動かして雜巾持つ指先に力を入れ、後へ後へと拭いて行きます。水は何度で

も汚れたらば直に替へますと、二月もすればかすかに光が出てきます。此時をすかさず、時々空拭きを始めれば、益よくなります。何と申しましても全精神を雑巾に集注して、唯感謝の一念になる事が何より大切です。

間違つても油を塗つたり、蠟を持出したりしてはなりません。そこが子供の悲しさ、唯光ると云ふ事にとらはれてしまつて、どこの教室はよく光る、私の方も負けては居れぬとあせり出しまして、色々創作するものであります。或る時廊下に丸い椿の實が轉がつて居ましたので、妙だなあと思ひ、拾上げて其の邊に居た子達に聞いて見ますと、にこ〳〵して何とも答へません。すると側に居た二年生が

「校長先生、僕の方ではもう椿の實は一つもありませんよ。」

「それではこれはどこで取つて來ましたか。」

「日曜日に皆で山へ探しに行きました。」

と云ふ。益〻不思議ですから、

「何になりますか。」

と、重ねて申しますと、

「板の目や腰板や戸に引きますと光り出します。」

との事に全く驚きました。椿の油は八丈島が本場、女の髪に塗るものだとのみ思つて居た私の迂愚さを、冷笑せずには居られませんでした。これとても光るのがよいと云ふ事に執着して、自らの道場に感謝すると云ふ誠を失つた結果です。明けの日直に、誠を持つて磨け、眞心こめて磨け、心で磨き行で拭く、口を開けば手が遊ぶと、指導した事でした。

私の經驗の上では今一つとんでもない傑作をした事があります。毎日兒童が十糎平方位の油紙を持つて來るのが眼につきました。不思議だなあ、又何か有るぞと疑點は打ちましたが、どうも合點が行かないものでもから、數日靜かに觀察して居ました。所が驚くべき事を發見しました。御掃除の時廊下を通つて居りますと、其の油紙で一心に出入口の戸を磨いて居るではありませんか、さてはと思つてその教室へ這入つて見ますと、腰板と床板も見事に光つてはゐますが、かすかに油の臭が漏れて來ます。あゝさうか、子供は此所迄創案したか、光に迷はされた餓鬼道だと、自ら深く不德の程を思知りました。此の油紙は學校の近所の學用品店に賣つて居るとの事、其所の主人は

「此の紙で擦つたら貴女の教室が一番光り出しますよ。」

と子供に奬めて居るとのこと、勢全兒童は皆此の店に集つて、爭つて一錢の油紙を求めて居ましたが、隣の店も油紙ありますと貼紙をすると云ふ盛況、これで餘程儲けたと人々は申して居りました。淺間しい事は更に淺間しさを產みます。學校を經營する者はとても細心なる注意の必要な事よと、自らうなづきました。それから子供を集めて、床の光は心の光。清き心は床にもうつると諭しました。子供の心は何と云つても移り易いもので「光る。」と云ふ現前の美しさや、優越感に眩惑せらるゝは是非もない事ですが、師が付いて居ながら、此の邪道に共に迷入るとは情ない限りです。師たる者は爲す事の本質を常に把握して、たゆむ事のない樣に自らを省みる餘裕がいります。それで本校の實行信條には、床を磨くと思ふな。其處に墮落を生ずる。誠もて心を磨くと思へ、此處に精進生まる。とあります。

整理作業は立派に出來るし、子供達も自肅して居る時に、平然と足跡を殘す者が數あります。どうした事かとよく見ますと、上草履の護謨裏の跡です。此の樣な筈はない。最早上草履其の儘土間に下りる樣な者のない此の頃、合點行かずと觀察して見ますと、舍外へ出る時は下駄箱に上草履を入れて、靴又は下駄とはき替へて出るし、入室の折は土の付いた下履を入れて上履で上りますから、其の間下駄箱を媒介として點々たる土の跡が出來るのだとの發見が出來ましたので、こ

の事を周く子達に知らせてやりますと、あゝさうかと合點しまして、廊下の掃除の際には、必ず下駄箱の土を掃落し、雜巾がけをする樣になりまして、棚は床板の樣に光り出しましたが、足跡は根絶が出來ません。色々工夫しまして、上履は自分の席の下へ揃へて置く事、歸りには草履袋に入れて机の釘に掛ける事としましたので、萬事が解決しました。教育の事は一度思ふ樣に出來ても、常に本質に立つて自己批判の心眼を見張る事が大切です。

私共が整理作業を綜合教科として正科の中に組入れ、其の結果を世に問ひました所、洋然として此の思想が勃興し、小學校は勿論中等學校迄浸潤して行きました。或る學校で校長先生が、俱に行ぜよ、擔任は必ず掃除に出て行く樣にと申しつけました。所が面白い事が出來上りました。擔任は我こそ中等學校の教諭であると自信して居られますから、教室へ來られても、俱に行ずるの程のゆとりがありません。生徒達は寒風肌を刺す中に、兎も角在來の通り當番であるが故に、雜巾掛をして居ましたが、あまりにも拙いすゝぎ方をして居るものですから、監督の先生がたまり兼ねて

「それは何だ。もつと丁寧に洗へ。それでは何度拭いても床は汚れる計りだ。」

と申しました。女生徒達は

「はい〳〵。」

と申しつゝ、やはりもとのまゝなので、寒い中に立番しなくてはならぬ、自己の免許狀に對して相濟まぬ、中等教員の沽券にかゝると思つて居た時ですから、忽ち怒は心頭に發し、

「馬鹿な、それ位の事が出來ぬなら僕が絞つてやる。持て來い。」

と、申されたさうです。內心生徒達は恐入つてあらひ直すことだらうと思つて居られたが、さに非ず、女生徒達は平然として

「さうですか、先生宜敷御願致します。」

と答へたさうです。此の先生すつかり參つてしまつて

「貴女達の樣にあつさり云はれては、私も困る。」

と目を白黑して、其の場は笑ですみましたとの事でしたが、私は其の子を知つて居ますから、

「貴女は何と思つて、左樣な事を申されますか、不都合な事ですね。」

と問ふと、

「校長先生、其の方はね、自分はポケットの中へ手を深か〳〵と突込んで居ながら、こせ〳〵と自分にはする勇氣も持合せて居ない癖に、先生顏するのが腹が立ちましたからよ。」

とさも得意氣に答へます。私は此の師弟の勇敢さに驚き呆れ、瞠目久しいものがありました。師も師なれば、生徒も生徒、斯樣にして行けば、とても〳〵人間は育ちますまい。掃除する事によつて人間に成りたいと願ふ者は、かゝる師弟を限りなくさげすみます。

或る時本町で一番富豪の奧樣に用がありまして、御目にかゝりますと、

「校長先生、宅の末娘は尋常三年生なのですが、毎朝早く出ますので、『どうして此の頃そんなに急ぐの。』と問ひますと、『御掃除よ。』と申します。『毎日〳〵御掃除と云ふ筈はないに。』と云へば『毎日よ。』『御掃除の當番はないのですか。』と問へば『私當番でないから早く行くのよ。』『お前の樣な者がしたとて何の役に立つか。』と、なじりますと、『御母樣御掃除はとても面白いのよ。一生懸命して居ると何時の間にか光つて來ますよ。』と申します。始めの程は學校の仕方に疑問を持つて居ましたが、當番ではないから早く出て、してあげるのだと謂ひ、一生懸命すれば不思議に光つて來るのが嬉しい

と云はれて見ますと、子供だ、まだ乳臭いと思つて居た三年の末娘が、私よりは氣高い心根を持つて居る事に氣がつきまして、負うた子に教へられた氣持になりました。有難い事は仕事を通して人間にする事ですね。」

と、しみ〴〵語られました。整理作業の精神は次第と人を動かしてきます。校内は次第〳〵に學校から遠ざかつて行く氣がします。

此の間も或る友人の所へ用件を抱へて參りましたが、暫く行かない内に細君は見事な御腹になられて居ますので、色々ともてなして下さる事が大變氣の毒に思ひつゞけて、御暇します時

「奥様もどうか御大切になさいませ。」

と、心から御挨拶致しますと

「御親切な皆様の御心を賴りに、無事に生ませて戴きます。」

と云はれた時は、思はず頭が下りました。私は生來皮肉な性質で、時々自分ながら持て餘すのですが、いや早此の御言葉を承つては一言も出ず、細君の氣品に打たれました。それ以來其の奥様から後光がさしてゐる様に思はれまして、會ふ度ごとに頭が下ります。此の心得が有ればこそ、あの家庭は日々に和氣に溢れて居るのでせう。私は常に此の「產ませて戴きます。」と云ふ心境を等しく「御掃除させて戴きます。」と云ひ得る敬虔なる信念がありてこそ、我等同志の勵みつゝある永久の生命たる道は育つのだと存じます。

第二十一　教室經營

道以前の心得として忘れてならぬ事は、教室經營の一事です。よく議論せらるゝ方は、何教室經營贅澤な事申すな、松下村塾は藁屋の障子張り、年代表一つなかつた。今の學校は文化に過ぎるから、總ての考へ方が物質的に流れてしまふ。道場精神を勃興させねばならぬ。夫が永遠の生命を長養する近道だと、復古精神を强調せられます。所說一應は御最と存じますが、此の方々が考慮の内に逸脫して居られる重大要件があります。諸君は教室に溢るゝ六十・七十の兒童を何とします。一校何十學級、何千の子供を何と見ます。此の動かすべからざる嚴然たる事實を無視して松下村塾を說いても、私は一向に肯定致しません。師たる者も不世出の偉才松蔭先生と、一個の師範卒業生で共通免許狀持ち、地方長官の命に依り校長の欲せざる人も壇に立たせなければならぬ現狀を、同一に見て何とします。

此の平凡人が義務教育と云ふ法律のため何は兎もあれ入學した子供を、姓名だけ覺へるにも可成の時間を要する人員を一手に引受けて居るのですから、出來るだけ文化的施設を豊かにして、及ばざるを補ひ、經營整うて後、始めて全靈を傾倒すれば、我等の如き凡人も、やつと効果的に人を動かす事が可能なのだと存じます。

兒童程環境に支配せらるゝ者は無いといふに關はらず、學級王國だと豪語する人達が少しも教室經營に重點を置かなかつたり、道にいそしむと口にしながら、雜然騷然たる教室で教育したりする様では、道尙遠しの感を深うします。永い間御奉公をして居る内には、色々な人に出會ひました。何年前に作つたのか、今は色香も失せてさだかに見えぬ小旗や、紙鎖の引廻した下で、平然として修身教育をする者、前年の展覽會に打つた釘が次の展覽會迄テープのきれを五糎も引きづつて殘つて居たり、教室を繪馬堂とでも心得て居るのか、成績を何十枚ともなく貼りめぐらし、風の吹く度に音を立てて亂れて居るのもあるし、色々と工夫したであらう圖表や年代表、教室常備の地圖や姿勢圖と、空間隙も無い程にはりまはしたのはよいが、美しいのは四月だけで其の後は埃の積み次第、年が年中一度だつて手入せず、甚だしいものになると前學年から引繼いだ埃も平氣な程度胸の坐つた訓導諸君がまだ此の世に存在して居ます。教育の前途も尙遙かなる哉と望洋の歎

を深うします。

壁面には兒童の成績・繪葉書・樣々の圖表を所嫌はず勇敢にピンで留め、年重つて傷又傷、滿身瘡痍とは此の事か。一方所嫌はぬ糊貼の跡は、大怪我の壁に應急の膏藥張りと云ふ有樣、斯く迄もしいたげつくした教室に、平氣で道を說く樣は暴君と申して、何の申過ぎがありませう。

更に又驚くべきは黑板へ教便物をピン留めにせらるゝ事です。黑板は如何にして造られたるやを考ふれば、ピンを刺せば漆や塗料の剝げる位は皆知られて居ように、今何れの學校を尋ねても、完全なる黑板は見られません。大戰後のベルダンではありませんが、あゝ此の無慘なる光景を御覽なさいと長歎息するばかりです。訓導諸君が黑板にピン留めをして居られるのに行合せますと、身を刺れる樣な思がします。かくして黑板の面は荒れ果てて居ますから、書く文字たるや實に怪しげなるもので、子供にても今少しはと思ふ位しか出來ず、罰は覿面と報ひられて居ます。

毎日毎時手から離す事の出來ぬ白墨に批評眼の低い事も、小學校の先生方の特徵でせう。商人に任せきりで、買込んだが限り、運命づけられたとでも考へて居るかの如く、唯々として使つて居ます。堅過きては黑板がいたむし、文字にはならず、柔か過ぎて折れては力が入らず、太きに過ぐれば、細過ぎると等しく、正しい文字になりません。其の宜しきを得るのは中々むづかしいものです。砂が混入して居ると大切な黑板はきずがつきます。此の時心ない方はさも憎々しげに、黑板を砥石の如く考へて、やたらにすり合してゐますが、身の縮むのを感じます。校長や首席はこの邊迄眼光が屆かぬと上すべりの教育が行はれます。

黑板拭は粉の散亂せぬ物を選定すべきです。只價につられては童師共に辛抱が出來ません。掃除の折は兩手で持つてはたき合せ、濡雜巾で表面を拭き、黑板を拭つた時に美しく消ゆる樣常に工夫を怠つてはなりません。

黑板は毎時間の終に必ず拭ふべきで、授業が終るとやれ〳〵と云はぬばかりに其のまゝ捨てて行く樣は、いかにも教育の切賣りの感がします。兒童の學用品を始末して居る間に、丹念に角から角まで拭去るがよろしい。前時の板書が半消しに殘つたり、繪が所々に殘骸を曝して居たりする樣な教室では、落付いた教室にはなりません。毎日の整理作業の折はよく絞つた汚れてゐない雜巾で、同一方向に拭ひ、粉一つ殘さぬ樣にする心掛けが大切です。何と云つても、黑板は教室內で一番大切なものですから、新調する時は金を惜しまず、一番よいと定評のある物を購入するがよろしい。

然し眼をよく光らせないと、とんでもない目に遭ひます。洋家具屋などに云はせますと、學校機具を引受けるなら黑板を取れと云つて居るさうで、大低倍位に値が付いて居ると考へて、間違ひがないらしいです。二間續きの磨出しで、材をベニヤ板で作れば、原價は大體十五圓位だとの事ですから、充分御用心なさりつゝ一番上等の物にせらるゝと、耐久力はあるし、書き心地はよし、消し具合も申分なくてよろしい。

今も尙學級王國などと英雄氣取でゐられる若い方々が少くはありませんが、長い間教育界に生を受けて、世のすべての罪惡を見盡した眼を持つ者は、かゝる時代の殘骸を唯一の教育精神として持たれる方が憐れでなりません。自由主義花やかなる時代でさへ、教育的良心を持つ者は齒牙にも掛けなかつた思想です。御覽なさい、米國など各州自由の憲法を持ち、自己の選出した小型大統領の知事を持ち、其の境を一つ越す事によつて理科教授に進化論が解けなかつたり、夫婦仲よく乘つた自動車が州境一つ越えると、數日にして結婚の解消が出來たりする州王國の道德的慘狀を。若し相隣りする督軍が各自の國境を守つて、何十年先の稅金をとり、輪轉機の續く限り自由勝手に紙幣の洪水を造上げたり、思ふがまゝの自家制法律を楯に、人民に塗炭の苦しみを繰返させたりするに關はらず、支配者のみは數千萬金を貯へ、南風競はずと見れば、一族郎黨相率ゐて外遊ときめ込む隣國支那の過去及び現在を。此の思想を我が學校に持込めば、甲學級は專政

式、乙學級は自由主義式と、校内の統一は忽ち亂れ、兒童は先生の變るごとに教室がすつかり模樣替となり、學習樣式迄變るのに順應しなくてはならず、終には學級教師の言は學校の言に非ずと迄に墮落し果てるでせう。假初にも同一學校内に職をけがした者のなすべき態度でせうか。學校の端々掲示の一枚、廊下の傳板一枚にも、竹箒一本にも學校精神が讀まれてこそ、統一せる人格者は出來るのです。

學級王國者流の校長諸君は云ふ。各訓導の性格に任せて思ふ存分の經營をさせ、校長は靜觀、各學級の傾向を見定めた上で校長の根本案を作ればよいではないか。校長は纒め役をして重きをなせと說きます。かうなると各訓導は校長を感化し、校長は訓導の中に生きると云ふ光景です。これで果して一校の道が榮えませうか。私は左樣な卑怯なる校長諸君には組しません。一校を預る校長は全訓導を率ゐて感化するだけの豊かなる人格を持たねばならず、第一線に立つて克く父兄の信賴に報いるだけの實力を持たねばなりません。訓導諸君は校長の信ずる道を慕ひ、校長の念願する教育を己の學級に打立つべきです。斯うなると、常に組織的な經營の根源がありますから、安心して、勇敢に道を遠しせず、日々是れ好き日と明瞭に、泰然と兒童に接する事が出來ます。あの學校は生きて居る、精神がある、と云ふのは、校長の信念が校内に溢れて居る事を申すのです。

されば教室經營にも學校長は標準を示す必要を生じます。骨子を定めてやる事は、則ち校長の生命が流るゝ主流を示す所以であります。此の樣な意味で、本校では三十九個の全學級同一樣式による根本則が定まつて居ますから、擔任諸君は只其の上に自己の力に應じて附加すればよろしい。

教室の正面則黑板の上の壁面には、宮城の額と修養目標とを掲げ、其の兩側には教室常備用の日本地圖と世界地圖、窓と反對側の壁面には漢字の首部一覽、年代表、鄕土地圖を掲げ、兒童の背後には、成績掲示用のテックス板、夫を挾んで半間の小黑板を入れ、教卓は前整理作業用具入れの所で書きました通りで、指導机は兒童の左前の黑板脇に置き、其の壁面にそつて成績等の保存戸棚を配置し、其所へ毎月體重調査表とグラフ黑板を掛けます。私は教室の都合さへつけば、此の指導机は兒童の背後へ置き度いのですが、近頃の樣に兒童の增加のみ甚だしく、校舍の建築が之に伴はぬ時代には是非もない事と諦めて居ます。教師諸君は此の指導机なる物の整理整頓に一段と注意を要します。如何に立派に口先だけは申されても、それと正反對の實物指導が行はれては、凡そ教育とは意味のないものになり、何と力んでも、子供は二重人格者となりませう。

漢字表・數圖・五十音圖・片假名平假名對照表・暗算表・身體情況表・誕生日一覽表等は壁面に固定せぬがよく、常に移動の利く樣にして、必要な時にはすぐ掲げ得る樣、指導机の後の壁に裏返して掛けて置けばよろしい。年中曝物にしましては、凡そ意味のないものになりまして、子供達はやがて其の存在さへ忘れてしまひます。

教鞭は中指程の太さで、曲る事のない兩端に節の有る三十糎位の竹一本と、一米半の地圖を掛けたり、下したり、さては年代表などを指示したりするのによい太さの竹二本を、本の方に穴をあけ、紐を通して教卓に掛ける樣工夫し、書方の水入れに要する土瓶も、口から水のこぼれない物をよくたしかめて、教卓の中へ保存するがよろしい。

掛圖を出すには大抵黑板の額緣に釘を打ちますが、壁に固着して居る物でない限りZ字型の針金を作り、中央の線は上下の線と直角に交る樣にし、上の折り曲は黑板の額緣の厚味を稍廣くした物を二箇作り、掛圖を綴る細板の兩耳を一寸位長くして置けば、實にうまく行きます。したがつて普通用ひられて居る紐は不用となり、掛圖の損傷も大變減じますが、只保存棚を工夫しなければなりません。

教室には柱掛が是非必要です。四時花を生けて、疲れた子供の眼に、慰安を與へてやる親心を働かさねばなりません。

此の柱掛一つで、どれ程教室の空氣が柔ぎませう。然しよく指導しないと、子供の通有性として、筒に入るだけの花を無理に差込む癖がありますから、豊なる差し方を教へてやるのが生活指導です。佛様の花筒の様に無理に押込んだ花も見苦しい事は見苦しいが、香失せ色さへ定かならぬ枯れ腐つた花を、何日も其の儘に捨置く様な事では、教室經營者として問題になりません。これで本校の掃除當番には、必ず此の作業をもつけ加へてあります。掛ける位置は、出入口に近い側の前方の柱が一番よろしい。教師は常に兒童と向合つて居ますので、美しい花生け、心地よい額等は、何の考慮もなく、御自分によく見ゆる兒童背面の柱に掛けます。しかし子供は一日中後を向く機會を與へられないのでありますから、師と共に樂みたいと思へば、御注意を受ける覺悟のない限り、其の機會が無いのをどう致しませう。心すべき事です。

教室で教師の正面を飾る方に限り、兒童の正面は案外無關心で雜然たるものです。御自分の背面で自分が見ないのだからと云ふ程に強い意識は無いにせよ、眼の有る者から見れば、實に淋しいものです。人柄の奥が見えすきます。

教室の表示板の文字は誰か全校一齊に書きたいものです。楷書で、丁寧に、謹嚴其の物の樣に、誰もが家の門札に力を入れられると同じ意味に、やり度いものです。時間割板は不必要だと申される方もありますが、子供とて時々見る必要もあらうし、父兄などの參觀者に供へる必要もあります。殊には校長の校内巡視の折には無くてはならぬ物ですから、誰にも分る樣擔任者の最善を注いだ楷書で淨書し、消えたり汚れたりした時は、何度でも書替へるだけの勇氣を持合はすべきです。一年は片假名、二年は平假名、三年よりは漢字とし、頭字のみを書く樣な事をせず、讀方なれば「讀方」と明瞭に出すがよろしい。殊に他學級よりの入り教授などある時は、朱書して其の下に訓導名を明記すべきであります。又特別教室使用の場合は朱書して其の處在を明にします。教室の表示板や時間割表に、埃の積つて居る程見惡い者は無く、其處に級風も一目に見えすいて、淋しい限りです。

學校の基準に從つて施設した教室備品は、一覽表を作り、各教室に備へますと、學校經營上非常な便利を得ます。學級數が增す程周密なる注意を拂ひませんと、學校の秩序は何時とはなしに亂れてしまふものです。

よき學級・よき學校は我人共に望む處ですが、只希望するのみにては、何年待つても完成されるはずはなく、教室内の一つ〳〵の物と盡くの學級を皆正しい方向に向け直しまして、一日〳〵と誠を重ねるのが、何よりの祕訣であります。

第二十三　明日の打ち合せ會

只一筋に兒童のためと祈つた今日の教育も事無く終りまして、教室の後始末を終へ、戸締りを見直し、カーテンを引いた擔任の方々は、兒童成績や教授用具を持つて、職員室へ〳〵と滿足の色を浮べて歸ります。これより全員職員室で事務を執りはじめます。餘りにも尨大過ぎる本校では、打合せや用件のため給仕を呼びにやつて居た日には、一人や二人では事を足す事が出來ませんので、執務は全部職員室でと定めますと、事務の方面からも、教材の打合せの方面からも、實に便利であります。殊に桃色事件などで兎角と騷廻る原因も、事前に削除する事が出來て、實に妙案です。

職員室で帳面の點檢をせられる方、書方に採點せられる方、それも大體片付いたか、教材の研究を始められて居る方、教案を書續けられて居る方、室内は只一筋に本日の整理と明日の準備に一生懸命で、恐ろしい緊張を見せて居ます。雜談一つするでなし、滔々として流るゝ急流にも似たる勢が見えます。教案の出來た方は提出するし、色々の日誌類の整理提出も出來るし、安堵の色が漂ふ頃、サイレンは鳴響きます。今日の打合せ會の合圖です。此の時校長は校長室より教員室の机に來て待つて居ますと、職員諸君は一齊に事務を止めて、御互に禮を致します。校長は先づ本日の校内の出來事に對して、反省を加ふ可きは一つ一つ擧げて明日より繰返す事なき樣依賴し、賞讃すべき點は此の點此の點と指摘して、全職

員の關心を高め、更に明日の行事につきて說明し、考慮すべき點準備すべき點を丁寧に打合せて、手落なき事を期します。時には社會の動きや、世界の情勢、時事問題につきて指導講話をしますと、職員諸君は專念教育に一日を打込んで居ても、社會常識を失ふ事なく、教育の研究題目をも得るのであります。本校の職員諸君が待つて居て下さるのは、此の校長講話であります。

事務上の事については總務及び事務主任それ〴〵本日の結果に鑑み意見の發表をなし、明日の計畫を明かにします。最後に訓練主任は、本日の監護日誌を參考とし、本日の校內事情と照合せて、明日の訓練目標を定めて發表します。

打合せが完了しますと、校長は其の場に起立して

「終ります。左樣なら。」

と挨拶すれば、職員諸君も同時に起立して

「左樣なら。」

と相和します。事務完了の方は出務札を整理して、一日の業を終へ、身も心も輕く下校せられます。いまだ事務の殘つて居る方、教材の未調査の方は尙も仕事を續けられますが、一方讀書を始めましてノートする方もあれば、又心の合つた方々は相集つて、四方山の話が出るし、時には哄笑職員室を搖がす事さへあります。職員諸君は誠に自由の時間とて、天眞爛漫一日の勞苦をすつかり洗流されます。

此の「明日の打ち合せ會」を始めてよりは、職員會を度多く開く必要がなくなつて來ました。其の日あつた事は、其の日反省し、明日の行事を定めて參りますから、大抵は此の會で片付いて行きます。一同時間的には節約出來るし、打合せ事項も日毎小出しになりますから、よく徹底するし、大變喜んで居ます。

此の頃總親和の波に乘り、職員室で雜談哄笑しつゝ、事務を執る事がよいのだと思つて居る方もある樣ですが、これは大なる誤りであります。自己の職分を完全に遂行して、己が學校完成のためには、常に自らを無にして顧みず、歡喜の中に總努力をなし、只一筋に御奉公する樣を總親和と申すのであります。徒に雜談しつゝ、下校時間の一刻も早く來らん事を祈りながら、時を待つたり、荷物を纏めて打合せ會の短かからん事を祈るのであつたりしては、よし笑ひつゝ會は終つたとしても、それが何の總親和・總努力になりませう。

第三章　學校建築易行道

第一　學校建築

自治體に取つて何が重大なと云つても、學校建築位大仕事はありますまい。建築のため基本財産を持つたり、積立金を用意して居る所は數へる程しかなく、殆んどすべては起債によらなければならないのですから、惡くすると子孫に借金を殘す事になります。決議機關の二の足踏むのも更々無理のない事です。それで增改築の輿論が起りますと、必ず反對者が現れて參りまして、新築しなくても現在で充分だ、家が古いから教育の出來ぬ理由はない。昔私共の若い時は、講堂もなければ、校舍も今より貧弱であつたが、人物は相當に出して居る。尙又我々の父祖の代を見よ。不完全極まる寺小屋で有つたが、本町からは何某、何某と云ふ名士も出てゐるではないか。彼の松下村塾を見よ。童師共に働きつゝ、素人作りの茅屋で回天の大業明治維新の原動力を作つたではないかなどと、理窟を申すものです。何時迄も現狀維持は出來ぬと知りつゝも、忽ちにして其の年よりの增稅が身にしむのが辛いのです。何十年に及ぶ支拂の責任を負はねばならぬからと思へば、誠に無理からぬ事に存じます。それ故自然の推移にまかせておいては、何時新築が成るか想像もつかぬものです。

私は村力・町力を傾けた大建築を何度もし遂げました。私の校長生活は或意味から見ますと、學校建築の爲に奮鬪したと申してもよい位です。或る一村で大體仕事が終りますと、忽ち新開拓地に移されます。赴任しますと、それ建築校長が來た、本町にも大土木事業が始まるぞと、挨拶するなり申された經驗を持つて居ますが、二年とたゝない中に大抵の所では、進んで子弟のために大犧牲を拂つて下さいます。人々も不思議だと申しますし、私も妙だとは存じます。

私は此の眼で校舍新築の如何に大切であるかを現實に見て居ます。居は氣を移すと申す事や、孟母三遷の理がはつきりとして居ます。それで私は自信を持つて、强硬に、父兄諸君に說く事が出來るのです。

始めて校長として赴任した村は、天下の模範村ならよいのですが、天下の難治村として、日本的に名をなして居て、村長は任期の勤まる人など絕えてなく、村治のあらゆる部面に抗爭を重ねまして、村內に敵國を作り、彼の派から村長が出れば此の派は滯納同盟まではじめ、此の派の天下となれば何か事有れかしと鵜の目鷹の目と云ふ有樣、學校だけが超然と其の渦卷から脫け出る事は出來ず、校舍は荒れて棟は傾き、滿足する硝子障子一枚有るでなし、蔀は破れ、机は眼も當てられぬ破損品ばかり、內容外觀共に實に荒切つたものでした。赴任の挨拶に廻つて見ても、村長始め村の有志の方々迄が「本村は天下の難治村ですから、校長樣も御難儀でせう。」

と云ふ御挨拶を受けた程で、村民自身も難治村たる事を自覺して居るのですから、中々大したものです。それでこの學校に赴任した人は皆左遷せられたと思ひ、一日も早く逃れ出度いと願つて居ます。學年末など九割迄轉任希望の申出が有ると云ふ盛況。教育は重んぜられず、教師は村の使用人と云ふ景觀を呈し、只缺點のみ拾はれて、少しの手落ちでも有らう事ならやかましく抗議せられますから、兒童よりは信用を失ひ、引いては學校の威信地に墮ちまして、心有る父兄は多大の村費を負ひつゝ、子弟を他町村の學校に出すと云ふ情況、教師も兒童も救ふ術なしと自棄に似た諦めを持つて居ます。

折も折あの不景氣は襲來しました。此の抗爭と對立を事とし、村勢日々に非なる農村をも見逃してはくれません。自治の亂れたる所の其の手酷しさは格別であります。私は約一ケ年靜に其の渦にまかせて、教育建直しの策何れに有りやと靜觀を重ねましたが、前校長と事務の引繼ぎの終つた時

「やれ〳〵くつろいだ。これで長生が出來る。」

と、思はず漏された述懐のみが浮んで來て、何から手を付けるかと云ふ案よりは、速に轉任運動を起すべしと云ふ考が湧いて來るし、先輩や知己も全く同意見で、無駄骨折るなと奬めてくれます。然し私は幸にも若くて、まだ勇氣が殘つて居ました。此の荒び切つた學園に校長としての第一歩を印したのも何かの因縁である。盤根錯節こそ我が力を試す好個の試驗臺なり、我が誠を盡して、本村百年の計を樹てん哉と決心しました。

丁度此の時村長は任期の四分の一さへ滿たぬに、感ずる所ありとて退職、新村長は村外より選任せられましたが、此の方は縣内に於ても有數な大物、事に當りて英斷、叡智秀で、洞察力强く、嘗ては洋行迄もせられた方で、誠に賴もしい方を得たのでした。赴任の御挨拶の折に

「校長、君は着年既に一ケ年、本村教育の立直しに付いては腹案が有らう。一つ案を立てて見よ。」

との事でした。其の後案を練り

「本村永遠の計は他なし、教育を振興して來るべき青年を養ひ、村の中堅として活動さすにあり。教育を振興させるには、現在兒童の性格を改造せざるべからず。性格改造には先づ大土木事業を起して、本校の根本的增改築をなすにあり。百年の大計此の他なからん。」

と、申しますと、

「自分も着任以來其の通り考へて居る。必ず實行して見せよう。其の代り貴君には重大なる責任が有るぞ、本村の振興の根源を培ふと云ふ言質の實現に。」

斯くして數多き反對と强硬なる阻止運動を排せられまして、十間に十五間の講堂、三十間の教室二棟、五間に十間の職員室の新築と、校地の大地上げを斷行せられました。炎天の下に人夫と共に地搗をせらるゝやら、洋灰工事の監督指導やら私達は只御病氣になられはせぬかと心配する程、日出づれば早學校に來られ、日沒する迄工事場を去らぬと云ふ精勵振り、反對せられた方々ですら、等しく其の熱心さに敬意を表さない者は無いと云ふ有樣。忽ち一ケ年にして竣功、當時郡内の有福町村を尻目にかけつゝ、盛大なる落成式を擧げました。來會の方々は自村にもかゝる殿堂が欲しい、將來本校に學ぶ者の幸福は幾何ぞと、垂涎措くなき狀態でした。爲に數年ならずして、何れも工を起し、皆之に倣ふと云ふ盛況を呈し、村民諸君も意を强うせられました。

其の理由は外觀のみに眩惑したのではなく、あれ程地獄に落ちた教育が、むく〳〵として興隆したからでありました。兒童は今迄永年の間、學校とは塵埃に埋つてゐる所である、室内へは下履のまゝ上つてもよい。學校の物は自分の物だ、硝子の二枚や三枚壞したとて分る物ではない、石を投げつけてあの金屬性の音を聞くのは痛快だ、と云ふ憐なる常識は失せ去つて、此の心地よき殿堂を汚してはならぬ、大切にせよと、手足を自發的に洗つて來るし、雜巾は持つて來るし、硝子一板を破る者がなくなつて來ました。父兄も學校を訪れる度に、兒童の幸福を思ひ、其の服裝迄整ひ出しました。職員諸君も今迄に感じた事もない明朗さを覺へまして、教育に全靈を投込みますので、兒童の成績は日に上ります。流石の難治校と銘打たれた學園も、落成式を一期として急廻轉して參りました。

村民諸君も此の不景氣時代に心なき村長よ、校長よ、と譏り、或は誹謗せられた方々も、次第に喜ばれまして、學校建築がいかに兒童教育上重大關係あるかを覺られ、村力に餘る負擔も、やがては本村を背負つて立つ後繼者への捨石と思へば、何の金錢が惜しからう、よくやつたものだと申されます。尙巨額の起債により、村民は自覺し、一轉協力一致の美風を生み、滯納者など次第にその跡を斷ち、あれ程の難治村と自らも捨鉢的に豪語した政治的對立の村も和風みなぎり、產業

起り、或る野菜などは阪神の相場を左右する程の實力が出來、村の富力は次第に蓄積して行きました。

私が轉任して後も、村民各位は村を起すは教育にありと云ふ、教育第一主義により、あの農村不景氣の眞只中に於て、更に一棟增築の決議をせられ、全村民協力一體、更生の一路を辿られて居ます。前任地の教育興隆、村力蓄積、共同一致の美風を見て、限りなき尊敬と感謝の念を捧げて居ます。天道人を殺さず、自ら助くる者を助くの理は忽ちにして現れ、國庫よりの交附金は次第に增加して郡內の首位となり、村財政の運營も年を追うて餘裕を生ずると聞いて居ます。

只今は支那事變下にあり、萬事は勝利第一主義で、物資統制の折柄、中々建築等思ひも寄らぬ時代になりましたのは是非もない事と存じますが、やがて皇威八紘に輝き、東洋新體制の完成の曉何を置いても興隆せしむべきは教育であります。敗戰支那もあの執拗極りない抗日・排日・侮日が蔣介石の教育による事を眼前見て居る限り、興國第一策は教育にありと、大戰後の獨逸の如く、恐らくは憲法に迄數條明記して、鬱然たる民力興隆を願ふ事は火を睹るより明であります。吾等教育者は此の點に活眼を開き、案を練り、來るべき建築時代を待たねばなりません。只非常時だ、是非もないと諦めに似た其の日暮しの、淋しい根性で今を過したなれば、來るべき日が來た時に、百年の大計を誤るであらうと確信致します。

町村が貧弱であり、家庭が貧しくあればある程、尙更此所に目を致され度いものです。將來皇國を背負つて立つ者が、富有町村に或は富有者の家庭にのみ育つべしとは誰が折紙をつける事が出來ませうぞ。草深き茅屋にもその芽は潛み、石屋の小伜が廟堂に立つた事を忘れられたる方はよもありますまい。又富める者は富める故に自己を愛し、自己を愛するが故に、國家を第一としなくてはなりません。眼前の負擔のみに算盤を彈いて行く時は、一人のムッソリーニ、一人のヒットラーの芽は消去りませう。心すべき事ではありませんか。

一生新しき家に住ふ事も出來ず、机に倚る事さへ出來ぬ憐れな運命を擔ふ子供等には、國の寶として育つ教育殿堂が尙更に必要な事と存じます。斯く思ふ時、村民諸君の負擔は百も承知しながら、村の基を樹て、國家の礎を築かんが爲、父兄に說き、有志に語らひ、自治體の當局を搖すぶつて、教育殿堂の完備を急がねばならぬ事になるのであります。

第二　建築四十年計畫

先づ校舍の新築、增改築を願ふ學校は、自治體の大勢を動かす工夫をしなければなりませんから、第一着手として其の校々舍の來歷を調べ、人口增加の趨勢を見、其の町村が負ふ運命を推量して理想的校舍完備案を作製する事です。第二は木造建築物の運命は大體三十年を限度として居ますから、其の間に於ける世の中の文化進展を考へなければなりません。只今の情態に基本を置いて計畫を立てる時は、一代に二度の大土木工事を起る必要に迫られまして、結局は財物を無駄に使用する事になります。

私が第二回の大建築をしました時には、諸趨勢を考慮に入れまして、人の膽を奪ふ樣な外觀內容共整つた案を立てゝ、輿論喚起にかゝりました。すると人々は本町の現狀に合せぬ狂氣沙汰である、と申されましたが、其の間に敢然として立ち、現在文部省邊の意向としは木造建築物は三十年を持つて運命として居る樣であるが、本町の大勢より見て、夫は贅澤過ぎる。四十年案を取らねばならぬ。校地・校舍・備品共に四十年後に尙水平線を保ち得る樣工夫する事が大切である。現在の物質界萬般の進展の有樣を見れば、此の完備案たるや始め十年は或は水準以上かも知れないが、今に增改築の必要に迫られて來るであらう。子弟を有する者、此際思切つて子等の負擔すべきを少しでも輕からしむべく努力せねばならんと、誠意を盡して父兄、有志、議員と會ふ機會有るごとに根氣よく說きました。校長先生は新築氣違だ、と云はれる程熱心にやりました。此の時町長は

「ようし、やらう。本町百年の大計の基礎を置かう。」

と、一大決斷をせられまして、大勢日々に佳良となり、何とかしなくてはならぬと云ふ機運が、次第〳〵と動きはじめました。

此處迄來た時、自己學校と同一の運命を擔ふ樣な町村に於ける、最良の學校を調査研究して置いて、町の決議機關の方々に視察に、出て戴く樣誘導する事が大切です。町村將來の發展傾向を洞察して案を纒め、豫め視察地の學校を訪れ、學校長に建築說明の時特に自己の意見を織込むで戴く樣强調すべきです。

其の後何回となく建築視察を受けましたが、只漫然と自動車を乘りつけられ、何の意味もなく遊び半分に校內漫步の巡視をせられて歸られる方に會ひました。これでは何の爲の視察でせう、所謂花見旅行に類するのではありますまいか。何處の學校で何を見ると云ふ案を定め、視察地の校長より平生校長の意見と等しい事を說いてもらつたら、あゝ此處の校長も學校建築については等しい意見を持つて居るな。何としても理想の學園を建設しなければならんと、視察者一同喜び勇んで歸られまして、新築の輿論は湧立つて來るではありませんか。

若し誤りまして、眼前の膏藥張りで滿足しますと、時代〳〵に其の場凌ぎに增築して行きますから、出來上つたものが體裁をなさず、使用上非常な不便を每日忍ばねばならず、殊に校地など絕對に手に入らぬ樣な破目に落入り、思ひつきの學校建築となり、笑を百年に殘す事となります。

校長が其の町村の大勢を察し、何々小學校理想校舍建築年次計畫案を作り、町村諸君に關知して戴いておき、時に應じて急ぐ部分から增改築して行くとすれば、何時の折にか生命の通ふ完備せる學校が出來る事にもなります。

第三　建築と校長

全町を擧げて增改築熱高まり、いよ〳〵機熟して、本式の設計案にかゝる時には、校長の理想案を基礎とすべきであります。如何にも建築の事には素人故、專門的見地より見れば缺點は多々あるべきではありませうが、建築の專門家とよく相談して、敎育的見地に立つて戴かなければなりません。世の中には建築設計上から遺漏はないのであるが、實際使用者には非常に不便な物があつたり、當事者や、設計業者の趣味をのみ生かして、敎育的には無駄の多い事が數々あります。悲しい哉師範學校卒業者には、一つの建築上の專門知識を持つて居ません。平面圖位は分つても、立體圖になつてはすつかり盲目同然ですから、其のまゝ見過して出來上つた後、あゝ困つたと嘆聲を聞く事が度々あります。私に云はしむれば、師範學校長が此の點に留意して、建築學の手ほどき位は在學中是非與へなければならんと存じます。何と申しましても、設計者も理事者も一度だつて敎壇にも立たず、學校經營をした事もないのですから、此の人達の作つた案には敎育的缺陷のあるべき事は又止を得ない事實です。それで兩者相寄り相談じて完璧を期する樣、最大なる考慮を拂ふべきであります。

校舍の配置については、平野か山間か、町か田圃の中か等で敷地の制限がありますから、一概には申されませんが、先づ校長室職員室を中央に置き、最も便利に各敎室に行ける樣考ふべきです。敎室は東西の棟が一番よろしい。コの字型ロの字型には各特徵を持つて居ますが、通風採光を考へて見ると、それ〳〵東西の棟の並列式には及びませません。特に火災の事と冬季の風の方向を充分考慮に入れねばなりません。又震災の時の避難も考合せたり、最近の航空機の驚くべき發展に伴ひ、防空上の事も重大點におかないと、萬一の場合取返しのつかぬ事件が起りませう。

土地さへ得れば、平屋建が何れの點より考へても便利であります。廊下は常に北か西側に取るのが宜しい。土間がよい

と云はれる方がありますが、一人の遲刻生の下駄音が、一棟の教育の障害を來したり、埃の多い點より見まして、下駄箱の置場のために可成廣い昇降口を要する損失はありますが、板張が一番よろしい。雨の日など自由に遊ぶ事が出來て、雨天體操場を持たぬ學校には誠に好都合なものです。

教室の廣さは、教育に將來共理解ある地方では、二十坪が理想的と存じますが、理解の薄い地方では狹い程よろしい。何と申しましても、廣さが無言の內に兒童數を制限してくれます。

木材は二間とか三間とか丁度に切つてはありません。筏に流す時、陸上の運搬の時に萬一のいたみを見込んで、必ず餘裕をつけてありますから、新建築に當つては、六三間を主張せらるゝが宜しい。すべての木材に於て、三寸だけ高價になるかと申しますと決して左樣な事はありません。よく此の點を見込まれて、立案せらるゝと宜しい。殊に此の三寸を廊下へ集めますと、教室內は六尺間となり、廊下は五間張の家なれば四間の教室に一間と一尺五寸則七尺五寸の板張りを得られますから、至極便利となります。案外單價を上げずに廣い室や廊下を得る事になります。

教室內の設備として、黑板も、教卓も、書棚も、教壇も、背面黑板も、窓掛も全部使用書に入れて、建築費內で請負はすべきであります。土木業者は使用書を見て算盤を持ち、落札値段を定める物ではありません。あらゆる方法を考へて其の建築の豫算を知り、誰の設計であらうかと見きはめて、單價等は其の人によりて何掛にするかと云ふ事は、大體彼の人仲間には相場が定まつて居る樣です。當日は其の場に集つた入札人仲間の目顏を見て、入札するのでありますから、校長たる者此の邊の事情をよく飲込み、設備など入れたら大變價格が上るであらうと云ふ素人考を取拂つて、使用書に寸法用材まで記入しておきますと、案外樂々と主要設備が整ひます。それなら請負人は常に損失計りする樣にも見えますが、其所に請負人としての常道がありまして、落札値段を中心として材料及び手間代を定めて行く事になつて居ますから、取越苦勞など更々御無用なのです。

講堂建築については、四十年の生命を考へて、過去十數年間の兒童增加率を算出し、其の廣さを決定しなくてはなりません。只現在の兒童數を中心とする時は、忽ちにして狹隘を訴へなければならん羽目になります。講堂は教室の如く自由勝手に增築はきゝませんから、特に當事者の考慮が必要です。

學校の建築物は皆尨大ですから、屋根と基礎工事には、特に念を入れた上にも、念を入れなければなりません。

基礎工事は六尺又は八尺位の松杙を入れる事を條件とすべきです。若し基礎工事が軟弱でありましたならば、落成の喜びと同時に家は傾き、戶の開閉すら自由に出來ぬ樣になります。殊に盛土をした所などは、注意の上に注意が必要です。上手な土工は土を生かして使ひますから、出來上りは平面でも、其の間に空間が澤山作つてあります。心すべき事です。

屋根は坪數も廣いので、スレート葺が普通でせうが、傾斜が急ですから、雨漏など起すと大變で、裏板を傳つて流れますので、下へ漏る直上が不完全だとは斷定する事が出來ませんから、修理は全部やり替へねばなりません。殊に講堂などになりますと、どうにも致し方のないもので、足場だけでも大變な費用を要しますから、建築當初に此の修繕費を見込んで、經費を豐かにすべきです。私は第一回目の講堂で苦い經驗を持つて居ますので、第二回には此の由を理事者に談し、思切つた改善を加へました。

裏板は北海松を使ひますと、寒暑に從つて伸縮が多くて駄目です。殊に夏の雨となると、スレートを止めた釘が一寸の風にも浮いてしまつて、仕方がありません。一枚のスレートの修理代が恐ろしい計り金を食ひます。それ故思切つて內地杉の正五分としまして、其の上に粉を葺き、更に防腐劑としてコールタールを塗り、萬一雨漏に備へて厚いルーフイングを張り、其の上に最も厚味のある重い六甲スレートを葺きましたので、最早數年になりますが、風の爲スレートの飛んだ

り、雨漏の有つた事は一度だつてありません。

斯くも萬全を期したなら、金は定めし多く入つたらうと云はれませうが、落成式の紀念品や御馳走を少し減じますと、大して困る事はありませんでした。

講堂は十間に十五間の六三間ですから、可成り堂々たる物ですが、第一回の時は空氣抜きをあけねば體裁も惡いし、衛生的でもないと云ふ說がありましたので、如何にもと思つて、兩側に二つづゝ付けて見ました。所が外觀は中々よろしいが、少し風の添つた雨となりますと、忽ちに飛込んで來まして、思はぬ失敗をしましたから、第二回目からは一切附けぬ事としまして、安心してゐます。

講堂の天井には餘程注意してかゝらないと、美事に出來たと喜ぶのも束の間、反響が激しくて物の役に立たず、一同啞然たる光景を呈する事さへありますから、音響の研究を充分積む必要があります。大體に於て、厚味のある物を使用するがよろしい。美しいと申して金屬板計り用ひたり、安いと申してベニヤ板計りで仕上げたりなどすると、キイ〳〵云つて、何とも仕方がなくなります。三度の經驗によりますと、厚いアルテツクスかトマテツクスと金屬板の混ぜ張りが一番成功した樣です。

講堂の照明裝置は一見贅澤のやうですが、一は實用の上より、一つは裝飾の上から、是非必要なものです。可成りの經費を要しますから、當初より其の考で計畫しておかぬと、飛んでもない事が出來ませう。殊に請負にかける時は、あの仲間では配線工事には特別の奉仕をして安心させ、照明裝置でうんと儲けようとするのが常習の手段ですから、此の邊當事者は深い考慮を要しませう。

請負に掛ける時、全部一括して出す事は下策であります。校舍はスレート葺、建築、基礎工事と分け、講堂は屋根、天井、建築、基礎工事と分離する事が最も得策です。元來土木業者は全部自分の手で出來るものでありませんから、自分に落札しましても、結局は專門家に下請さすのですから、此の邊見破る事が大切なのです。

又セメントは必ず直營すべきです。請負者の一番儲かるのはセメント工事でせう。如何にやかましく申しましても、とても指定通りにセメントを混ぜるものではありません。業者には專門の量り手がついて居ますから、目の前で誤間化して涼しい顏をして居ます。それ故、工事の第一着手としてセメント直營を行ひ、これが保有のため倉庫を作り、落成後は運動具の倉庫にしたり、或は雜庫にでもすれば、一擧兩得の名案となるわけです。

硝子戸は棧を多くして、硝子の廣さを成るべく狹くしておくと、破損の患も少く、萬一破壞しても、易々と入替が出來ます。硝子は少々高價にはなりますが、全部正一分とせなければなりません。普通硝子になりますと、整理作業中にても自然に壞れるし、ゴム毬一つ當つても、すぐ全兒童が北風に曝されねばならぬ心配があり、保溫の點から申しましても、格段の相違があります。

次はすり硝子です。運動場に面した所や、廊下側に澤山入れてありますが、凡そあれ位不必要なものはありますまい。子供を牛か馬の樣に考へたり、教室を刑務所の縮圖だと思つたりしては、人は育ちません。吾等の願ふ自覺ある子供なれば、何の不自由を忍んで、すり硝子張とする必要がありませう。全部無地硝子に入替へて見なさい。教室全部が明朗となりまして、何とも云ふ事の出來ぬ嬉しさを覺へます。私は第二回の建築には勇敢に此の案を實行して、將來の建築上に於ける改良點の暗示を受けたのでした。

床板は何と申しましても、內地松が一番よろしい。掃除が行屆けば、美しく奧幽しく光り輝きます。ラワン材、杉材等はまだよいとしても、米松や蝦夷松は禁物です。單價の少し安い事位に迷はされては折角の新築が臺なしになりませう。

床板はすべての工事の終つた後に張る樣監督すべきです。工事始めに搬入させまして、此の頃迄置けば、すつかり乾燥して後で狂ひが出ない計りでなく、壁やペンキ塗のために汚される心配がありませんから、竣功後實に立派なもので、見ても心地がよろしい。然し建築業者に取つては工事に非常に不便を感ずるし、二階建等になると能率に大影響がありますから、餘程うまく監督しないと應じません。

壁の色も考へて見ないと、とんだ失敗をします。明るいがよいと云ふので白色とした爲、あまりに光が强過ぎて、眼を害した事があります。薄鼠色が何と云つても第一等です。上塗は少々單價が嵩んでも厚く付けて置きますと、年を經て汚れた時、一教室十錢のペーパーがあれば、美事に更生さす事の出來る事は、前に申上げた通りです。講堂は壯嚴であらねばならん、壯嚴には落ちついた色がよいとて、薄黑い色にした爲、出來上りがすつかり暗く、此の樣な筈ではなかつたと失望して居る人がありますが、見本に一坪や半坪位塗つたのと實際とは、思ひもよらぬ變化をするものですから、注意すべきです。此の點外側のペンキ塗と同樣です。小さな木片などに着色して、校長先生どうですかと云はれた時に、批判するだけの修養を持つて居ないと、臍を嚙むも及ばぬ事です。學校職員は建築前に所々視察して建築參考資料を集め、壁は此の色と前より、心に定めておかねばなりません。

講堂の壁面は廣いから、必ずラスを入れないと、木摺に緒苧を入れた位では、何度塗つても八つ裂になります。出來てしまつては、中々替へる事は困難ですから、篤と注意すべき事です。

性の惡い請負人は色々合法的に考へて、監督を欺かうとします。いよ〳〵落札して工事にかゝりましても、中々材料を入れません。此方では早く檢査をして、乾燥させたいと思つても、何の彼のと申して要求に應ぜず、出來るだけ期日を落し、一度に澤山の手間を入れて材料を山と積みますから、監督も忙殺されて、何とも致し方なく、夜に日をついで檢査しても中々及びません。一日二日と日を經ますと、其の樣に時間を取られては、期日に後れても自分には責任がないぞと申します。無理やりに通しまして、是が非でも竣工してしまうのです。之を土木工事者の間では突貫政策と申して居ます。これに引つかゝりでもした事なら、金は充分取られながら、よい馬鹿を見ます。

村の當局も、工事委員も、建築には素人であります。何人來て居た所で、目の前で誤間化されるのを如何ともする事が出來ません。それで工事監督の選定を誤らぬ樣に細心の配意を要します。請負者と馴合つて、そこ然るべくと云ふ態度を取られては大變です。監督室に威張り返つて、新聞等見て少しも外へ出ない樣な種類の人は、大抵怪しいと見て差支がありません。少々位給料の高いに恐れず、氣魄ある正直者を選定する事が肝要であります。

校長や首席も平面圖が讀める位が關の山で、中々立體的に讀取る事は困難ですから、大工事をする度に苦勞し拔いてきました。何とかして建築常識が得たいものだと存じます。工事中は常に工事場に出て行き、個々について見屆けて置く事が大切です。しかし工事委員でない限り、直接物申す資格が無い事を心得て居ないと、とんだ失敗を致します。相手が命知らずであるからには、中々始末が惡いのです。靜かに町村當局に進行中の工事に付いて意見を申すべきです。幸工事監督人と腹を合す事が出來ますれば、何よりです。よく相談して、出來るだけ自分の意見を入れて貰ふべきです。工事中他人の普請の樣に敬遠して居ては、實際受取つて教育する段になりまして、色々の故障が出ませう。百年の計とは行かずとも、四十年の大計です。工事のためには、他の事のすべては犧牲にするだけの度胸を持たずばなりません。

工事契約には必ず期限がついて居ますから、嚴守させる事が大切です。何彼と理窟をつけて、金は早く受取つて、仕事は後へ〳〵と殘したがります。それも亦無理からん事で、此所の工事がすめば、又一つの請負をしなくては、仕事の切れ目となります。幸直に次の工事が來れば上々ですが、左樣にうまくは行きません。それで程よい時に次の工事を契約して、

並行で工事をして行く癖があります。此の惡例を防止するために、期日迄に完成すれば奬勵金を出す事とし、若し遲れる樣な事があれば、一月何圓と罰金を取る樣最初に契約して置きますと、誠に微妙なる働をするものです。然し何程期日嚴守と申しましても、嚴冬の候の壁付けや、五月雨頃の仕上げなどは、兩者相談じて、日延べをする餘裕を持つべきです。

土木業者にはそれ〴〵の組合がありまして、獨立機關を作り、情報を集めて、何所に數萬圓の建築の議が起つて居る。何町は何萬圓の講堂建築の決議が出來た。誰の設計で何某の監督だと迄探知して、實に手際よく裁いて行つて居ますから談合と云ふ事は法の制裁により嚴禁されて居ますが、入札には入札の技術があります。徒に安く落札すると云ふ事は、損失を招くか、或は信用を害する事となるのですから、自衛手段としては最もと存じますが、惡くすると、入札前に落札高を相談したり、或は落札者が分つたり、相談に預つて入札に行つた計りで、數百圓を濡手に粟の儲をしたり、思はぬ社會惡が構成せらるゝ事となります。と申して、理事者側も請負者に死物狂の競爭をさせる事は最も下等の手段です。豫定價格より何千圓安く出來たと、坐つて居て大金儲した樣な事を手柄顔に吹聽する人も有りますが、土木業者も亦一個の商賣です。何の爲に自分の腹を切つて、緣故もない自治體に報ゆる物ぞ、必ず建築にそれだけの拔目を作るより外に案はないのですから、餘り低い者には落札させないだけの腹を作り、建築の生命を一年でも延ばす樣祈るべきであります。

入札を行つても、一番札が必ず工事をするとは定まらず、必ず、下請をさせ、又下請をさせ、一番下積の工事人は落札高より數割低い金高でやつて居るのだから、勢建築に缺陷が出來て參ります。中間に消ゆる金高は入札保證金等の關係で是非もない事とは思ひますが、所謂事業家が落札した結果だと存じます。此方面から申しますと、手間を澤山持つて居る大工の棟領が一番よいのですが、保證金の問題などで中々得られぬ事は殘念なことです。

入札の方法として一等よい事は、明朗なる隨意契約でありますが、之を許す迄の自治體の結束は中々一通りではありますまい。第二としては、書留郵便による方案です。豫め入札資格者を定め、各自日を違へて出頭を求め、設計圖、使用書を閲覽せしめ、期日を定め、郵便で入札せしめる方法です。之とて欠點もありますが、先づ安全なる方案かと存じます。

入札迄には、自治體當局と學校とが充分腹を合せて設計して、萬手落なき樣にして提出すべきです。建築業者の一番金の融通の利くのは設計外の增工事です。之には大抵の者は驚くのですが、と申して他人の請負に掛ける事も出來ず。よし掛けても、此の仲間の道德で應ずる者はなし、切羽つまつてやらねばならず、最初の遺漏に臍を嚙みまして、何とも致し方のないもの。此の點特に留意しなければなりません。

工事監督に建築計畫者を其のまゝ任用する事は、內情をよく知つて居て萬事都合のよい時も有りますが、大體に於てさうは行かないのです。如何なる老巧者と雖も、尨大なる建築の設計には必ず手落の有る物ですが、さて自分の缺點を勇敢に申出で、追加豫算を求める程の腹のある者は少いもので、工事請負人と馴合つて、何とか融通し合つて、手を合すものですが、一度この不利な馴合が出來た以上、必ず何度か繰返す性質があります。つまり情實の始まりなのです。これが其の建築の將來から見て、大變に壽命を害するものでありますから、成るべく設計者外から監督人を得度いものです。

氣の利いた設計者は、机も黑板も瓦も一々其の商號や商店を指定する事がありますから、よく活眼を光らせて參りませんと恐ろしい事が出來て來ます。商店と工事設計者の間に、指定料が約束せられる事が數多くありまして、無駄に高價な支出をしなくてはならぬときがあります。世の中には、教育者が考へて居るより外の拔け道や、金儲道がいたる所にある樣です。

教育の興隆は國家興隆の根元なりと、村力・町力を傾けて學校建築を敢行するに當り、學校當局が何も知りません、何の腹案もありません、勝手に御自由に建築下さいと云ふ全くの他人行儀では、折角の信賴に答へる所以ではありますまい。

素人ながらも一隻眼を具へ、校長の重味を示さねばなりません。校長生活十數年、到る所に大土木事業を起した私が、天下の同志諸君に學校建築易行道を說く眞意は、實に此の邊にあります。

第四　講堂

私は講堂を二度建築しました。一度は六尺間平屋で十間に十五間、一度は二階建六三間の十間に十五間のもの、更に最後は二階建六尺間百六十坪の建上つた計りで、木の香も新しい所へ赴任しました。つまりは二度半講堂建設をしたと申しても、過言ではありますまい。

二階は勿論大講堂でありますが、考へ方によりますと、今一室取る事が出來ませう。如何な講堂建築でも、階下に玄關を取る事は、明瞭でありますから、其の階上を作り、貴賓室なり、第二應接室なりを作りますと、誠に都合よいものです。只物置等に捨置く事はあまりにも勿體ないと存じます。

萬難を排しても、建築は六三間に決定する樣學校當局は腕を持つべきです。單價には大差なく、竣工しますと實に堂々ゆつたりとします。敷地の都合もありませうが、徒らに外觀にのみ捕はれたり、僅なる經費に目が眩み、毎日の生きた使用に考が及ばなかつたりしたなれば、落成式と同時に、不便な不便なと、かこたねばなりますまい。外の品物と違つて、建つたが最後一代動かす事の出來ぬ運命を持つて居ますから、校長たる者は重大なる責任を負うて居ます。理事者は建上れば、偉觀だ、善美の殿堂だと喜んで居れば、それで滿足は出來ませうが、童師全體何十年の不便を何としませう。

例へば玄關を北向や、南向の建築としますと、晩春から初秋にかけては、强烈な西日の直射を廣い面積に受けますから、電扇でも用意しなかつたら困つてしまつて、凡ての會合は雨天で無い限り午前中と云ふ、利用價値の薄い講堂となつてしまひませう。まして二階建となりますと、階下には二間幅の廊下を取らねばなりませんから、少し曇つた日になると、朝から點燈せねば用が便ぜられぬと云ふ、思ひもかけぬ事が起つて參ります。暗ければ點燈すればよいと云ふ理窟ですが、年中の經費を何としませう。年中の陰氣さを何として逃れますか。まだ陰鬱さは辛抱出來ても、冬が來た時、西側や北側の各室の寒さをどう致しますか。これこそ耐へられぬ結果になつしまひます。心すべき事です。

さて講堂の廣さはどれ位がよいか、これが建築の原案には最も大切な基本條件となります。私は度々の經驗より、百五六十坪あれば、千五百人位迄は大丈夫である事を確信して居ます。人數が增せば增す程、坪數の多い建築をすればよい樣なものですが、百五十坪を越せば、大抵の人の聲では一時間持ちこたへる事が出來ません。擴聲器でも備へつければよろしいが、マイクの聲では人を感動さす事が中々困難です。二千人にも餘る樣なれば、式日などでも二組に分けるがよろしい。一度に入場さすなどと、窮窟なる考を起してはなりません。

講堂の正面には奉置所を作り、奉安殿より奉遷する樣內部に奉揭臺を備え、紫に御紋を刺繡した水引を引き、扉は白木の檜とし、外には更に白羽二重のチリ〳〵カーテンを作り、これ等を全部保護する大戸を入れ、平常は其の外に緞帳を下しますと誠に神々しいものです。四大節には御影を奉揭臺に奉揭し、チリチリカーテンを下し、大戸も緞帳も全部開けて置きます。君が代の合唱裏に校長は謹みてチリ〳〵カーテンを卷上ければそれでよろしい。

ステージは間口十間の講堂なれば、二間に六間位の廣さにしないと學藝會に困ります。大緞帳を作るとなりますと、工事落成後では間に合ひません。まだ壁を塗らぬ內に工事監督者とよく打合せて、兩側の柱に丁度ステージの前へたれ下る樣鐵か眞鍮の輪を至極丈夫に打込みまして、柱の外側からたしかに止めて置くとよろしい。ステージには演壇と花臺が必要ですが、あまり鮮な色彩は森嚴さを害しますから、周圍と調和した、飾の少い淸楚なものに限ります。

來資用には二尺に六尺の三方覆のある机を作りますと、整然として來ます。前の覆の無いものですと、別に又机掛が必要になりますから、注意すべきです。十脚も作つて置けば、平常の小會合にも色々と役に立ちます。

兒童用腰掛は、低中高の三種として、子供の身長に應じてやらねばなりません。過つて一種の物など作りますと、少しの時間にも姿勢は崩れてしまひます。五尺物にすれば四人、六尺物にすれば五人掛けられますから、百五十坪に二百五十脚入れるとしますと、二百十人の收容人員の差を生じますから、よく考へないと大變な損失をします。十間間口なれば、六尺物八脚は大丈夫です。たゞし中央に通路を開けて、左右に四脚づつつめて列べるのです。五尺物にすれば二脚づゝ突合せて四列として八脚入れる事が出來まして、通りも三條取る事は出來ますが、一脚に一人づゝ收容人員が減ずる事は何とも仕方がありません。數は常に八脚列べなれば八の倍數、六脚列べなれば六の倍數とする事を忘れますと、全く體裁が惡くなります。腰掛には筆記臺を盡く附けるがよろしい。注文する時に思ひ切つて使用書に入れておきますと、筆記臺の無い物と大差ない價で落札するものですから、校長としては特に心得ておかねばならぬ事です。色は黑では室全體が陰氣になりますから、茶系統として明朗色を出すがよろしい。

唱歌教室に代用する所では、一間の衝立を十個位作りまして、二方を圍みますと、誠に都合のよい物です。此の衝立は來資用の机と合せて、小會合所を作るに限りなく便利な物となります。

腰掛の天板と同長同幅の蒲團を作りますと、冬の會合等都合がよく、何でもない樣な此の心遣ひが、どれ位會合を和やかにするか知れません。和の工作は實に意外な機微の點に存しまして、口先だけの和合協力等は何の役にも立ちません。

次に忘れ易い事で、然も忘れては一大事な事は、活動寫眞用の動力線のスイッチやラヂオのスイッチ、さては職員室や小使室に通ずるベルのボタンは、壁を塗らぬ内に決定して置かないと、隱蔽工事に間に合はず、露出線を引廻して、實に見苦しいものになつてしまひます。講堂から小使を呼ぶ事は思の外度々あるものです。式日など職員席の後の一個が何程役に立つか知れません。

次は講堂利用の方面から述べて見ませう。數萬圓を投じて作つた此の講堂を、只四大節のみに使用して他は大切に保存するのだと稱へて其の儘とし、利用方案を考へぬ方もありますが、これは實に誤つた考へ方でせう。かゝる使ひ方をすれば、四十年使つたとて何度使用するのでせう。全く罰が當ります。と申して何でも彼でも無定見に使つては、講堂としての敬虔さを失つてしまひます。

全校校長より給仕・小使に到るまで、講堂に於ける禮法を定めなければなりません。何時如何なる用件にて入・退場するも、奉置所に向つて敬禮の誠を盡すべきです。殊に壇上に上る時は、人の有無を考慮に入れず、奉置所に直面して最敬禮する事が、其の校の無言の掟として、同志が一人殘らず行ずるのでなかつたなれば、道は決して榮えません。

平常は毎月一回低學年と高學年の別を作り、校長が講堂修身をなし、校訓を中心として時事問題に觸れて行きますと、訓練は凛と引きしまつて來ます。校長の講堂修身を受ける時、擔任は必ず謹んで拜聽すべきです。よい命の洗濯時間だなどと考へて、職員室で雜談したり、講堂へ來ても居眠して居る樣では、子供は何んで本氣でき〻ませう。師の威儀を正し給ふ所、子供も亦自ら靜中に動が躍ります。自己學級に歸れば、必ず擔任は其の日の要旨を學級化して、眞に徹底せしめる必要があります。

何年か前の事です、宅の子供が學校から歸つて來まして、何かの話の序に今日講堂修身が有つた事が分りましたから、一度試してやらうと思ひまして

「どなたが話して下さつたか。」

「それは校長先生よ。」

「どの様な御話であつたか。」

「私、何だか知らぬが、校長先生、言うて〳〵して居ました。」

「それではいけない、折角の御話何故よく聞きませんか。」

「それでも私尻は痛いし、御隣の花子様が手を引張るもの、だからそればかり氣になつて、何にも知らんのよ。」

と、尋常三年の子供が申します。斯う話せばわからう、此の例を取れば子供の爲になるだらうと、調査研究して下さつた御話が「言うて、言うてして居つた」と云ふだけの結果になり果ててはたまらない。校長たるもの大に自戒しなければなりません。

訓話の要領は、其の日の要點を明瞭にし、話は簡單化するのが第一です。長くいはないと校長としての沽券にかゝるなどといらざる所に力を入れては、いよ〳〵其の校長先生の沽券が臺なしになります。何も一時間話拔かねばならんといふ御規則があるではなし、平常の授業とは其の意味を異にして居ます。本質を考へねばなりません。剩餘の時間がありましたら、各擔任は自己の教室に入れて、其の日の要點の徹底を計ればよろしい。

月に一度は學年別に講堂に集めて、學年講堂訓話をすれば、訓育上非常に有益であります。只校長のみがするのではなく、學年主任が前以つて要領を立案、校長の檢閲を受けたものを話すべきです。學校が大きくなれば、學年統一が次第に薄れて來て、學年の中心を失ふ樣な事が度々出來て參ります。

講堂の入・退場について自分勝手の行動を許しては、講堂へ集合した意味を失つてしまひます。徹頭徹尾嚴肅敬虔の念を失しては、講堂の存在さへが不必要となります。其の學校の校舍と講堂との位置の關係、廣さ、腰掛の高さや配列を考慮に入れて、入室順序・退室順序・着席の位置を定めておいたなれば、何の故障もなく滑かに出來まして、外來者など何故だらうと呆れる程です。道の根源は此所にも見出され、靜の學校の要領は何でもない一つの申合せによつて、一つ一つと盛上つて來ます。

儀式を完全にやり遂げ度いと思へば、先づ子供の豫行演習をする前に、校長の訓導の心の豫行が大切です。徒らに其の日になりまして、騷がしい、亂雜だ、前へ向け、話聲がすると、躍起になつた所で、所詮は威壓の式、冷たい刑務所の樣な式と成果てゝ、側目は靜で、敬虔の樣であつても、心は恐ろしく反對の方向に走り、式日を嫌ひ、早くすめばよいと只時間をのみ待つ憐れな一日となりませう。

私の學校では前日左の役割を定めまして、式前の準備を整へて歸り、心靜に當日を待ちます。式場、本館各室、玄關廊下控所及び昇降口。當日には、入・退場（指揮、座席、繰出）儀式（勅語、順序、樂器、タクト、警護）式場準備（御影並に勅語、式場準備及び後始末、標札）裝飾、接待、兒童監護、來賓案内の諸係を作りまして、二千の兒童、五十の職員、數十名の來賓が、靜肅整然と敬虔の念に滿ち〳〵て、擧式が出來る樣にして居ます。事前の用意こそ凡てを圓滑ならしめる最善の秘術であります。

次は校長の訓話・誨告ですが、要領を得た簡明なものが一番です。小學校の校長程理窟の高い、話の長い者はないと世間から笑はれて居ます。實際に則し、其の要點を諭すべきです。低學年にありては五分、高學年にありては十分を越してはなりません。故に心の準備は實に非常なもので、いかにすれば兒童の心琴に觸れるやと、ひたすら案を練るべきです。私の樣な愚な者は此の爲に常に數日を費します。間違つても來會者や職員相手の誨告をしてはなりません。肝心の兒童を何としませう。常に眼前の子供が納得の色を童心に浮べる事を見取らねば、失敗と心得て宜しい。式全體としては低學年

は十五分、高學年は三十分を以つて限度としなければ、式らしい式は出來ません。此の樣になつて來ますと、前日の打合せが實に重大なる意味を持ちます。擔任各位が今日は豫行演習だと云ふ氣持で掛りますと、その心の緩みは忽ちにして兒童に響きます。童師共に一生懸命の豫行でなくてはなりません。例へば師が隣席同志私語して見たり、笑つて見たり、居眠して居た時には、何程掛りの方が努力せられても、其の結果はよろしかるべき筈がありません。殊に唱歌の折などは、率先指揮者に從つて行ずべきです。今日は子供の準備だ、教師は監督役だと考へて、唱歌など子供が歌つて直して戴けと云ふ氣分が有る所では、何年經つても本統の式は出來るものではありません。

私は今無號令の式を考へて居ります。自覺ある者の集合でありながら、一々指揮を受けないと、最敬禮さへ出來ないとなれば何としませう。左樣な子供を作りましたなれば、此の學校を離れました節、東に向いて自らの心に從ひ皇居の遙拜も出來ない人になりはしますまいか。靜かに然も悠々と行ずべき事を行じ切る日本人を作るには、無號令の實現を樂しんで待つて居ます。同志の中にはもう出來ますと賴もしい事を申しては下さいますが、禮を失せば罪、死に値します。必ず果し得ると云ふ校長自身の自信の付く迄時を待つて居る次第です。或は本書が天下の同志諸君の御手許に參ります頃には、やつと會心の笑を漏して居る頃ではないかと、密に心待ちして居ます。と申すと、それは不可能事だと申さるる方も萬一御ありかも存じませんが、私は前任校に於て、二十二學級一千の兒童に長らく實行しまして、必ず出來ると云ふ堅い信念を持つて居ます。

講堂は只家の建築のみで講堂成れりと喜んで居る間は、實に御芽出たき次第です。本統の落成は其の學園の童師の心の落成が何より第一であります。數萬金を投じた大建築も、我等の誠を顯現し易かれと、市町村が親心から建築された物であります。破れ教室や、窮窟なる急造の講堂で擧式して居た頃より、數段、數十段の光が子供に教師に添つて來るのでなかつたなれば、地方民數十年の負擔が凡そ意味のないものになりませう。師たる者の先づ自覺しなくてはならぬ大問題です。

第五　校長室

二階建講堂は何といつても、東に正玄關を持ち、中央廊下を東西に取り、東西が南北より長い物に限ります。階下には南側に應接室・校長室・職員室・更衣室、北側には會議室(平常には圖書室)・校具室・宿直室・印刷室等を作ると、平常事務を取る方へは常に日光が當り、明朗にして、冬は暖に、夏は涼しく、理想的間取となります。

校長室は一校の腦中樞であります。凡てが此所に集り、凡てが此處より發します。若し一寸の隙でも生じたなれば、學校と云ふ生命體は、中風症に侵された病人の樣に、よち〳〵經營と成下らねばなりません。

四間に四間の間が欲しいが、出來ねば三間に四間で辛抱すべきでせう。出入口は一間の兩開戸とし、大きな物の出入を便にし、兩側にある職員室と應接室へ通ずる片開の通ひ口が必要です。調度品には出入口に一間の衝立を作り、傘置・帽子掛迄附屬させるとよろしい。學校中で一番大切な公簿は非常持出箱を作り、一箇學年一種類一組として縱に納め得る樣にし、平常には手探りにても用が足せるし、非常時には誰が走込んで來ても、第一番に持出しが出來る樣標識を付けるとよろしい。勿論二人よく一個の搬出が出來る樣にするには、高さ三尺、幅二尺、奧行は美濃表紙が入る事が出來る位として、六個一組とすべきです。重要公簿は責任上からも常に手近く保管しておくべきものです。

書類整理戸棚は三重、上の方へは一寸位の高さの棚を數多く作り、見出をつけて重ねて置かぬ樣にしないと、日常事を便ずるに困りませう。下の方は部厚な帳面の保存に便にするため、棚數も少くします。

校長机には相當工夫を要します。一つ〳〵鍵を下す抽出を澤山作りますと、毎日事を便ずる上に大變な損失を繰返しま

すから、一處錠を下せばよい開戸にして、內に澤山の棚を作りますと、思ひの外便利となります。

氣安い來客や幹部會などに使ふ圓卓は、利用價値の多い物故、作ると便宜であります。

照明は裝飾を兼ねた小集會に使ふ物が必要ですが、平常は卓上の物を備へますと、萬事都合がよろしい。電燈、ラヂオ、電氣時計のスイッチや、職員室・小使室への呼鈴のボタン、電話線等の配線工事は隱蔽工事が出來る樣計畫しないと、臍を嚙む事が必ず參ります。

電話は職員室や、應接室や、小使室や、宿直室では不都合が起りますから、必ず校長室の職員室へ近い所に取付け、兩室から片開きの戸で入れる樣設備し、宿直室へは呼び鈴を連接するがよろしい。校長としては居ながらにして學校內全部の事が眼に入り、耳に入る樣にせねば、人數が增せば增す程、事が複雜して、思はぬ部面から障害が起ります。

職員の出務札は必ず校長室に備へるとよろしい。數多い職員の勤怠や、登校、下校が一覽出來ずに、學校經營出來たりなどと安心して居ると、必ず其の一角に龜裂を生じて居ます。私は常に此の出務札によつて、職員諸君の動勢狀況を居ながらに知り、學校其の日の動向を察知してゐます。

壁間には洋畫の一つも飾り、四時花を斷たぬ花生や、時を得た盆栽を置くだけの心得が出來ますと、校內は必ず和やかになります。此所に注意すべきは、不注意なる校長が花生けや一輪指を澤山作りますと、女教員諸君は次第と憂鬱になります。花を挿す時間よりは、補ふ切り花に困り、終には自腹を切らねばならぬ羽目が來るからです。私は百性ですから、自宅の溫室から、自分の花壇から、自分の室に餘る位は每週持つて參りますが、學校園でも計畫的に四時校內に供給し得るだけの花は育てて居ます。校內の和の尖端は此の邊に迄も觸手があります。

圖書などは圖書室か職員室へ移すべきです。やれ參考書といふ時に、校長室まで閲覽に來なければならぬやうにします

と次第に圖書の利用が少くなります。圖書の利用の少き事は忽ち何れの方面に其の損失が廻りませう。三省すべき事です。人によりますと校長室など無用の長物だ、此處で校長が每日每時頑張つて居る樣では、其の校の教育狀況は知れてゐると豪語する勇敢の方もありますが、私は其の說は取りません。如何にも校長は職員と共に校內の現狀を熟知する必要があり、校內巡視の必要もありますが、校長が獨自の計畫をなし、靜かに物を考る場所が大切です。五十に近い職員と四十幾つの學級を動かさんとするに際し、沈思默考する學校の腦中樞としての源泉が何故不必要なのかと問ひ度いのです。殊には外來人の接觸、職員個々の面接、校內小委員會の開設等使用の方案は日々盡きる物ではありません。

地方には必ず有志と自稱して用件もないのに學校に來り、職員の誰彼を捕へて雜談相手に引出したり、人に聞けがしに校長や職員の惡口雜言などする困つた人が有りますが、其の日の仕事に寸時を惜しむ教員諸君には、此の上もない邪魔者です。かゝる時には校長室の利用が實に効果的です。どうぞと校長室の椅子に導けば、流石に校長の面前では事は容易に運ばれて、簡單に終を告げるものです。

年行事、月行事豫定板と小黑板を備へて、其の時〳〵の記事を記入して行くと、多忙のために忘れたなどと騷ぐ事がなくなりまして、誠に都合のよいものです。

校長室で思ひ出す事は職員諸君の長上に對する禮の不行屆きの事です。私達の若い頃は校長先生より先に出勤して、校長が下校せられてから歸途についたものですが、時代の流はいつの間にか其の樣な謙讓さは洗ひ去つて、日雇人根性に成下り、時間さへ來れば、長上が居ようが御自分の仕事がどうなつて居ようと、さつさと歸つて行かれます。まるで少く働いて、多く儲ける事のみに專念して居る樣です。さて下校するとなつても別に挨拶するでもなし、勝手に消えて無くなるといふ有樣、校長や首席は最後迄殘つて後片付け迄せねば、安心してまかせ切れない情けない世の中が出來上つてしまつ

たのを自他共に不思議とも思はず毎日〳〵過して居ます。此のまゝにて推移したなれば、他の社會は論外としても、我等の學園に道義がすたります。斯く申せば、官僚校長の標本の樣に思はれるかとも存じますが、此の際決然として斷切り、勇氣を振つて、師道肅振を計らねば、末が恐ろしいのです。

兒童の無禮さを嘆く前に、教員自らが禮にかなはねば道は行はれますまい。口舌の雄果して何をか爲し得る者ぞ、であります。直屬の長たる校長室に入つて、正しい禮が出來て居ますか。校長の前へ進まれたなれば、どうされるのがよいのですか。朝夕の挨拶はどうされて居ますか。

「御早う御座います。」

「結構なる御天氣です。」とか

「御先へ失禮させて戴きます。」

「左樣なら」位いへば罰が當るのでせうか。まして遲刻をしたり、早退する時

「御手間致しました。本日は頭痛がしまして。」とか

「甚だ相濟みませんが、本日は腹痛が甚だしいので、早退させて戴きます。」

位の事が何で云へないのでせう。諸君の學級で兒童がだまつて歸つたり、遲刻しても、何の理由も云はぬ者がありましたなら、何と申されます事でせう。兒童に求める處を嚴にし、自らは緩でありましたなれば、其の人の教育力は知れたものです。又出張を命ぜられた時は、出發に當つて、何の目的で何日より何れの方面へ參りますと申出で、歸任の上はよし半日の出張でも、其の要點を報告せなければならぬ作法を知つて居られませうか。

年末賞與を戴いたり、或は增俸のあつた時は、校長としては職員代表して當局に御禮に參上し、部下教員の爲に御上の特別の御配意に、誠もて感謝すべきであります。我校の訓導は各々よく精勵す、故に賞與も增俸も當然なり、むしろ權利なりと嘯く校長がありとしますと、一見、誠に壯の樣ではありますが、私達の道を樂しむ者から拜見しますと、笑止の沙汰です。かゝる心得の校長の下には、訓導も其所を得ず、增俸が遲いの、誰よりは遲れたの、賞與が思つたより少いのと、自己の力量も測らず、校長の不公平をかこつ不心得者が、其の足元に滿ち〳〵て居ることでせう。

「昨日は增俸して下さいまして、有がたう御座いました。」

「昨日は賞與戴きまして有難う御座いました。」

云切る事の出來る者がないと云ふ學園は道に勵む者の眼からは見て居られない慘狀で、師道地に落ちた感を深うします。

此の人間的破產に近い現代教員氣質を此の眼に見、此の耳に聞いて只憤慨した處で何にもならない事で、速に親心を持つて教へるより外に道はありますまい。かゝる教員を一日も早く救う事ができると、一日早く兒童を救ひ得る理であります。勿論校長は自分の財布より賞與し增俸したのではありませんが、當局より學校を預つてゐる身、此の一校の長に感謝する事は、延いては御上に申上げる理を心得させて、常に乏しき自らに斯く報いらるゝは限りなき有難い事である、と、感恩の念を表はさねばなりません。

校長が職員より感謝を受けるは無意味なり、官僚の眞似なりと論ずる者は、部下を教へる親心なき人です。自己の預る學園を、道の行はるゝ道場たらしめる念願のない、教育者に似て教育者たらざる人であります。校長も訓導も肅然として禮をつくすこそ、師たる者の常道であり、人たる價値の表現と思ひます。

然しながら、無理に求めては感謝に似て內に反抗を藏する嫌な物になりますから、よく訓導各位の理會に訴へ、誠をつくして師の道を踏ませなくてはなりません。